

KWANSEI
GRAND
CHALLENGE
2039



将来構想

Kwansei Grand Challenge 2039

超長期ビジョン・長期戦略

中期総合経営計画

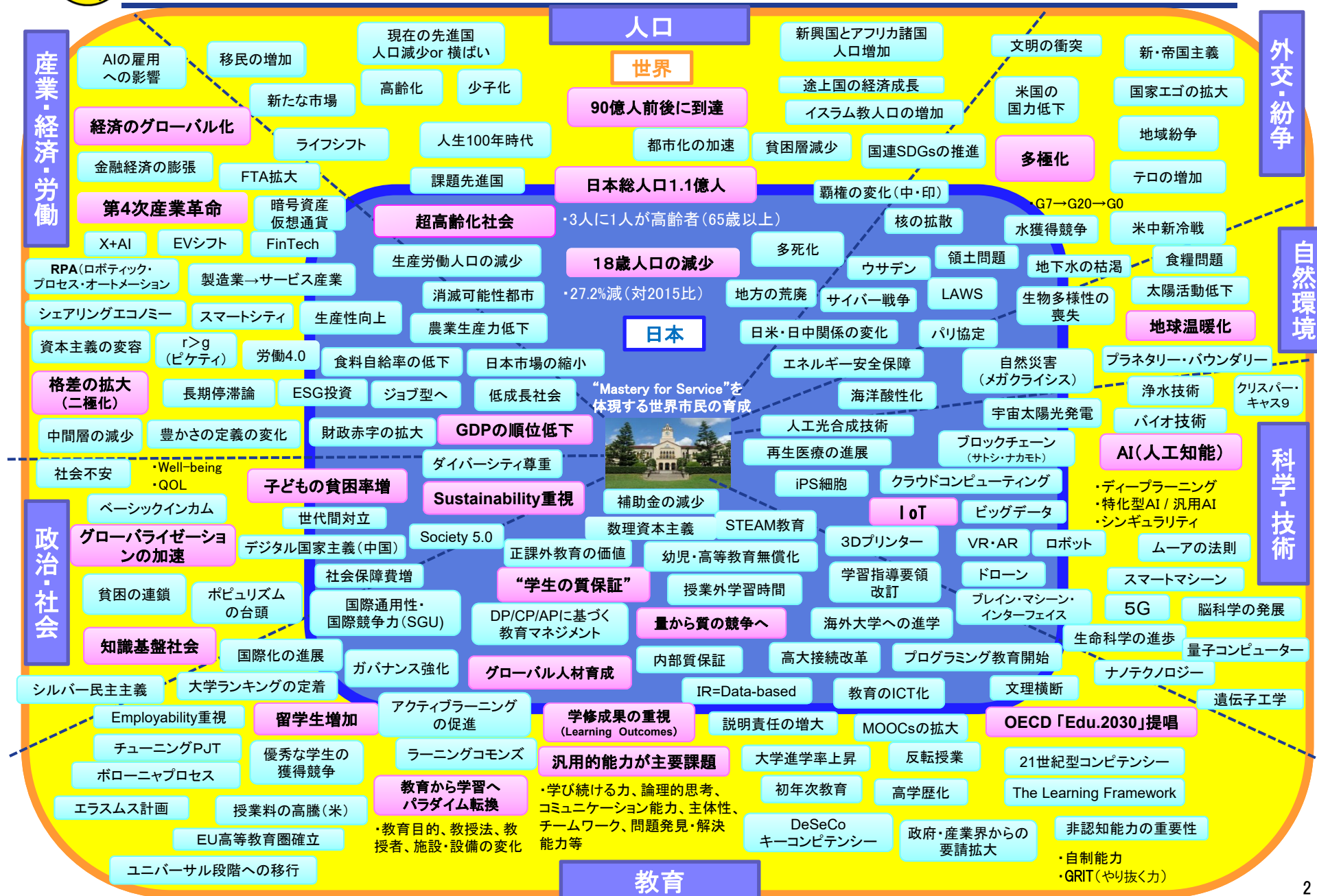
2019年度進捗報告《抄録》

2020年9月30日
総合企画部
部長 小野 宏



未来予測 (2039年の世界・日本)

関西学院
総合企画部作成
2019年10月1日版





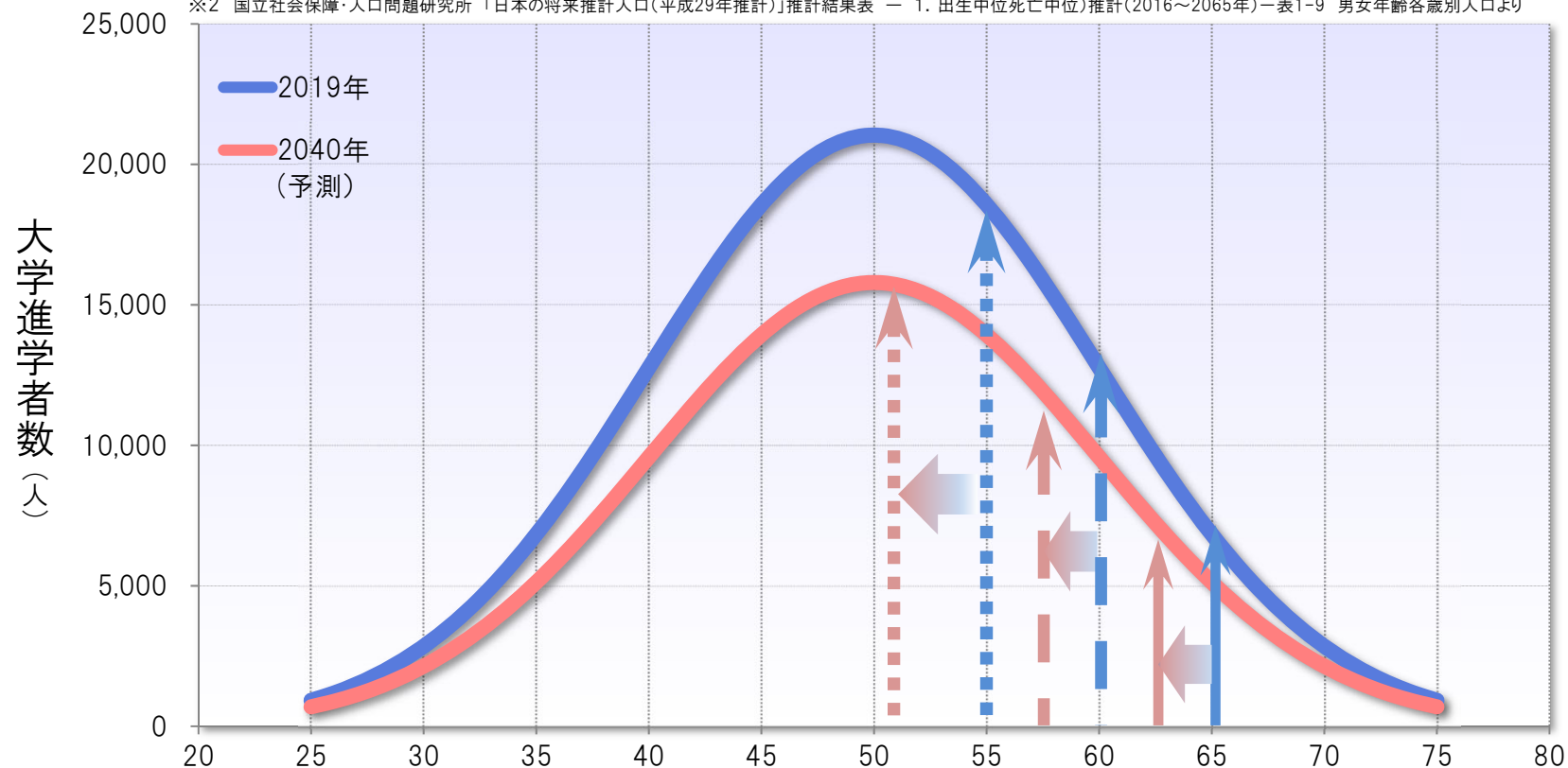
人口動態—大学進学者数シミュレーション

(参考シミュレーション)	2019年度	2030年度(予測)	2040年度(予測)
18歳人口	1,174,801人※1	1,025,316人※3	881,782人※3
大学進学者 (高等学校卒業者及び中等教育学校後期課程卒業者のうち大学(学部)進学者)	527,457人※2	460,366人	395,920人
進学率(浪人を除く) (大学進学者数/18歳人口)	44.9%	→ 2019年横ばい	→ 2019横ばい

(出典) ※1 学校調査—3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期終了者数

※1 学校調査(令和元年 学校基本調査(確定値)公表より)—平成31年3月高等学校卒業生及び中等教育学校後期課程卒業者のうち大学(学部)進学者

※2 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」推計結果表 — 1. 出生中位死亡中位推計(2016~2065年)—表1-9 男女年齢各歳別人口より



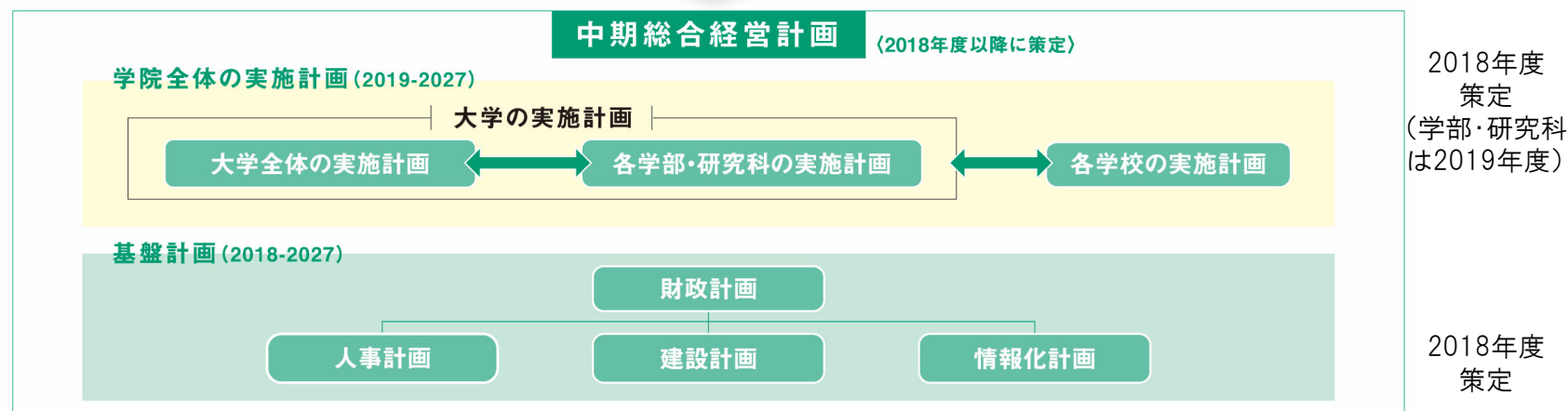
※2019年の出生数は、86万4千人と急減し、推計を大きく下回っている。

偏差値



関西学院 将来構想の全体像

Kwansei Grand Challenge 2039





長期戦略の全体像と主たる目標

建学の精神

キリスト教主義に基づく全人教育

ミッション

“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成

長期戦略の
主たる目標

卒業後の成果

真に豊かな人生

「強さと品位」を備えた卒業生が、
さまざまな分野で活躍し、隣人・社会・世界に貢献する

卒業段階での成果

質の高い就労

学生が自ら希望する最適な就職・進路へ踏み出す

学生の質の保証

「学生の質」に対する社会の信頼を高める

在籍時の成果

学修成果の修得

学生が身に付けるべき学修成果を厳格に評価する

総合学園と一貫教育

学士課程教育

大学院教育

研究

共通テーマ

国際化

共通テーマ

産官学連携

KSCでのイノベーション推進

特長ある一貫教育の創出

国際化の推進

アイデンティティの共有

内部進学者の増加

「総合学園」の枠組み再構築

学修成果の把握・評価

教育の長期的成果の検証

カリキュラムの基本構造の改革

「柔軟な学位プログラム」の検討

教育分野の再編

国際化の推進

国連等との連携強化

正課外教育の推進

教員個人・組織の教育力向上

ICTによる教育・学修支援

対面的なコミュニケーションの促進

学修支援の充実

学生生活支援の充実

多様性と学力の担保（受入）

研究者の輩出

理系研究室の充実

高度職業人の養成

自学出身研究者比率の増加

個別研究の活性化

研究ブランドの確立

学校経営

財政

積極的な投資と
強固な財政基盤の確立
新規事業の財源確保

人事

人事政策の確立（教員）
人事政策の確立（職員）

建設

施設建設・設備整備計画

情報化

革新的な情報環境の構築

マネジメント

Evidence-based
Managementの推進
二つのPDCAサイクルの統合

ガバナンス改革の継続
ブランドの構築
地域に密着したキャンパス
学生規模
卒業生との連携



長期戦略の全体像と主たる目標

長期戦略の
冊子より

学修成果の修得、学生の質の保証、質の高い就労

卒業生がこれからの時代に「真に豊かな人生」を送るためには、幅広い教養や専門分野の知識に加え、「主体性・タフネス・多様性への理解※」や学び続ける力、論理的思考力、コミュニケーション力、チームワーク力等の汎用的能力、倫理に基づく価値観や人間性、自律的に行動する資質が求められる。

学生は社会で活躍するための知識・能力・資質を卒業までにしっかりと身に付け（学修成果の修得）、大学はそれを保証する仕組みを確立すること（学生の質の保証）、その信頼性の高さによって学生は自らが望む就職・進路を実現させる（質の高い就労）。すべての長期戦略をこの目標に向けて収斂させる。

※ 本学がスーパーグローバル大学創成支援（SGU）に採択された構想で提示



1. 学士課程

社会や世界に貢献して「真に豊かな人生」を
送るための基盤を創る



1-(1).教育の長期的成果の検証～学修成果を把握・評価～

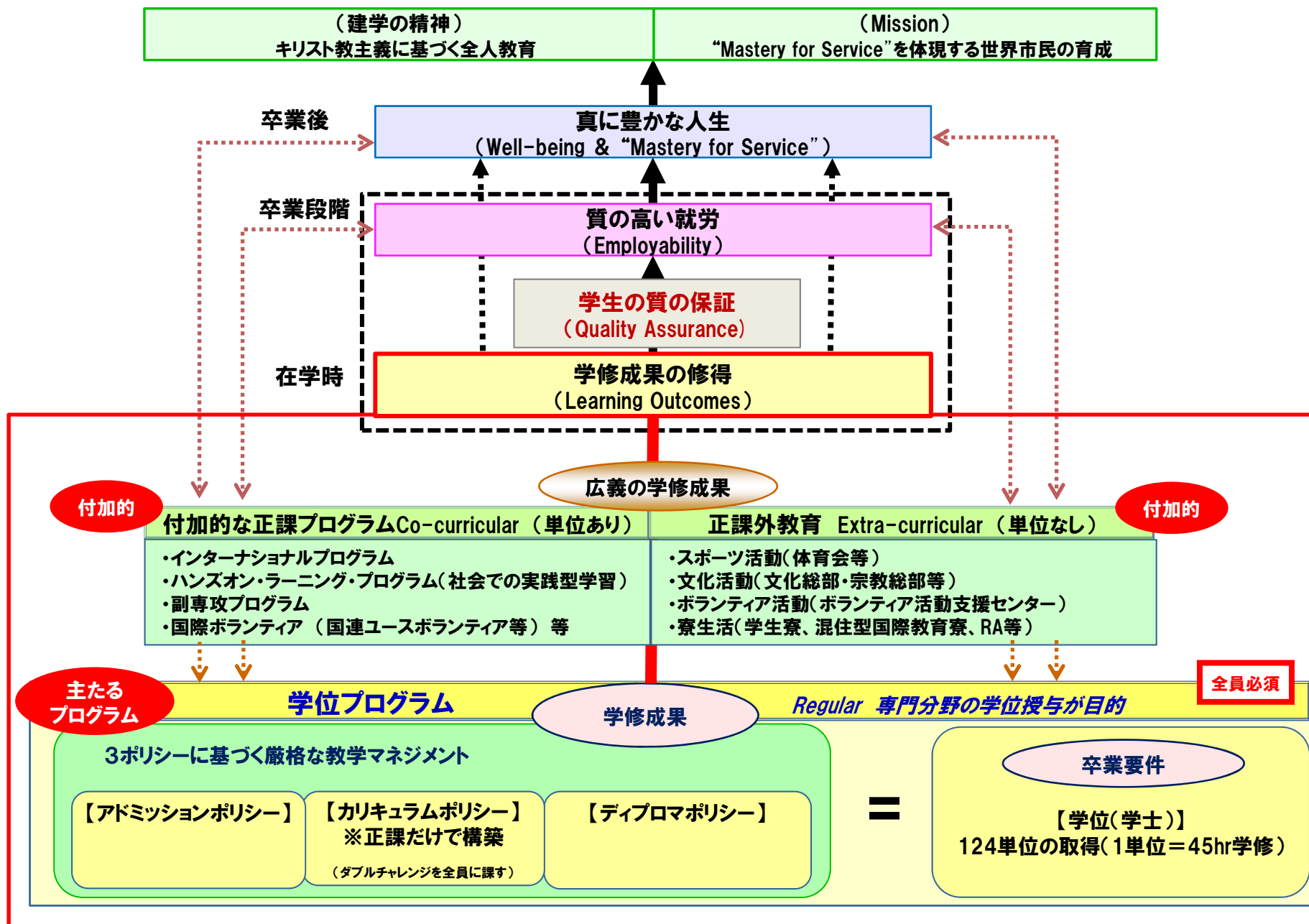
長期戦略の
冊子より

「真に豊かな人生」につながる教育成果の検証

在籍時の学修成果の修得に加えて、卒業段階での就職・進路決定、卒業後の「真に豊かな人生」の三つの段階・視点で教育の成果の包括的な検証に取り組む。そのための指標を開発・設定し、成果を可視化する。



1-(1).学修成果の修得、学生の質の保証、質の高い就労





1-(1)-①.「Kwansei コンピテンシー」の策定

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としています。その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の違いなく共通に身に付けるべき知識・能力・資質を「Kwanseiコンピテンシー」と定め、これを大学の教育に通底するものとして位置づけます。

「Kwanseiコンピテンシー」は、各学部の教育課程やそれを補完する全学科目等の「正課教育」だけでなく、クラブでのスポーツ・文化・芸術活動、ボランティア活動、寮生活等の「正課外教育」、さらには友人関係、教員・職員との交流、キャンパスの豊かな自然も含めた大学の多様な「環境」によっても育まれます。

(知識／Knowledge)

- 幅広い知識・深い専門性
- 多様性への理解

(資質／Quality of Character)

- 困難を乗り越える粘り強さ
- よりよい社会に変革する情熱
- 誠実さと品位

(能力／Skills)

- 論理的な思考力
- 主体的に行動する力
- 生涯にわたって学び続ける力
- 豊かな人間関係を築く力
- 対立する価値を調整する力

関西学院は、幼稚園から大学・大学院までの教育を通じて、この学院に学ぶすべての者がこれらのコンピテンシーを段階的に身に付け、高めていくことをめざします。



1-(1)-①.Kwansei コンピテンシー



Kwansei
コンピテンシー





1-(1)-④.高等教育推進センターが実施する調査

在学時調査

※2年次、4年次の★は、全学部ではなく学部判断で実施する。



卒業後調査 (卒業生調査)



- 「入学時調査」「学生調査」「学修行動と授業に関する調査」「卒業生調査」は、2017年度から回答者が紐付く記名式で実施。
- 2018年度卒業生から、新たに「卒業時調査」を実施。**（回収率2018年度約90%、2019年度約33%）
- 各調査には「Kwanseiコンピテンシー」を調査項目として取り入れている。
- 2019年度から、「卒業生調査」の対象を「78歳程度まで」に拡大して実施。**（回収率29%）
- 2019年度から、新たに無記名の「学生生活アンケート」を実施。

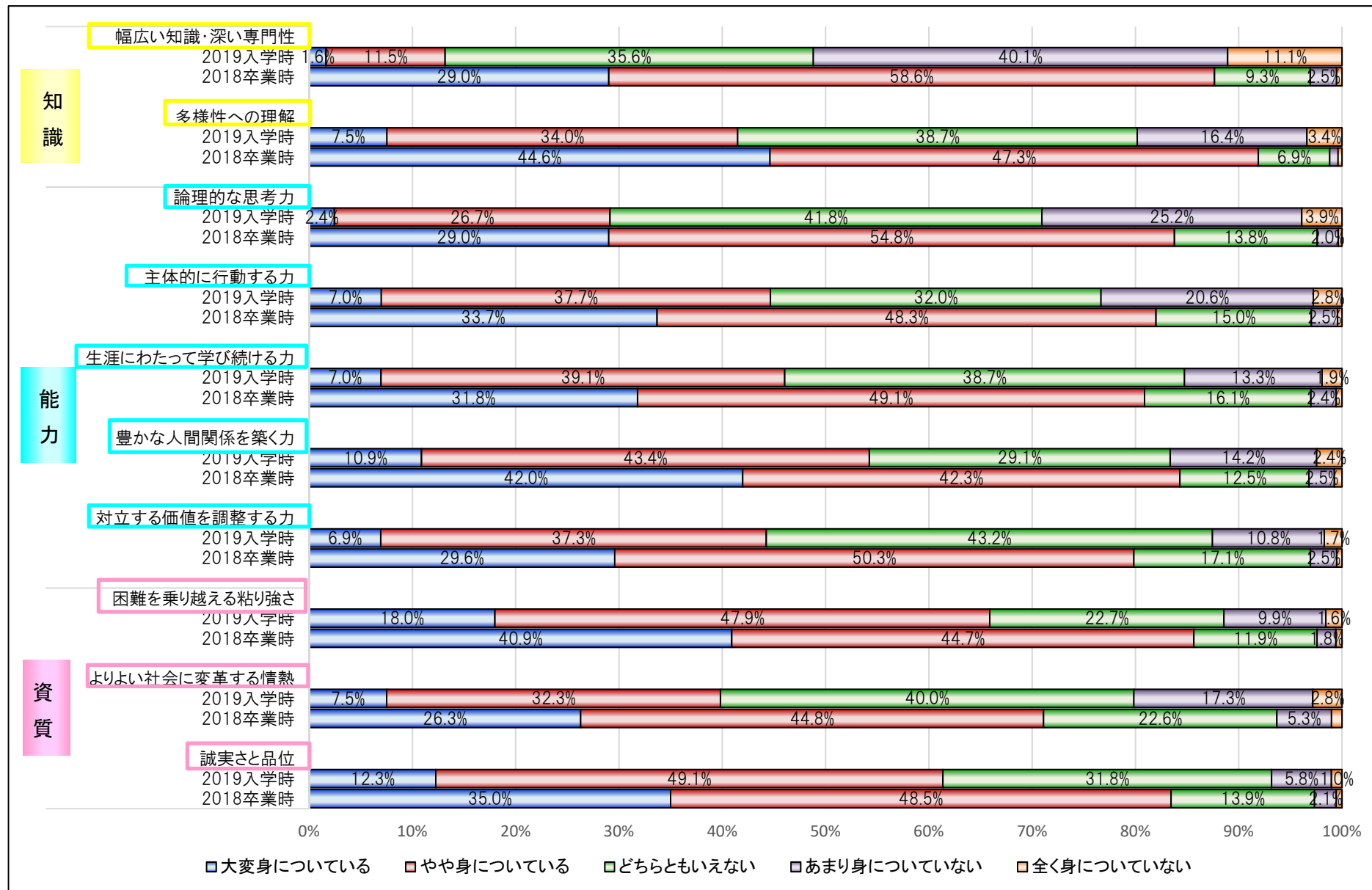


1-(1)-④「Kwansei コンピテンシー」の獲得状況

2019
年度

質問項目「現在、次のような知識・能力・資質がどの程度身についていますか」

＜2018年度卒業時調査（2019年3月実施）＞ と＜2019年度入学時調査（2019年4月実施）＞ の比較





1-(3).カリキュラムの基本構造の改革

長期戦略の
冊子より

「Kwanseiコンピテンシー」を身に付ける基盤教育の確立

全ての関学生が学部との区別なく卒業段階で共通して身に付けておくべき知識・能力・資質を「Kwanseiコンピテンシー」として定め、その修得のためキリスト教、スタディスキル、言語、ダブルチャレンジ※、数理・データサイエンス等の科目を基盤教育として全学生が学ぶ仕組みを検討する。

※所属学部の学びに加え、留学やハンズオン・ラーニング（社会での実践型学習）などに挑戦する独自の教育システム

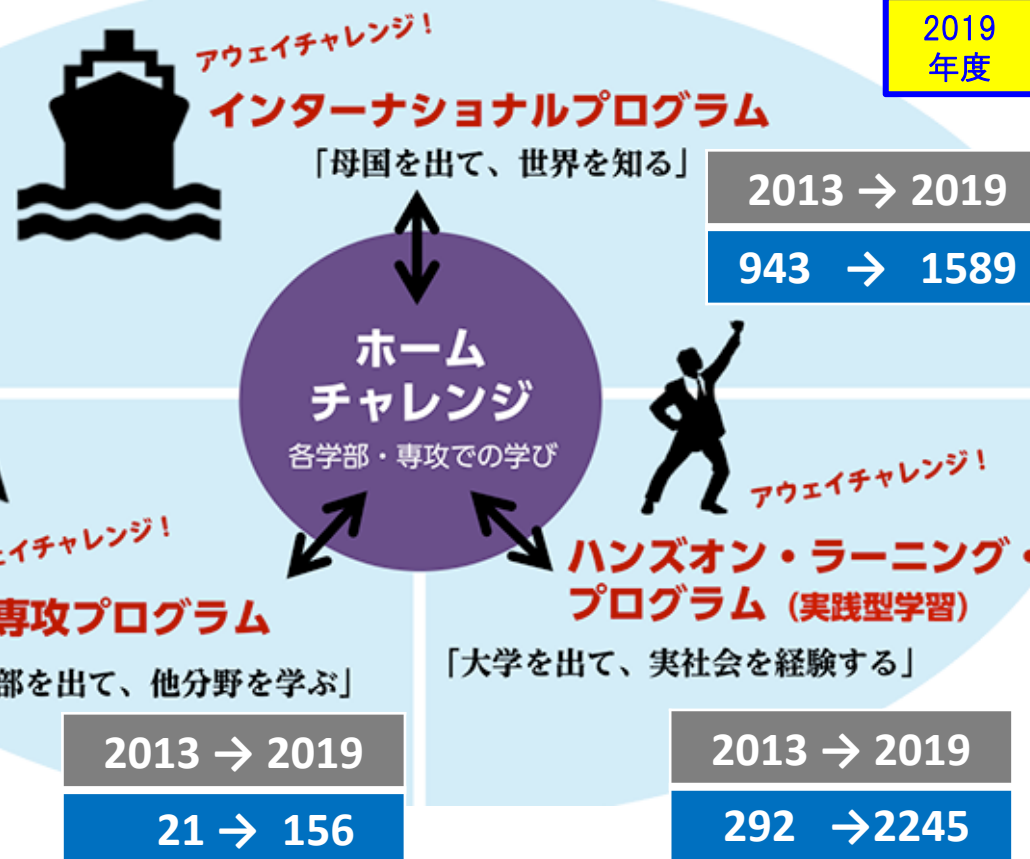
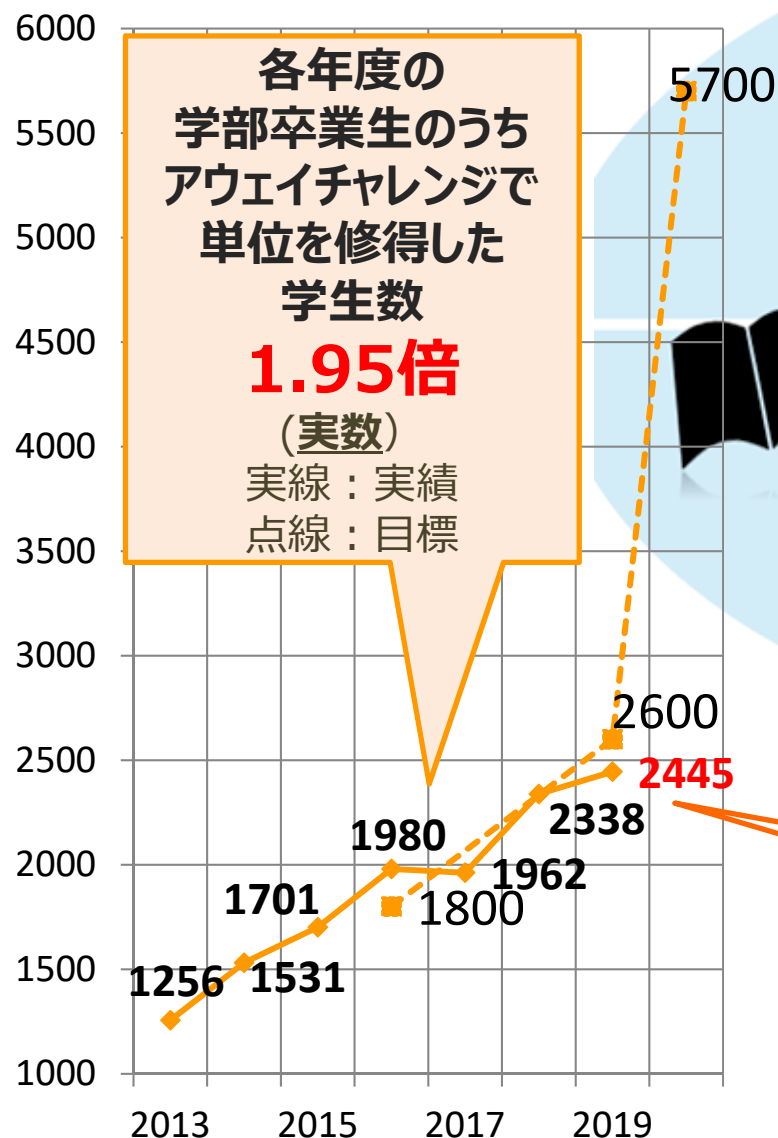
- ・「卒業時調査」「入学時調査」で「Kwansei コンピテンシー」の獲得に関する検証を開始



1-(3).全学生が挑む「ダブルチャレンジ制度」

SGU

2019
年度



※プログラム別は延べ人数。

2019年度卒業生**5291**名のうち、
2445名(実数)がアウェイチャレンジで単位を取得。
ダブルチャレンジ修了者は卒業生の**46.2%**まで拡大!



1-(6).国際化

伝統ある「国際性」を
卓越したレベルに進化させる



1-(6).国際化の推進(学士課程教育)

長期戦略の
冊子より

国際基準の “Top Global University” へ邁進

グローバル化が進み、世界で活躍できる人材が求められており、本大学の最大の特長である国際化を大学全体で推進する。2023年度まではスーパーグローバル大学創成支援事業（SGU＝英語名称 “Top Global University”）における本大学の目標である「協定校への留学派遣2500人/年※」「留学生受入1500人/年」等に向かって進み、その後はより質の高い国際プログラム（派遣・受入・融合）を拡充することによってグローバルな教育環境を実現する。

※ 卒業生のおおよそ2人に1人が在学中に留学を経験する割合

【SGU中間評価結果（2018年2月22日）】

SGUに採択された全37大学の取組みについて、5段階評価（S～D）による中間評価を受けた。本学は「A評価（これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される）」だった。



1-(6).SGU構想の全体像(2014年度申請時)

SGU

《ミッション》

“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成
(奉仕のための練達)

《アウトカム》

コンピテンシー「主体性」「タフネス」「多様性への理解」
国際公共機関やグローバル企業等へ人材輩出

世界から
信頼される
TOP GLOBAL
UNIVERSITYへ

大学院国連・外交コース
国際機関に人材輩出

★「より高度なチャレンジ」となるプログラム群

GGJ (全学型)

世界展開力

先導的大学改革

JD/DD

《学士
課程》

★
国連ユース
ボランティア

★
国際社会
貢献活動

★
Cross-Cultural
College

★
マルチプルディグリー
(4年で学内2つの学士号)

★
海外大学との
共同学位

独自教育OS「**ダブルチャレンジ制度**」

ホームチャレンジ(各学部・専攻での学び)に加え
「異なるもの」との出会いの場・
アウェイチャレンジを全学生に課す
└─ (3プログラム) ─┘

国際
インターナショナル

留学生受入
1,500人/年

海外派遣
2,700人/年

ホーム

副専攻

ハンズオン
(実践型)

教学改革

国際
国際通用性のある質保証



入口／出口のIR
データ集積↓活用

《入試》

院内高等部＝SGH
関西学院、千里国際

高大接続センター(2015年度設置)
高大連携 + 入試改革

《体制》

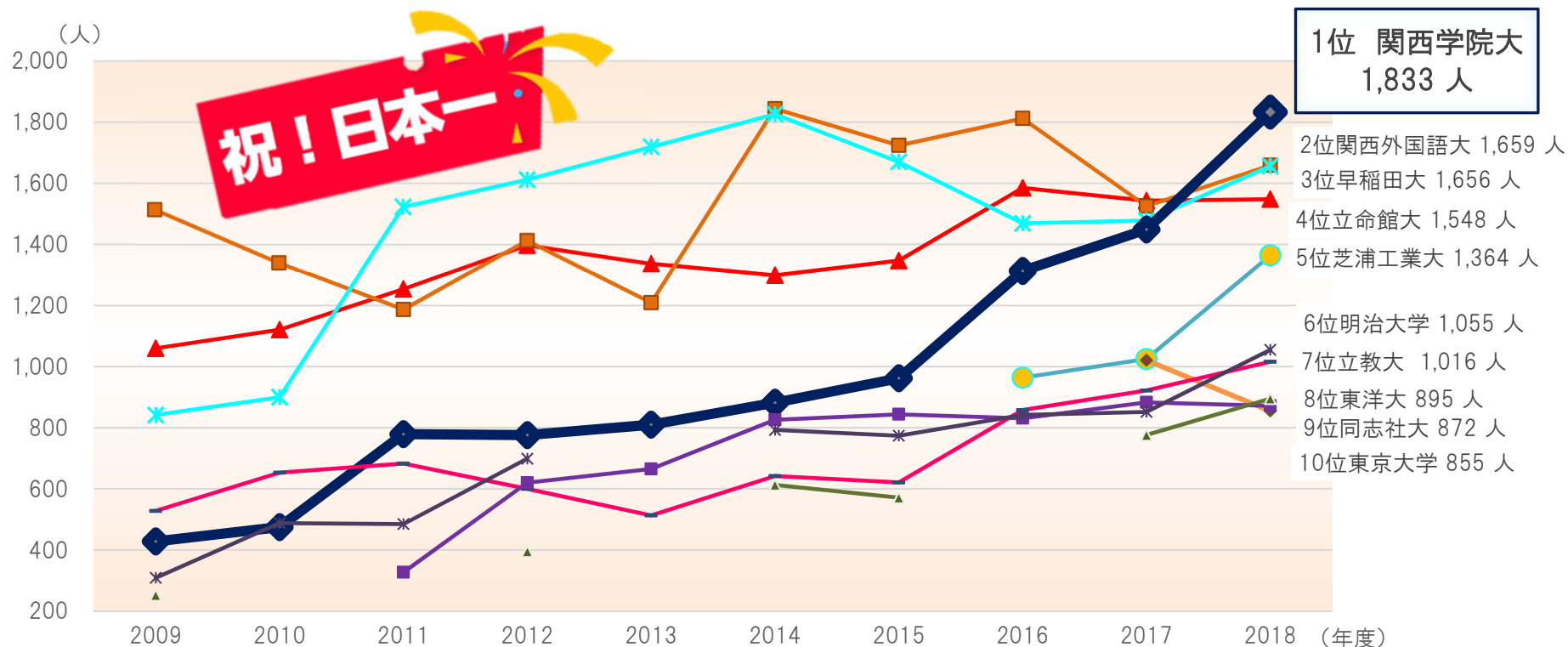
ガバナンス・マネジメント改革

＜教学と経営の一体化＞ 兼務：学長＝副理事長、副学長＝常任理事



1-(6)-① 協定校等への派遣学生数で日本一に（JASSO調べ）

日本学生支援機構（JASSO）が2020年3月に公表したデータ（2018年度実績）に基づいて作成。順位は国公立大含む順位。学校名記載は私学のみ。



年度⇒	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
関西学院大	428	475	779	776	810	882	962	1,313	1,449	1,833
関西外国語大	1,514	1,340	1,187	1,413	1,209	1,844	1,724	1,812	1,525	1,659
早稲田大	842	900	1,523	1,612	1,719	1,826	1,670	1,469	1,478	1,656
立命館大	1,060	1,121	1,254	1,398	1,337	1,299	1,347	1,585	1,543	1,548
芝浦工業大								964	1,025	1,364
明治大学	309	488	485	699		793	774	842	852	1,055
立教大	528	653	683	600	513	642	621	858	922	1,016
東洋大	252			395		613	571		776	895
同志社大			327	620	665	826	844	831	883	872
東京大学									1,021	855

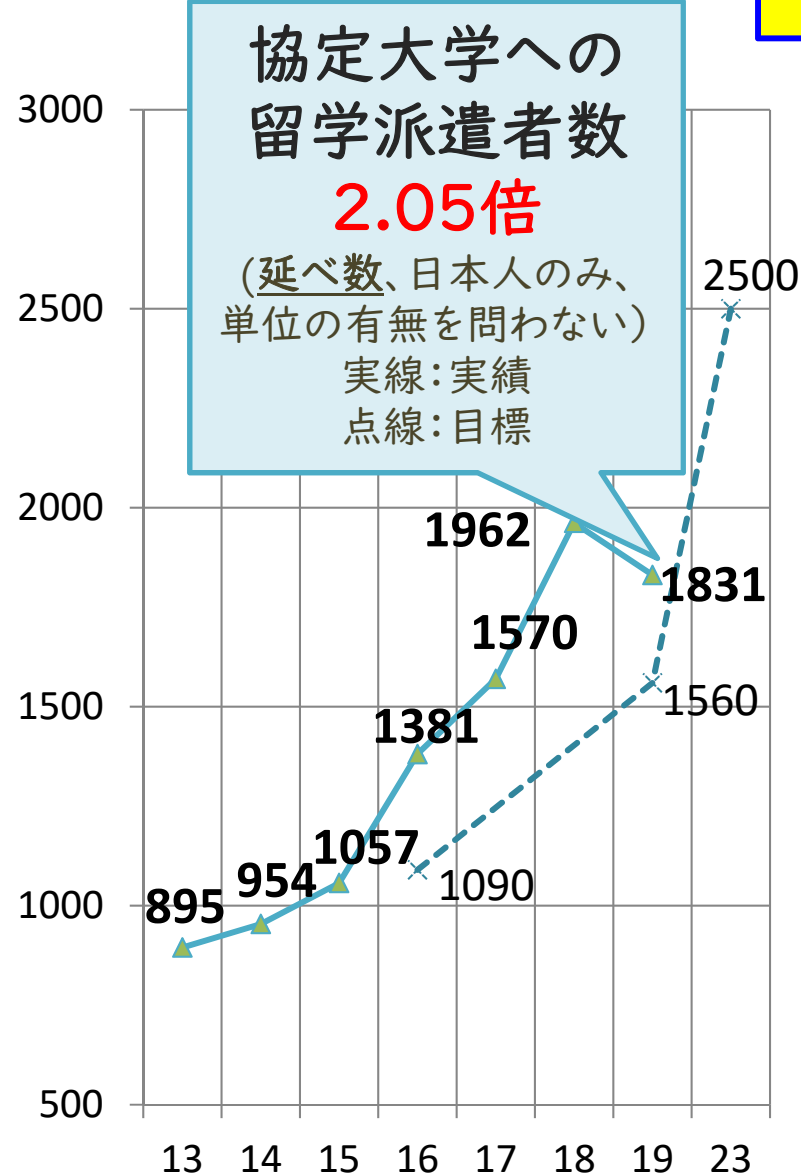
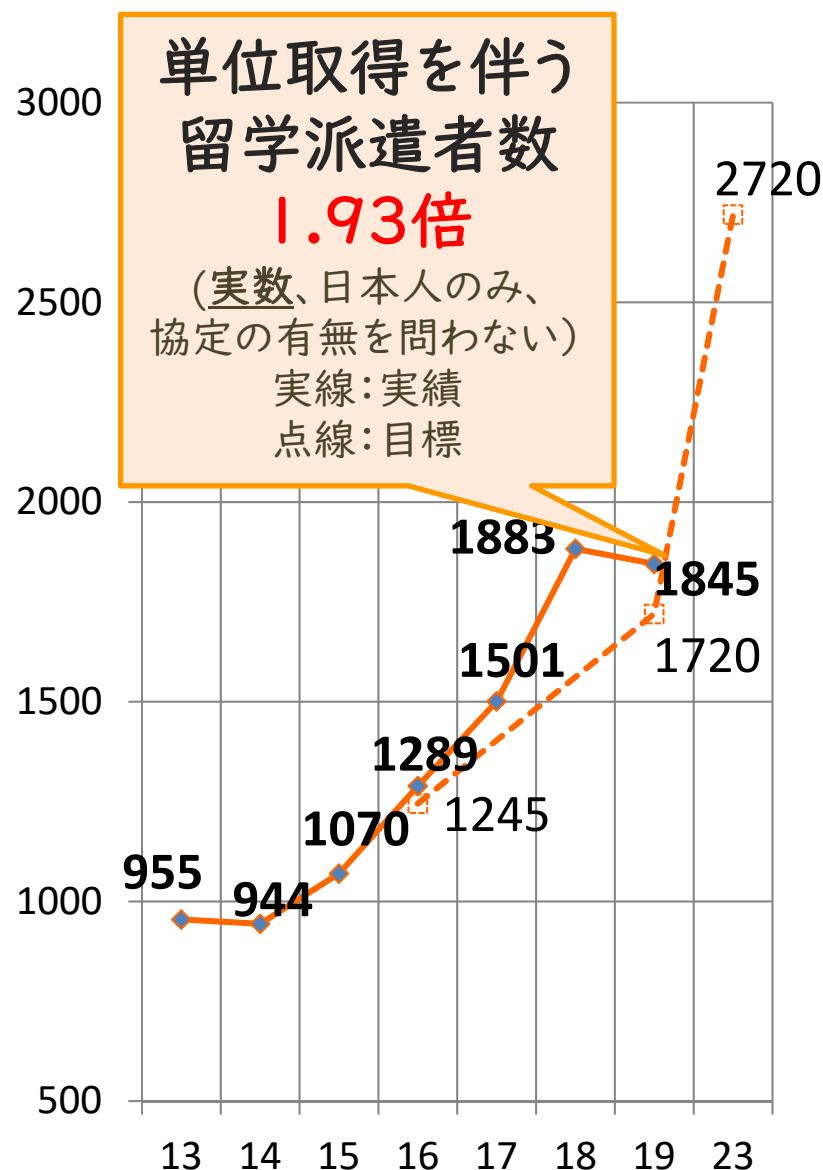


1-(6).学生の海外派遣:2つの指標と実績・目標

SGU

2つの指標ともに2019年度目標を達成!

2019
年度





1-(6)-① 2019年度海外学生派遣プログラム(CIEC)

プログラム		派遣時期	派遣先	派遣国・地域	プログラム		派遣時期	派遣先	派遣国・地域	
交換留学等	交換留学(春出発)	—	—	—	英語外国語研修	夏季	ビクトリア大学ビジネススクール	カナダ		
	交換留学(秋出発)			ニュー・ファンドランド・メモリアル大学			カナダ			
	認定留学	—	—	ニューヨーク州立大学オルバーニー校			アメリカ			
	長期留学(春出発)	—	—	カリフォルニア大学デイビス校			アメリカ			
	長期留学(秋出発)	—	—	カリフォルニア大学リバーサイド校			アメリカ			
ACUCA Student Mobility Scheme		秋学期	長栄大学、デ・ラ・サール大学	台湾・フィリピン		中国語外国語研修	夏季	吉林大学	中国	
中期留学	英語中期留学	春学期	ケンブリッジ大学	イギリス		朝鮮語外国語研修	夏季	延世大学	韓国	
		秋学期	オックスフォード大学			英語外国語研修	春季	ダブリン・シティ大学	アイルランド	
		秋学期	レスター大学					ケンブリッジ大学	イギリス	
		春学期	ニュー・サウス・ウェールズ大学	レスター大学				イギリス		
		春学期	クイーンズランド大学	マラヤ大学	マレーシア					
		秋学期		チェンマイ大学	タイ					
		春学期		クイーンズ 大学	サティヤ・ワチャナ・キリスト教大学			インドネシア		
		秋学期	オタゴ大学		ニュージーランド					
		春学期	ゲルフ大学		ニュー・サウス・ウェールズ大学			オーストラリア		
		秋学期	トロント大学	アデレード大学	オーストラリア					
		春学期	マウント・アリソン大学	マウント・アリソン大学	カナダ					
		秋学期		カルガリー大学	カナダ					
		春学期		ビクトリア大学	カナダ					
		秋学期	ネブラスカ大学オマハ校	トロント大学	カナダ					
		春学期	ソノマ州立大学	カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ					
		秋学期		ペンシルベニア大学	アメリカ					
		秋学期		マラヤ大学	アリカンテ大学	スペイン				
		秋学期	ワイカト大学	ニュージーランド	スペイン語外国語研修	春季	アリカンテ大学	スペイン		
		フランス語中期留学	秋学期	リヨン第2大学	フランス	国際学生セミナー・フィールドワーク等	夏季	インドネシア交流セミナー	インドネシア	
スペイン語中期留学	秋学期	アリカンテ大学	スペイン	海外異文化体験セミナー	春学期			貿易大学	ベトナム	
中期インターンシップ	秋学期	ニュー・サウス・ウェールズ大学	オーストラリア	国連セミナー	夏季			国際連合本部	アメリカ	
外国語研修	英語外国語研修	夏季	ダブリン・シティ大学	アイルランド	海外フィールドワーク			夏季	トウシク・アブドゥル・ラーマン大	マレーシア
			オックスフォード大学	イギリス				夏季	ヤンゴン教育大学	ミャンマー
			キール大学	イギリス			夏季	ロサンゼルス	アメリカ	
			スターリング大学	イギリス			春季	商業大学	ベトナム	
			マラヤ大学	マレーシア			春季	CCC Global Career Seminar	トロント大学	カナダ
			チェンマイ大学	タイ	春季		CCC Cross-Cultural Workshop	クイーンズ大学	カナダ	
			西オーストラリア大学	オーストラリア	春季		Field Study in Canadian Business	トロント大学	カナダ	
			クイーンズランド大学	オーストラリア	国際ボランティア	国連ユースボランティア	秋学期	—	—	
			クイーンズ 大学	カナダ		春学期	—	—		
			トロント大学	カナダ		秋学期	—	—		
			その他	カケハシプロジェクト	春季	ヘンドリックス・カレッジ	アメリカ			

【2019年度:79プログラム(うち5プログラムはCOVID-19により派遣中止) 2019年度に新設されたプログラムは12(黄色の網掛け)】



1-(6)-② 2019年度海外学生派遣プログラム(学部・センター)

プログラム		派遣時期	派遣先	派遣国・地域	プログラム		派遣時期	派遣先	派遣国・地域
文学部	ドイツ語中期留学	春学期	レーゲンスブルク大学	ドイツ	理工・総合政策学部	グローバル人材・企業体感プログラムinシリコンバレー	夏季	シリコンバレー	アメリカ
	異文化理解(フランス)パリ研修	夏季	パリ	フランス		社会起業英語中期留学	春学期	クイーンズ大学	カナダ
法学部	法学・政治学グローバル演習C	春季	ジャワハルラー・ネルー大学	インド		社会起業インターンシップ	春季	マニラ	フィリピン
	法学・政治学グローバル演習D	春季	ベセル大学	アメリカ		社会起業インターンシップ	夏季	マニラ、ベツレヘム	フィリピン、イスラエル
	法学・政治学グローバル演習D	夏季	パヤップ大学	タイ	人間福祉学部	社会起業アドバンスト・インターンシップ	夏季	マニラ	フィリピン
	エディンバラ大学春季法律英語研修	春季	エディンバラ大学	イギリス		社会起業フィールドワーク(海外)	春季	パヤップ大学	タイ
	中国人民大学法学院交換留学	-	中国人民大学法学院	中国		人間福祉グローバル演習F	夏季	ハワイ	アメリカ
経済学部	ベトナムインターンシップ	夏季	ホーチミン	ベトナム		人間福祉グローバル演習E	春季	アンティオキア大学	コロンビア
	ドイツインターンシップ	夏季	フランクフルト	ドイツ	教育学部	US” アシスタントティーチャー” ボランティア	春季	カリフォルニア州立大学ロングビーチ校	アメリカ
	海外学習活動(アジア地域の観光開発)	夏季	パリ	インドネシア		オーストラリア幼児教育プログラム	春季	ニュー・サウス・ウェールズ大学	オーストラリア
	海外学習活動(アフリカ研究)	夏季	-	マダガスカル共和国		セブ島ボランティア～Learn English & Volunteer with Children～	春季	セブ島	フィリピン
	海外学習活動(ウツプ大学)	秋学期	ウツプ大学	ポーランド		英語中期留学HWI	秋学期	ハワイ大学マノア校	アメリカ
	海外学習活動(吉林大学)	秋学期	吉林大学	中国		中国語中期留学(台湾)	秋学期	国立台湾師範大学	台湾
	ダブルディグリー留学	—	リール大学	フランス		中国語中期留学(北京)	春学期	北京第二外国語学院	中国
商学部	ビジネスに活かせる海外短期研修プログラム	夏季	ビサヤ大学	フィリピン	国際学部	中国語中期留学(蘇州)	春学期	蘇州大学	中国
			カンタベリー大学	ニュージーランド		朝鮮語中期留学	秋学期	延世大学	韓国
			ダブリン・シティ大学	アイルランド	産業研究所・国際学部	EUフィールドスタディ	夏季	アウグスブルク大学	ドイツ
			ワシントン大学	アメリカ	言語教育研究センター	フランス語海外研修	夏季	フランシュ・コンテ大学	フランス
		春季	セブ医科大学	フィリピン		ドイツ語海外研修	夏季	ブレーメン大学	ドイツ
			パルマ大学	イタリア	国連外交統括センター	Internship in the United Nations	夏季	タイ	タイ
理工学部	Introduction to Scientific Diving	夏季	ディボネゴロ大学	インドネシア		国連・外交フィールドワーク	春季	東ティモール国立大学	東ティモール
	国立交通大学 Summer Program	夏季	国立交通大学	台湾	経営戦略研究科	IBA短期留学プログラム	夏季	ビクトリア大学ビジネススクール	カナダ
	English for Science and Technology	夏季	カリフォルニア大学デビス校	アメリカ		企業経営戦略特論H	夏季	ノースウェスタン大学	アメリカ
	English for Science and Technology	春季	カリフォルニア大学デビス校	アメリカ	言語コミュニケーション文化研究科	ダブルディグリー留学	—	スターリング大学	イギリス
総合政策学部	フィリピンフィールドワーク	夏季	ヌエヴァ・ヴィスカヤ州立大学	フィリピン					

【2019年度:56プログラム(うち6プログラムはCOVID-19により派遣中止) 新設されたプログラムは12(黄色で網掛け)】

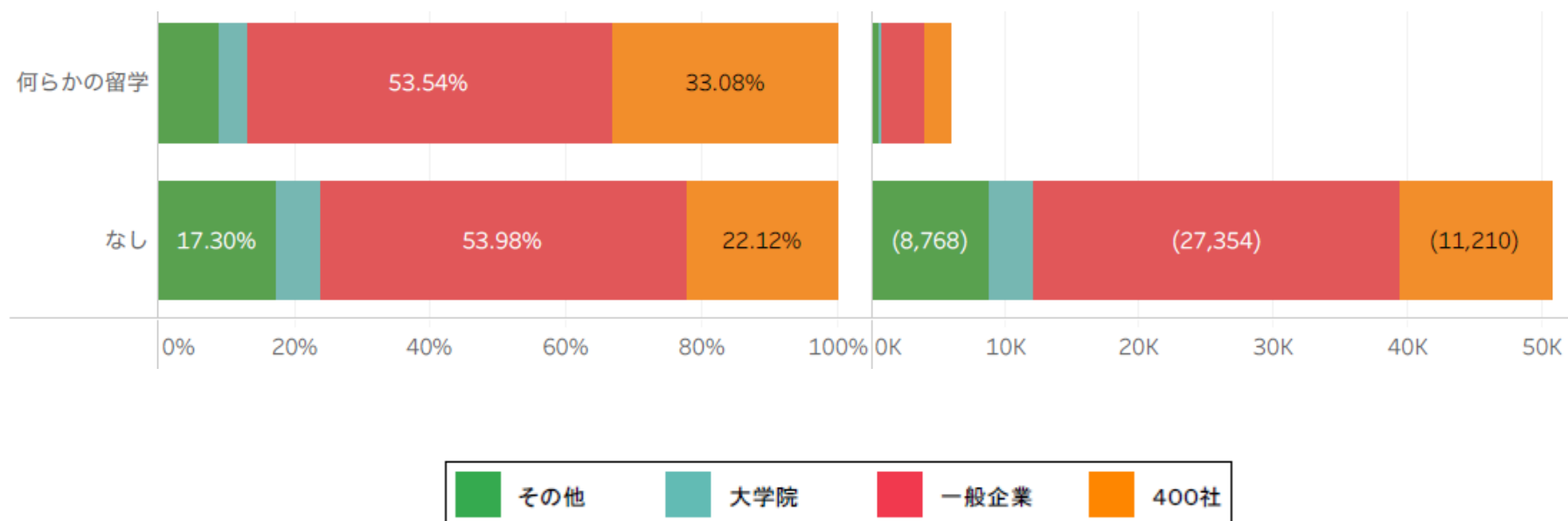


1-(6) 留学経験と就職状況の関係(全学)

2019
年度

高等教育推進センターがIR分析基盤
システムのデータをもとに分析。
2005-2015年度入学生対象

留学経験の有無と就職状況



※「400社」とは、週刊誌、雑誌等でランキングに多く活用されている、大学通信社による指標「有名400社への実就職率」で選定されている。

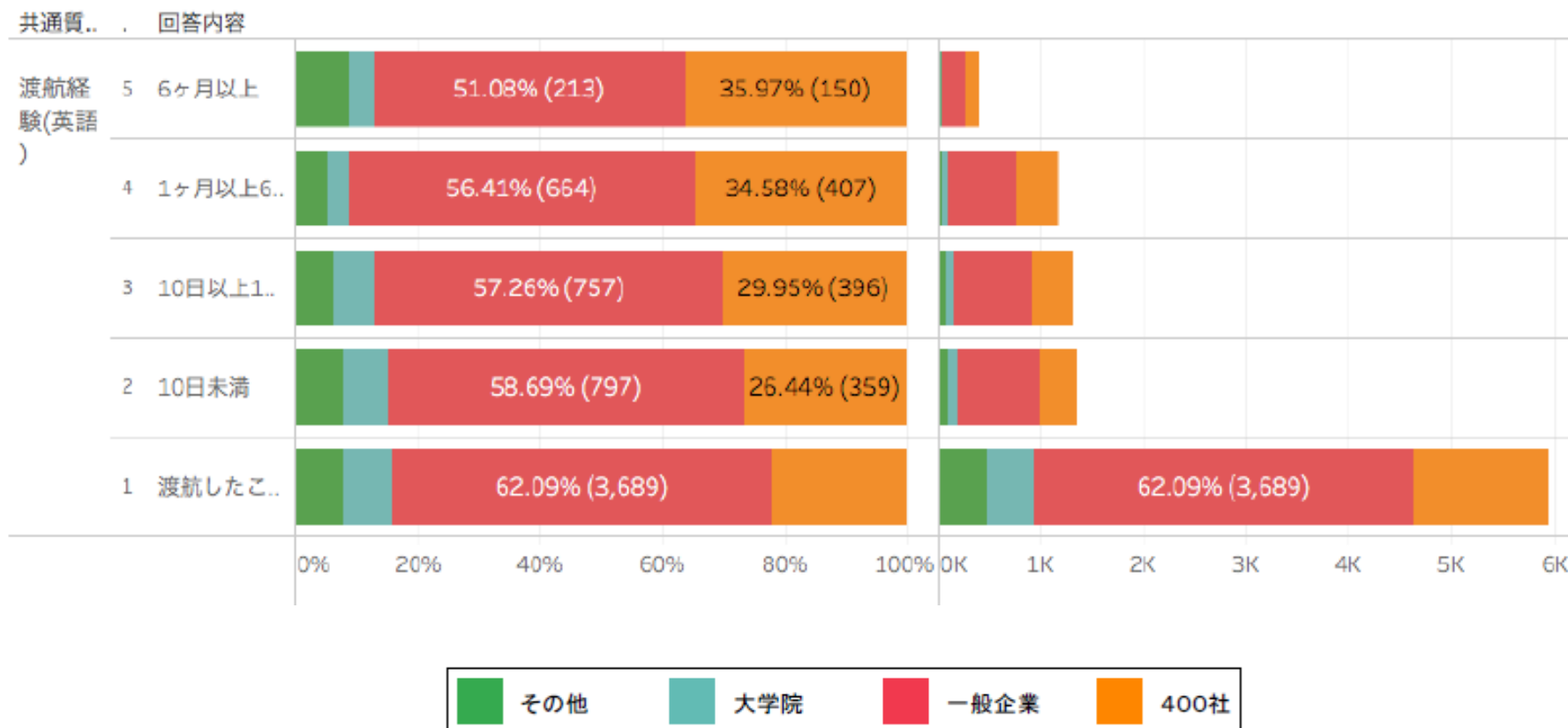


1-(6) 留学期間と就職状況の関係(全学)

2019
年度

留学経験・期間による就職状況

高等教育推進センターがIR分析基盤システムのデータをもとに分析。



※「400社」とは、週刊誌、雑誌等でランキングに多く活用されている、大学通信社による指標「有名400社への実就職率」で選定されている。



1-(6) 短期から中期・交換へステップアップの傾向

2019
年度

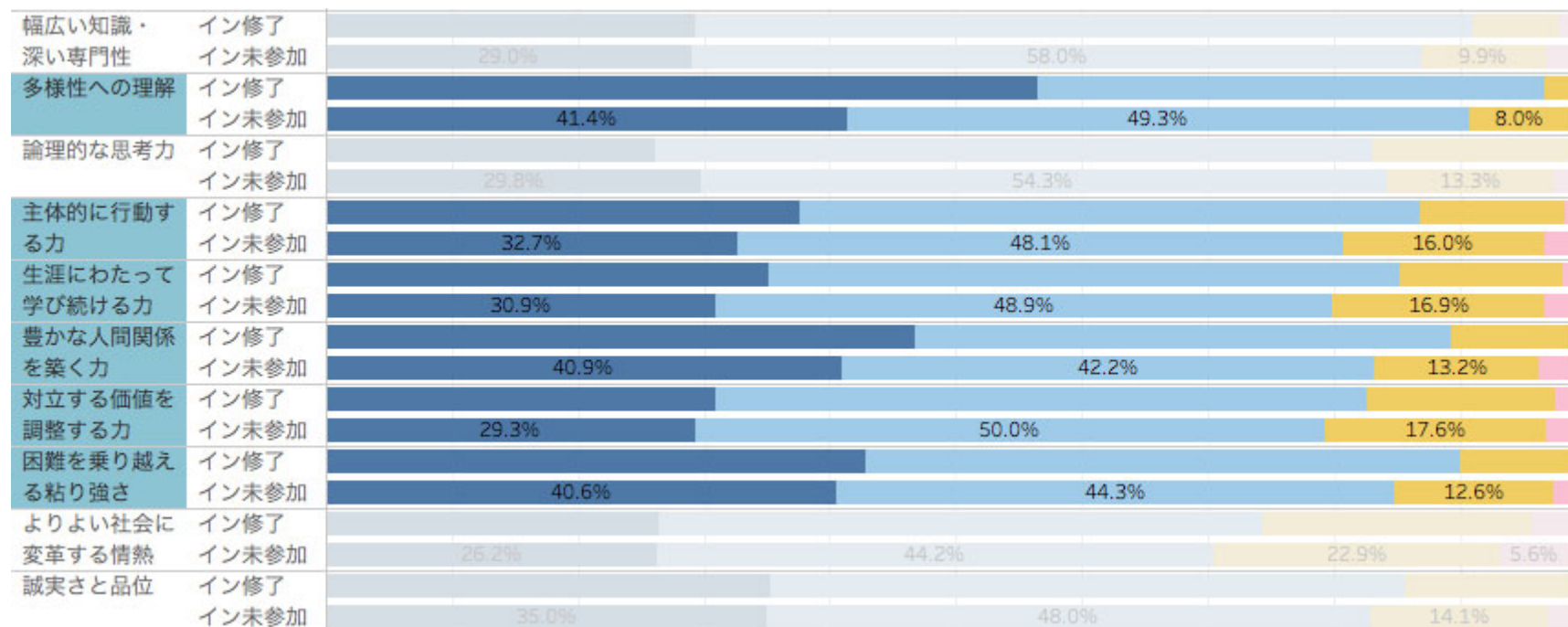
国際学部的事例

	2014年度入学生	2017年度入学生	2018年度入学生
短期留学から再度 留学した学生数 ()内はCOVID-19に よる中止を引いた数	10人	41人	51人 (47人)
複数回留学した学 生数 ()内はCOVID-19に よる中止を引いた数	20人	52人	58人 (49人)



1-(6) 留学経験とKwanseiコンピテンシー獲得状況①

2019
年度



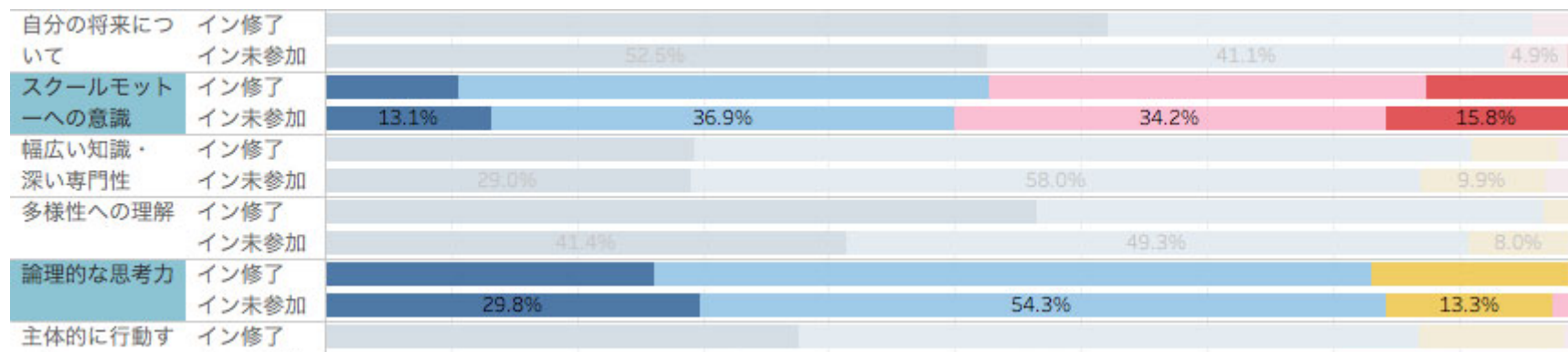
インターナショナルプログラム修了者と未参加者の比較では、「自分の将来」、「教育内容」、「卒業後の進路」全ての満足度が他のプログラムと比較して非常に高い結果となっている。Kwansei コンピテンシーについても「多様性」、「主体性」、「学び続ける力」、「人間関係」、「対立調整力」、「困難を乗り越える力」など軒並み高い自己評価となっている。全体的にインターナショナルプログラム修了生は非常に高い自己肯定感を持っていると言える。

(高等教育推進センター・江原昭博准教授)



1-(6) 留学経験とKwanseiコンピテンシー獲得状況②

2019
年度



一方で、インターナショナルプログラム修了者のスクールモットーへの意識は低い。更にいえばそれより若干数字が悪くなっている。多様性の理解や国際性が向上するのは良いが、一方で関西学院大学の本質であり、学生個人にとっても多様な文化や多様な人々との付き合いが深まる中で、自らの学校のスクールモットーに対する意識が弱いというのは非常に気になるところである。（高等教育推進センター・江原昭博准教授）

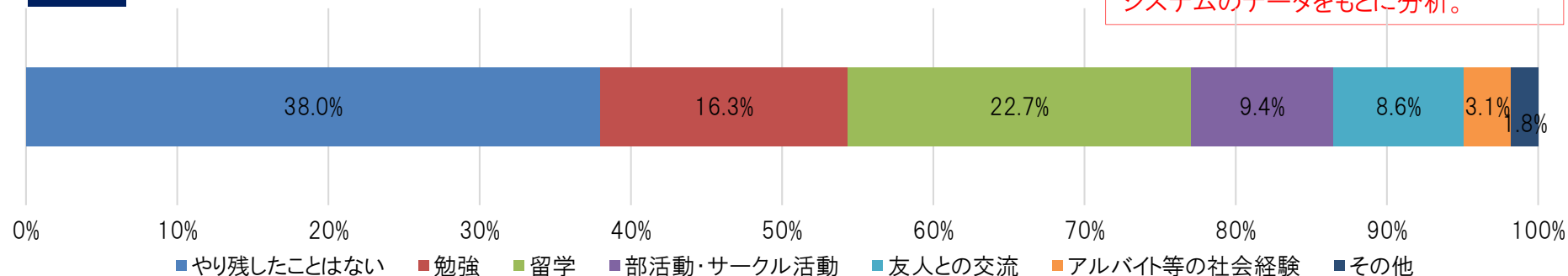


1-(6) 大学生生活でやり残したこと(卒業時調査)

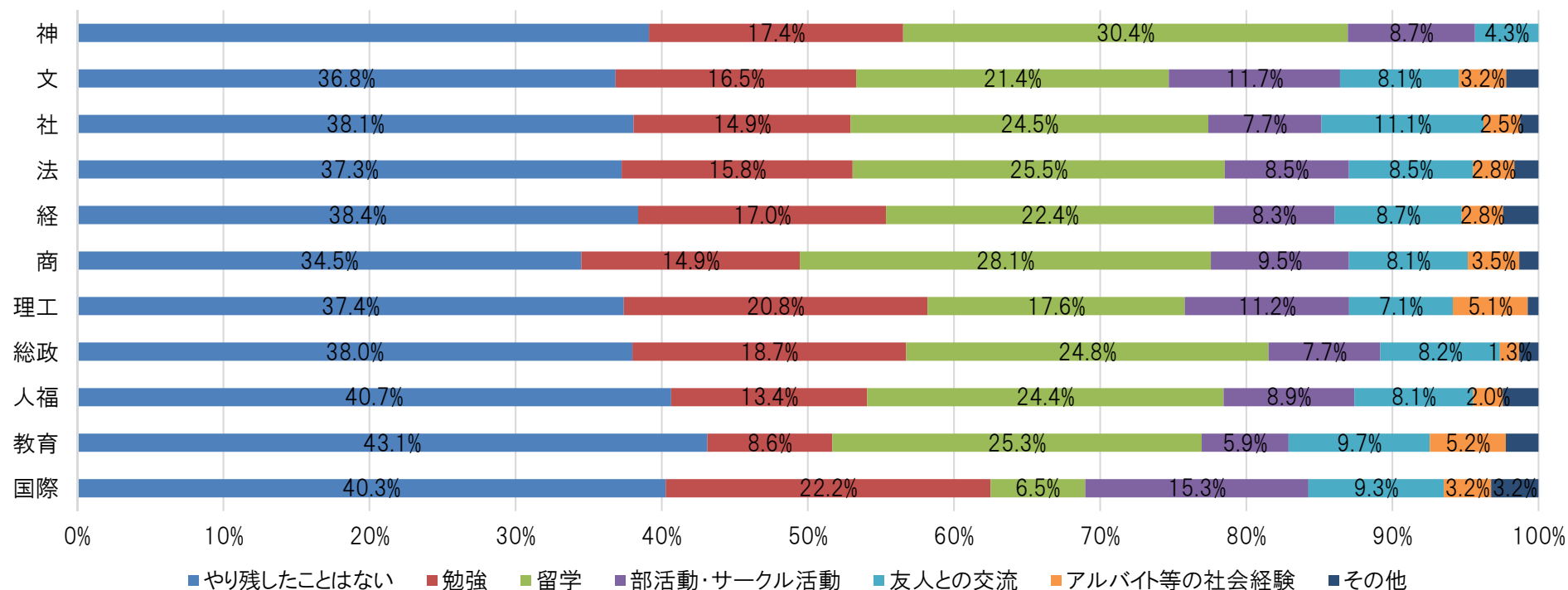
2019
年度

全学部

高等教育推進センターがIR分析基盤システムのデータをもとに分析。



学部





1-(6)「留学するなら関学へ」 希望者向けサイトを拡充

2019
年度

キーワード検索から探す

プログラム内容から探す

全て 言語を学ぶ 国際ビジネスを学ぶ 海外の学生と交流する 専門分野を学ぶ 学位を取得する 国連・国際機関を学ぶ 開発途上国を知る

修了証プログラム 英語スポーツ融合プログラム

ダブルチャレンジ制度（インターナショナルプログラム）から探す

全て 留学プログラム 融合プログラム 国際ボランティア・フィールドスタディプログラム

ダブルチャレンジ制度（インターナショナルプログラム）とは？

プログラム提供部局から探す

全て 国際教育・協力センター（CIEC） 学部提供（全学部対象プログラム） 神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部

理工学部 総合政策学部 人間福祉学部 教育学部 国際学部 言語教育研究センター 言語コミュニケーション文化研究科

国連・外交統括センター

絞り込み検索 検索したいプログラム名を入力してください

<https://ciec.kwansei.ac.jp/abroad/program/category/>

言語を学ぶ 専門分野を学ぶ 開発途上国を知る

修了証プログラム 海外の学生と交流する

国連・国際機関を学ぶ 国際ビジネスを学ぶ

英語・スポーツ融合プログラム 学位を取得する

受験生の声

「留学制度が充実しているから関学へ入学した」

「同志社と関学に受かったけど留学に行きたかったから迷わず関学に決めた」

「周りは国公立に行く人が多かったけど、絶対留学に行きたかったから関学に決めた」（府立北野高生）

留学ステップアップの勧め

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY
国際教育・協力センター
Center for International Education and Cooperation

保護者の方 留学申込

About CIEC 国際教育・協力センターとは

About Study Abroad 海外留学を考えている方

Interaction at KGU 学内で国際交流したい方

Study Abroad at KGU KGUへの留学

モデルケース

関西学院大学 国際教育・協力センター > 海外留学を考えている方 > 留学の計画と準備 > モデルケース

プログラム参加のモデルケース

① 外国語研修 + 交換留学（1年間）の場合

学年	春学期	秋学期
1年生	5月 外国語研修出願 8月 外国語研修参加	9月～12月 交換留学出願・選考
2年生	事前研修	交換留学参加（1年間）
3年生	交換留学参加（1年間）	就職活動準備期間
4年生	就職活動	卒業論文執筆・卒業

② 海外フィールドワーク（FW） + 国際ボランティア（国連ユースボランティア）の場合

学年	春学期	秋学期
1年生	4月 海外FW出願・選考 8月 海外FW参加	国際ボランティア関連科目履修
2年生	国際ボランティア関連科目履修	11月 国際ボランティア出願 国際ボランティア関連科目履修
3年生	国際ボランティア選考・事前研修	国連ユースボランティア参加（1学期間） *派遣される年の9月1日時点で20歳以上であること。
4年生	就職活動	卒業論文執筆・卒業

③ 英語中期留学（春学期） + Cross-Cultural College（CCC）の場合

学年	春学期	秋学期
1年生		11月 英語中期留学出願
2年生	英語中期留学参加（1学期間）	9月 CP登録/コア科目出願 コア科目参加
3年生	CP対象科目履修	CP修了・就職活動準備期間
4年生	就職活動	卒業論文執筆・卒業

<https://ciec.kwansei.ac.jp/abroad/preparation/case/>

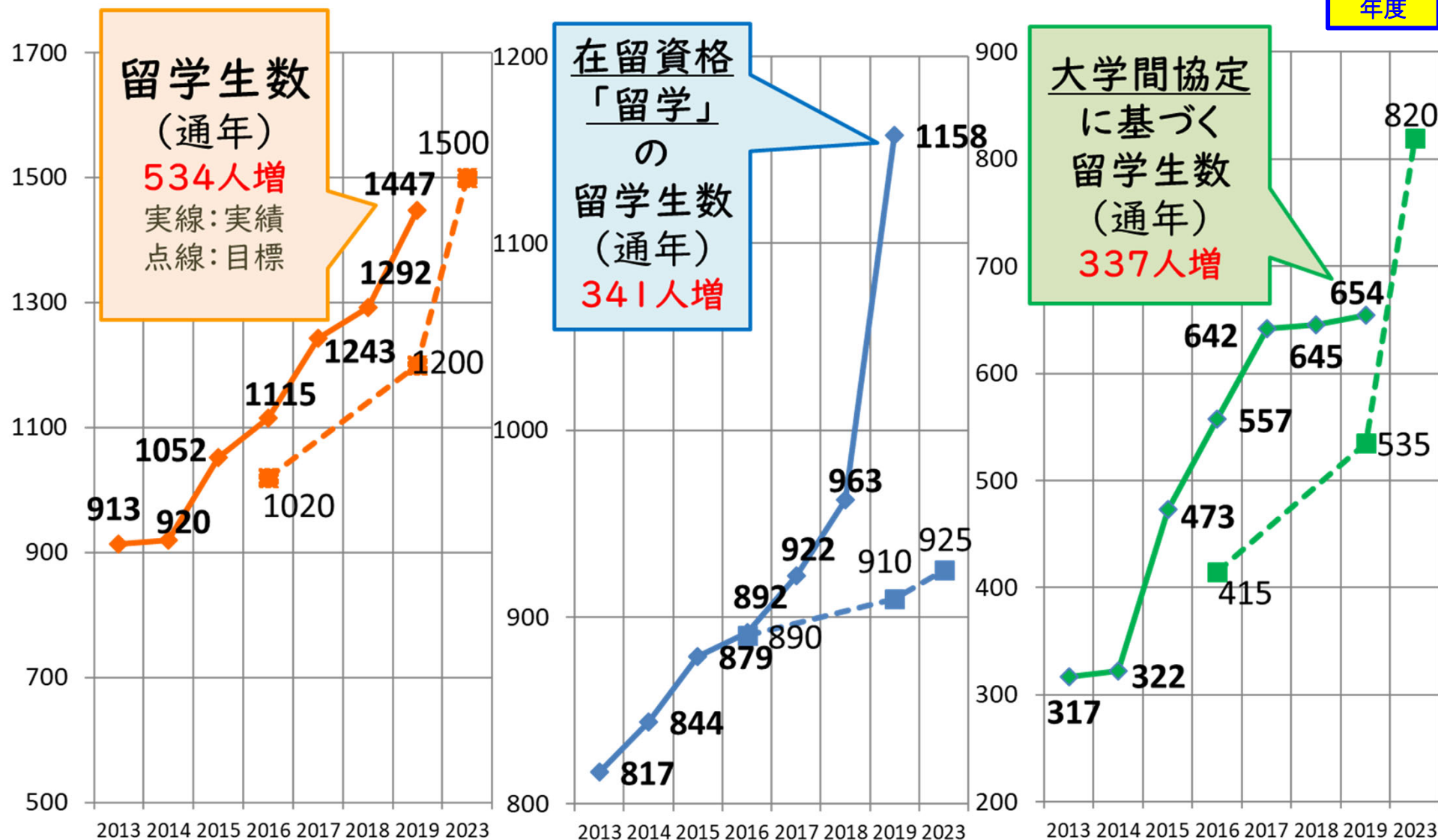


1-(6)-⑤ 外国人留学生:3つの指標と実績・目標

SGU

3つの指標とも2019年度目標を大幅達成!

2019
年度





1-(6).留学生受入 プログラム別

2019
年度

SGU

◆ 学部・研究科の短期受入

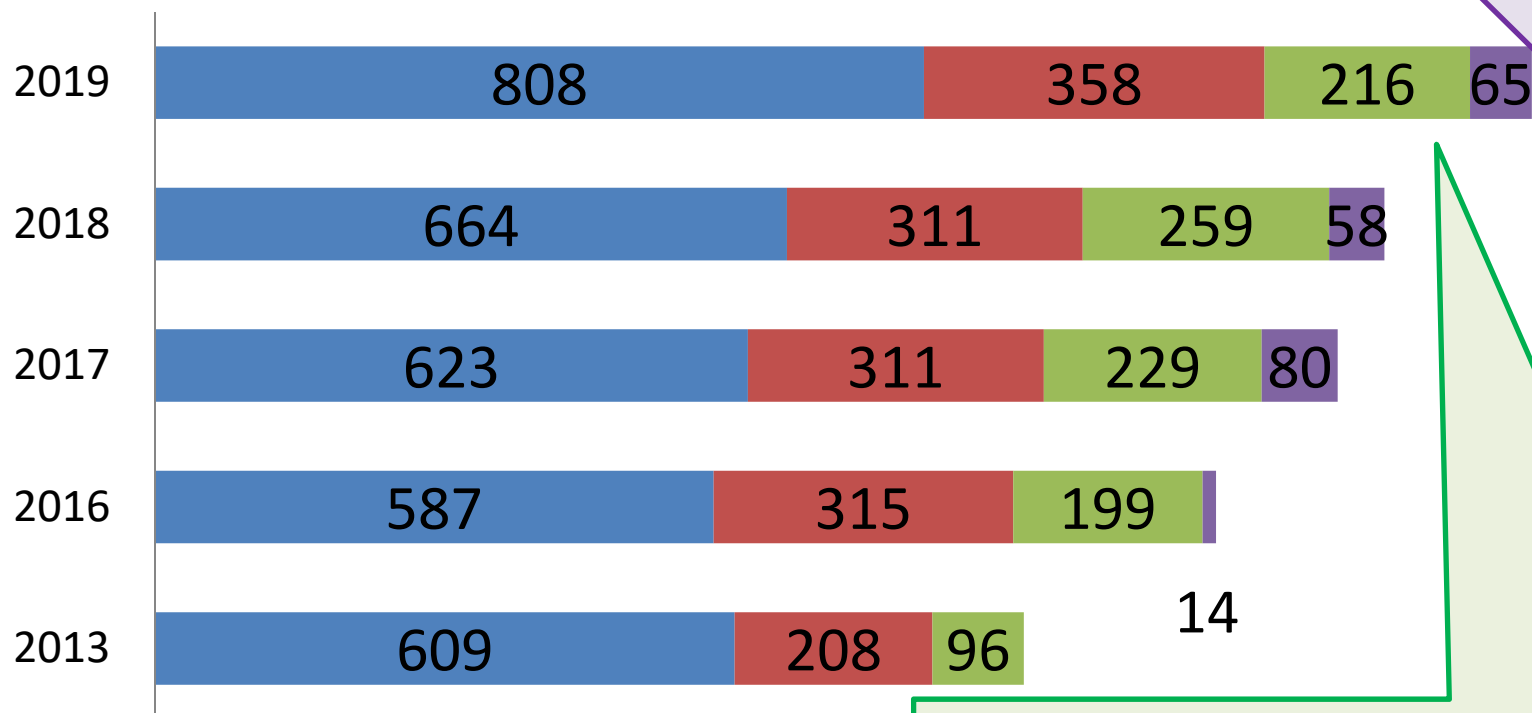
神: Mission in Dialogue(8)、Theology in Dialogue(4)

社会: 比較社会演習B(10) 総政: 国立成功大学受入れプログラム(6)

理: さくらサイエンスプラン(25)

国際: Introduction to ASEAN(12)

■ 正規 ■ 交換 ■ CIEC短期 ■ 学部・研究科



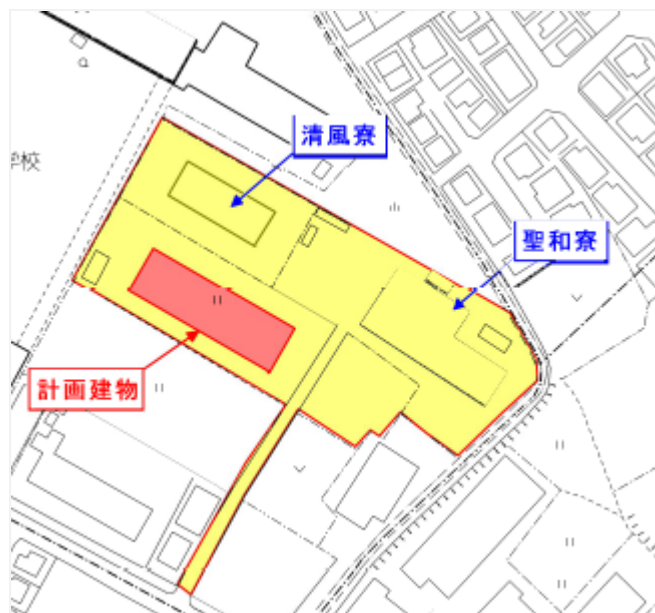
夏季・冬季の日本語・日本語文化プログラムやSummer Schoolの拡充、Winter School実施のほか、蘇州(中)等の協定校にオーダーメイドのプログラムを提供 31



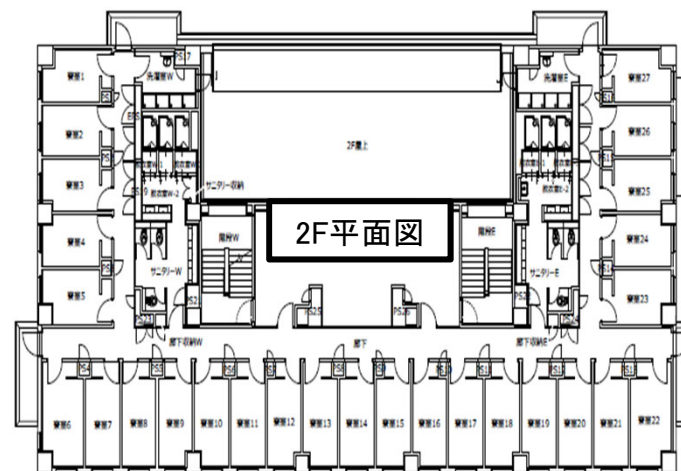
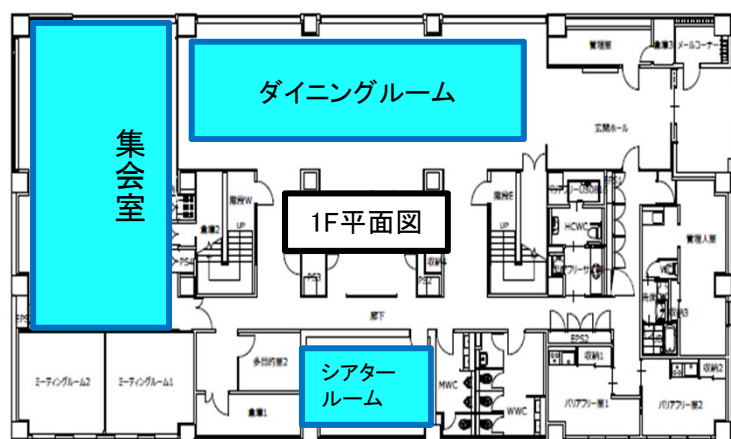
1-(15).国際教育寮建設計画 2020年度着工

2019
年度

(西宮) 国際教育寮建設計画 - 80室 : 2021年秋供用開始



藤田允氏遺贈金のうち約
6千万円を活用し、シア
タールーム、多目的室、
ミーティングルーム、
共有スペース等を
グレードアップ





1-(3) ハンズオン・ラーニング・センター稼働

各学部の専門に応じた
ハンズオン科目の拡大

知的基礎体力を
培う全学科目の拡大



培った「知的基礎体力」を
各自の専門の学びに生かす

カリキュラム改編および認知度
向上の施策実施により、
全学ハンズオン科目の履修者増

2017年度： 432名

2018年度： 908名

2019年度： 1,127名

前年度比**219名増加**

ハンズオン・ラーニング・センター

(2017年度設置)

学外



社会探究



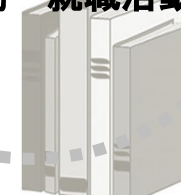
キャリア教育



「リアルな現場」に実際に身を置き、多様な他者とかかわる実践的な学び
知的基礎体力の修得を通じた専門的学びへの架橋

学内

各学部基礎教育
全学共通教育科目
ボランティア・留学
課外活動・就職活動等

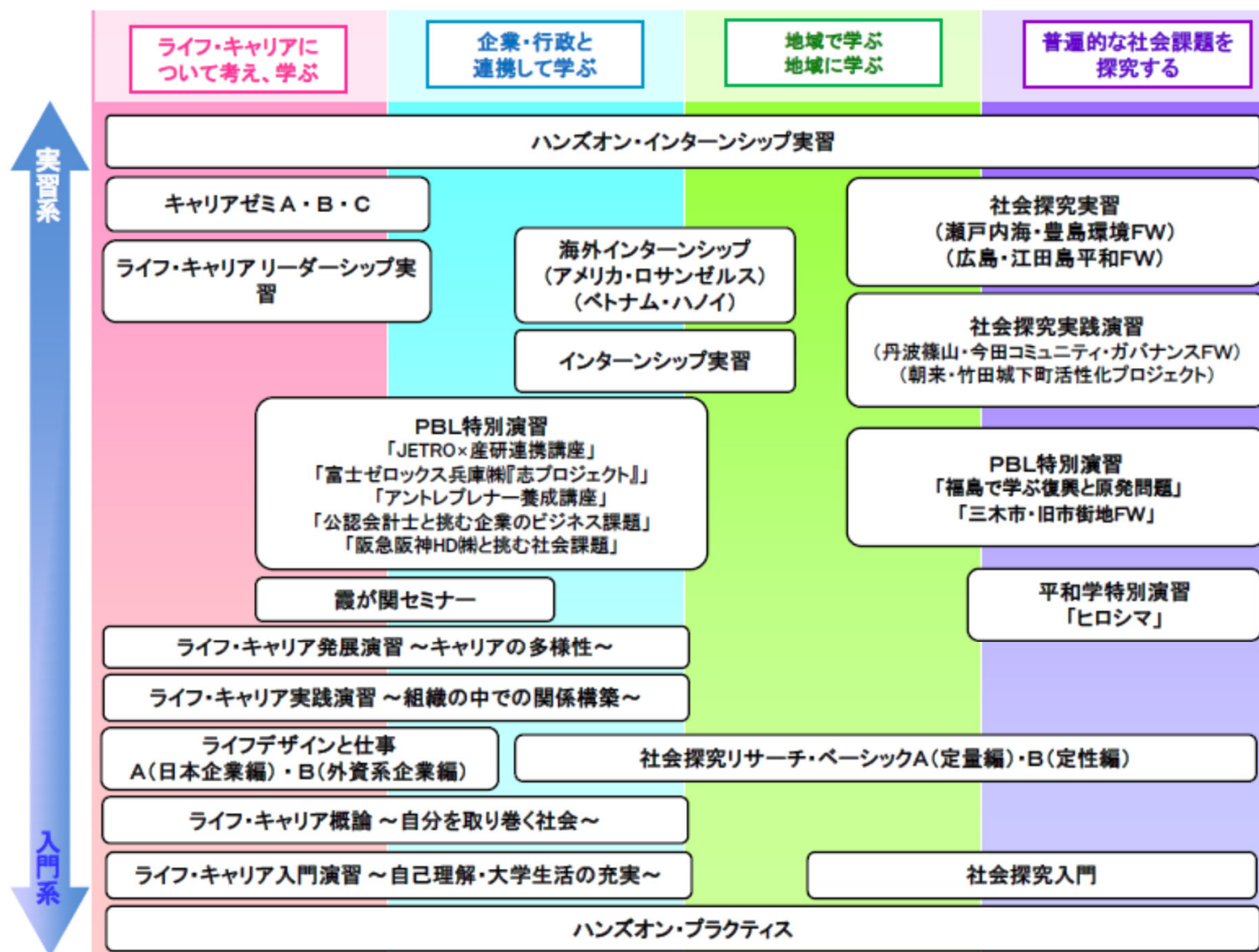


各学部と全学、両方での取組で拡大する見通し



1-(3) ハンズオンラーニングセンター カリキュラムマップ

2019
年度





副専攻プログラムの状況

2019
年度

開講部署	プログラム名	全学 プログラム	学部独自 プログラム
神学部	キリスト教思想・文化	0	—
文学部	美学芸術学	3	37
	日本文学日本語学	2	
	英米文学英語学	1	
	地理学地域文化学	1	
	(上記以外のプログラム)	0	
社会学部	社会学	4	28
法学部	企業法務	1	—
	政治システム	1	—
経学部	日本の企業と家計	1	—
商学部	マーケティング	6	—
	会計	1	—
	経営	1	—
総合政策学部	—	—	60
人間福祉学部	人間科学	1	—
国際学部	国際学	1	—
言語教育研究センター	英語コミュニケーション文化	6	—
国連・外交統括センター	国連・外交	1	—
合計		31	125
総計156名			

社会調査士PGM26名
認定心理士PGM 2名
(心理調査)

建築士PGM 60名



1-(2)-③.アントレプレナー養成のための各種施策の実施

2017年度より、学部生対象のアントレプレナー養成のための「Kwansei Gakuin STARTUP ACADEMY」を実施。

すでに2期目までの修了者から4社の法人設立や売り上げ1億円越えという事例も出てきています。

起業経験を積むことのみをゴールに置いていたが、想定以上に卒業生が法人化
3期生は、卒業生起業家からの紹介が増え、希望者過去最大。同世代ロールモデルも浸透
(株式会社ウィルフ)



「メンタリング制度」を導入！

本学出身起業家による「メンタリング制度」を2020年度より開始。起業プランの具体化に向けて、受講生一人ひとりの状況にマッチしたアドバイスを行います。

「Kwansei Gakuin STARTUP ACADEMY」とは？

株式会社ウィルフとの連携により約半年(週1回)にわたる「学習×実践」による「本物の起業体験」が積めるプログラム。実践的なトレーニング、プロによるコーチングや本学出身者を中心とした先輩起業家によるフィードバックを受け、事業プランに磨きをかけていきます。受講中に起業し順調に事業を推進している修了生もあり、今後の活躍が期待されます。

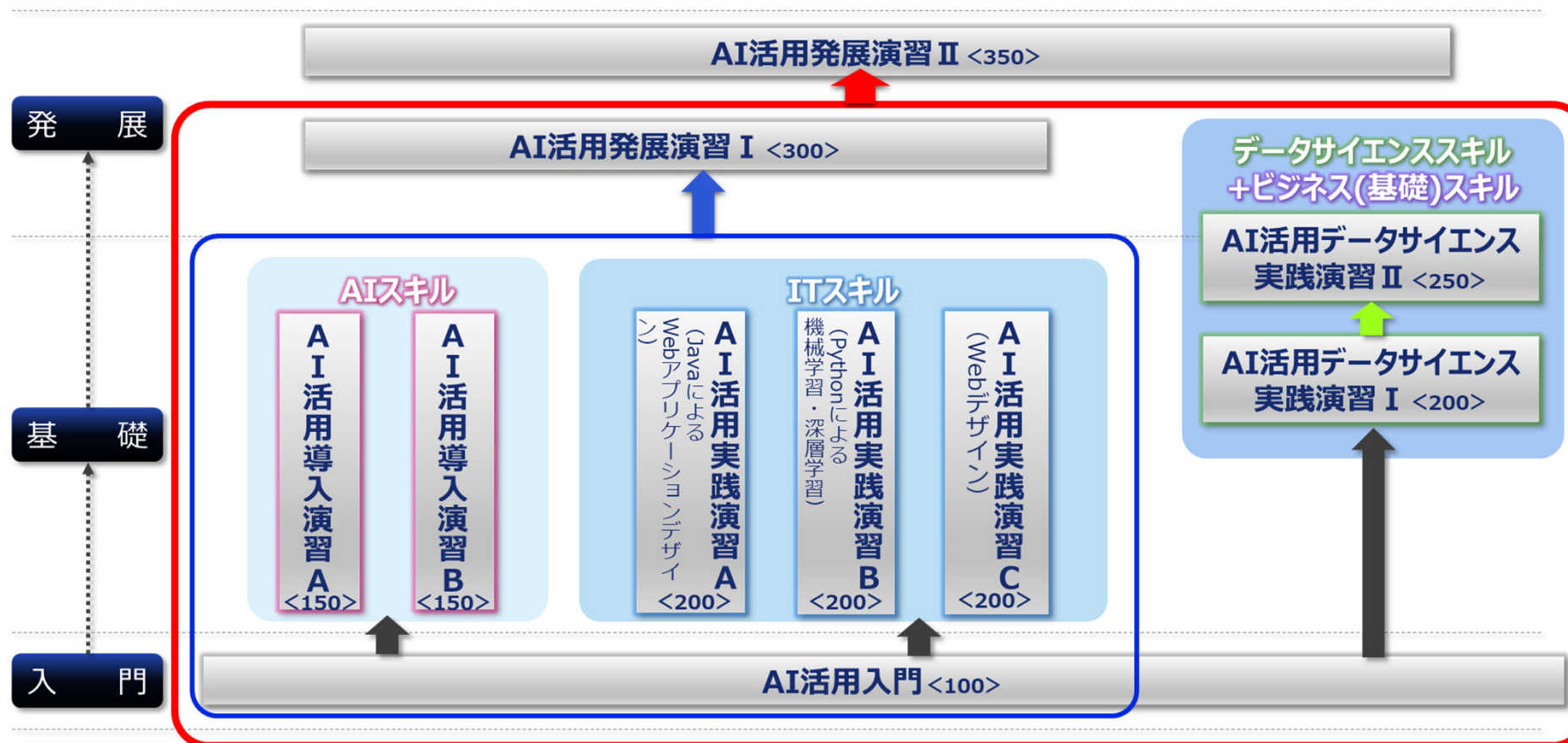
	説明会 参加	受講	卒業	法人 設立	設立 準備中
1期生	52人	37人	11人	3社	2名
2期生	57人	36人	10人	1社	3名
3期生	90人	37人	14人	0社	1名



1-(3)-② AI活用人材育成プログラムの創設(1-(5)関連)

2019
年度

今後の社会でますます必要とされるAI活用人材（AIやデータサイエンス関連の知識を持ち、それらを活用して現実の諸問題を解決できる能力を有する人材）を育成することを目的として、特に文系学生を対象に入門から発展まで段階的に学べるように、PBL (Project-based Learning) を含む10科目（20単位）のプログラムを日本IBMと共同で開発した。





1-(5)「柔軟な学位プログラム」の検討

長期戦略の
冊子より

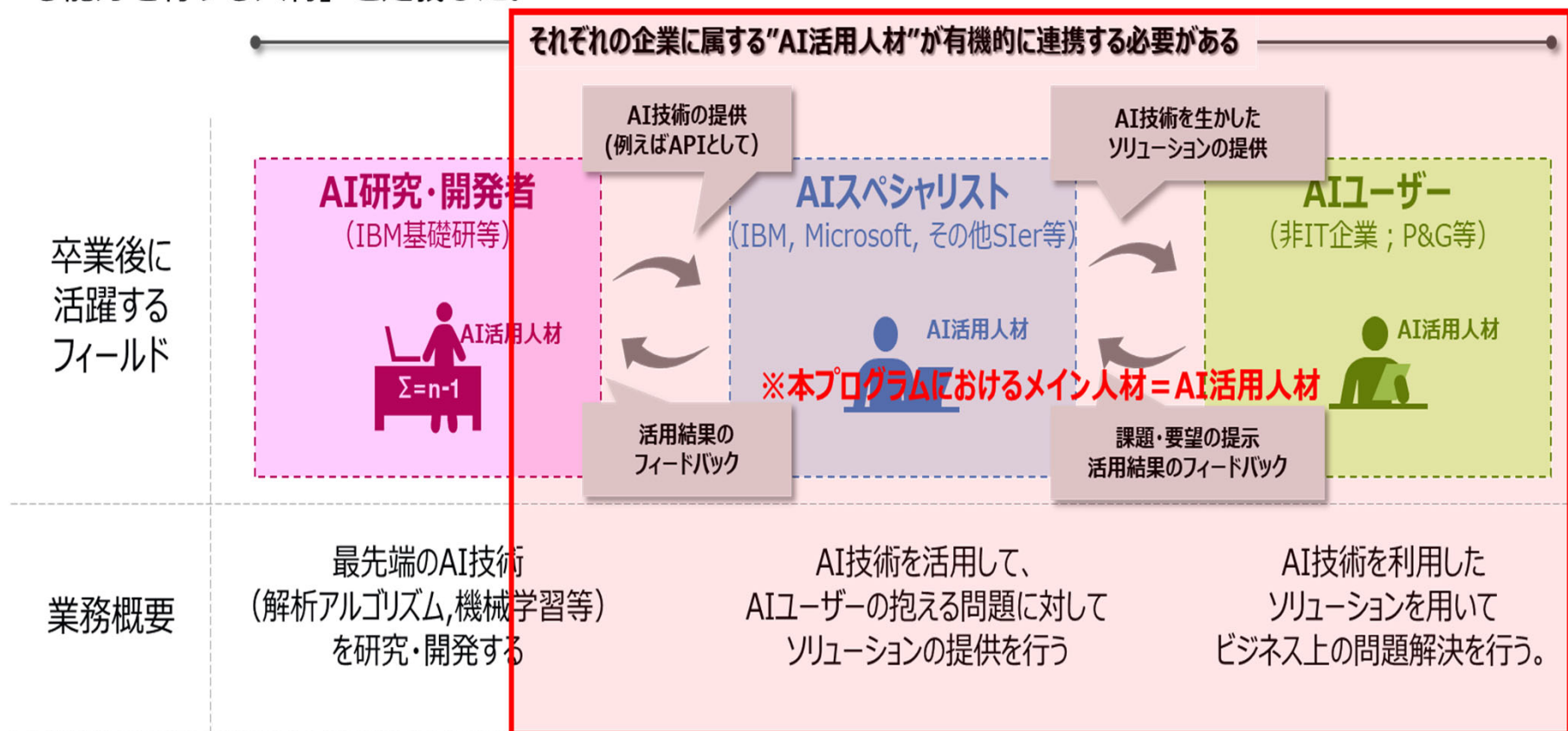
Society5.0に対応した人材輩出の仕組みの検討

20年後の社会では、AIの発達や人口減少によって、産業構造や人材需要が大きく変化すると予想されるため、既存の専門分野の統廃合、新しい分野での開設など学位プログラムを柔軟に改変できる仕組みを検討する。



1-(3)-② AI活用人材の活躍するフィールド

- AI・データサイエンス関連技術の進展とそれにもなう社会環境の急激な変化により、AI・データサイエンスに関する知識やスキルを身に付け、企業活動・経営等に活用することが求められている。
- AI活用人材を、「AI・データサイエンス関連の知識を持ち、さらにそれを活用して、現実の諸問題を解決できる能力を有する人材」と定義した。





1-(3)-② AI活用人材育成プログラム(講師陣)

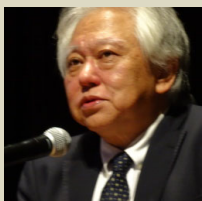
2019
年度

教授(講師)

関西学院大学 × 日本IBM
AI共同プロジェクト
2019年4月開講!



已波 弘佳 理工学部教授(学長補佐)
本学と日本IBMとのAI共同プロジェクトの統括。AI活用人材活用プログラムだけでなく、キャリアセンターが提供する「KGキャリアChatbot」の開発にも関わった。研究分野は情報科学。研究対象は、AIをはじめ、情報科学・数学の理論研究から様々なシステムの実用化まで幅広い。



西野 均 共通教育センター教授
前日本IBM 研究開発アカデミック・アドボケート/ヘルスケア担当(部長)。
1982年慶応大学工学部数理工学科卒、2007年慶応大学理工学部・大学院理工学研究科にて矢上賞受賞。
医療・介護エリアでのAI活用研究開発のトップランナー。糖尿病や認知症など慢性疾患におけるAI(IBM Watson)による重篤化リスク予測とその実用化等に取り組む。

岩森 俊哉 非常勤講師

早稲田大学基幹理工学研究科数学応用数理専攻修士課程修了。現在、日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所研究員。世界最大級の機械学習コンペティションプラットフォームKaggleによるコンペの一つで世界2位(7198チーム中)を含め過去10回入賞。上位成績者Kaggle Master(11万人中1200人)の一人。

陰山 真矢 非常勤講師

関西学院大学理工学部数理科学科卒業、大阪大学大学院情報科学研究科情報数理専攻博士後期課程修了。大阪大学大学院ティーチングアシスタント、関西学院大学博士研究員を経て、現在、関西学院大学理工学部数理科学科契約助手。非線形数理モデルに関する理論的研究と数値シミュレーションの研究に従事。

申込状況

		2019春(定員)	2020春(定員)
上ヶ原	AI活用入門1	272(80)	467(150)
	AI活用入門2	371(80)	429(150)
三田	AI活用入門3	166(80)	205(105)

科目名	定員	申込者数
AI活用導入演習A1	50人	24人
AI活用導入演習A2	50人	16人
AI活用導入演習B1	50人	16人
AI活用導入演習B2	50人	13人
AI活用実践演習A	50人	36人
AI活用実践演習B	50人	43人
AI活用実践演習C	50人	42人
AI活用データサイエンス実践演習 I	50人	38人
AI活用データサイエンス実践演習 II	50人	4人

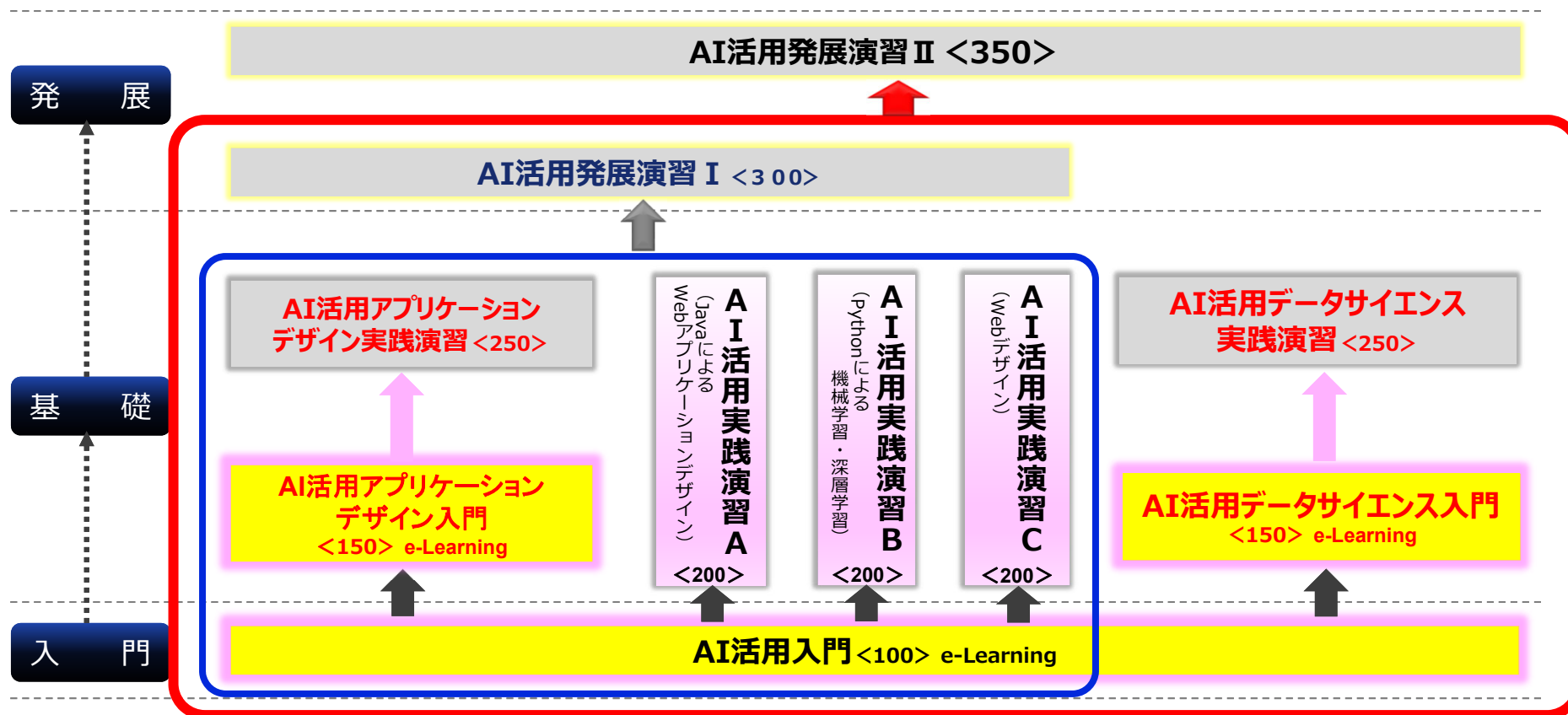


カリキュラムツリー(2021年度改編案)

赤字は2021年度からのカリキュラム改編科目。

e-Learningで
2021年度開講予定

e-Learningで2022年度
以降順次開講検討予定





1-(4) 教育分野の再編(理系分野の強化含む)

長期戦略の
冊子より

教育分野の再編とKSCの競争力強化

AIをはじめとする情報技術は日進月歩であり、産業における人材需要は大きく変化していく。関西学院大学が競争力を担保するためには、その変化に応じて新たな教育分野の開拓と既存分野の拡大・縮小を組み合わせた再編が必要となる。

まず神戸三田キャンパス（KSCの競争力）を高めるため、総合政策学部および理工学部の再編することから始め、三田市や兵庫県とも連携した「知の拠点」となるべく、本大学の魅力を高めていく。



1-(4) KSCの学部再編・活性化(7-(3)関連)

2019
年度

関西学院大学は2021年度、理工学部を改組・発展させ、理学部、工学部、生命環境学部、建築学部の4学部を新設します。これにより、神戸三田キャンパス（KSC）は、従来の2学部体制から、新設4学部と総合政策学部の5学部体制へと変わり、さらに質の高い充実した教育・研究を実現します。

2学部から5学部へ



2020年4月27日
新4学部
文部科学省へ
設置届出完了

学生募集活動
の開始

学校教育法上の
措置命令期間である
60日間 経過後

2020年6月27日
届出設置が
認められた



1-(4) KSCが5学部体制へ(7-(3)関連)

2019
年度

学部		学科	定員	目的
新設 4学部	理学部	数理科学科	54名	数理的な思考・問題解決能力を身につける
		物理・宇宙学科	60名	物理現象・宇宙の謎に迫る
		化学科	66名	基本原理を探究し化学の発展に貢献する
	工学部	物質工学課程	55名	物質科学からエネルギー問題を解決する
		電気電子応用工学課程	60名	電力を有効利用し持続可能な社会に貢献する
		情報工学課程	90名	A I や感性など多彩な I T を学ぶ
		知能・機械工学課程	60名	知能との融合による機械システム技術を学ぶ
	生命環境学部	生物科学科	61名	生物を科学的に分析し、環境と生命の共生を考える
		生命医科学科	84名	生命科学の基礎から医学応用まで学ぶ
		環境応用化学科	83名	化学的アプローチで、環境にやさしい社会を創る
	建築学部	建築学科	132名	グローバルな視野で建築と都市の未来を創造する
既存 1学部	総合政策学部	総合政策学科	495名	※海外でのPBLプログラムを創設するなどして教育面をさらに充実させる（活性化）
		メディア情報学科		
		都市政策学科		
		国際政策学科		

KSCキャンパス全体の収容定員は、5,220人から5,200人となる(学部生のみ)。



1-(4)-② KSCコンセプト “Be a Borderless Innovator.”

2019
年度

1. 地球規模課題に革新を起こす探究

—“Sustainable Energy”の一大研究拠点を形成

KSCにおける重点研究テーマを「持続可能なエネルギー（Sustainable Energy）」とします。国連SDGsの目標の一つでもあり、KSCには次世代有機EL（理学部）、パワーエレクトロニクス（工学部）、人工光合成（生命環境学部）など注目を集める関連研究が集積しています。建築学部もスマートシティなど持続可能な建築と都市の実現に取り組みます。総合政策学部もSustainabilityが中核テーマであり、文理の研究力を結集して一大拠点の形成をめざします。

2. 国境を越えた学び

—海外学修を含む国際プログラムを大幅に拡充

学部の専門分野に即した海外学修科目（PBL＝Project-based Learning、フィールドワーク、実習、インターンシップ等）を大幅に拡充し、学生たちが世界各地で社会的課題に各国の学生らとともに取り組む国際プログラムを充実させます。1995年の開設時から国際性で高い評価を得ている総合政策学部はもとより、生命環境学部や建築学部がKSCの国際化をけん引します。

教育・研究 4つの特長

3. 文系理系や学問分野の境界を越えた学び

—分野横断型の教育システムを確立

工学部は①分野融合のカリキュラム②他領域科目の履修③隣接分野のマルチプルディグリー（複専攻）を特色とした課程制を、建築学部と総合政策学部間は双方の分野を学べるメジャー・マイナー制度をそれぞれ導入します。また、5学部の専門分野における基礎的な科目からなるKSC科目群（12科目群）を設け、KSCの学生に他学部の科目群を履修することを強く推奨します。これらにより、文系・理系、学問分野を越えて複眼的な視点を持つ人材を育てます。

4. 大学の枠を越えて実社会で起業する学び

—アントレプレナー育成プログラムの創設

理学部が母体となってアントレプレナー育成科目を創設し、総合政策学部が提供する経営学、知財、会計、マーケティング等の科目で構成される科目群や日本IBMと共同開発した「AI活用人材育成プログラム」（10科目）とを組み合わせることで、学生の起業を後押しします。また、本学同窓のベンチャー企業創業者らに支援を受け、インキュベーション（孵化）機能を整備して共同で起業家を輩出します。



1. “Sustainable Energy” の一大研究拠点を形成

2019
年度

教育・研究
4つの特長

①次世代パワー半導体

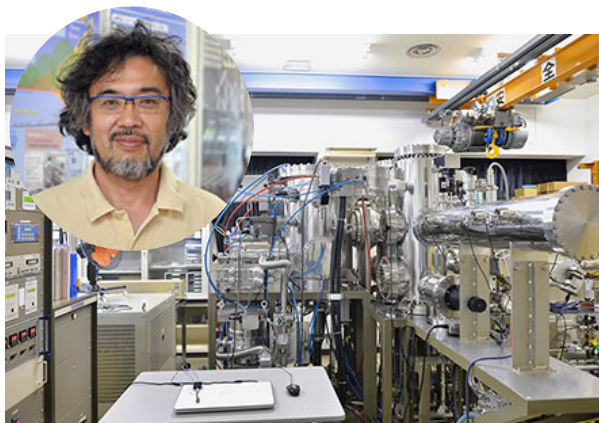
- SiC(シリコンカーバイド)を材料に、「電気自動車」へ搭載して地球温暖化へ貢献
- 豊田通商との大型共同研究の成果
- 工学部電気電子工学課程の大谷昇教授や葛原正明教授(GaN)、鹿田真一教授(ダイヤモンド)らと半導体材料のさらなる研究を進める。

②次世代有機EL

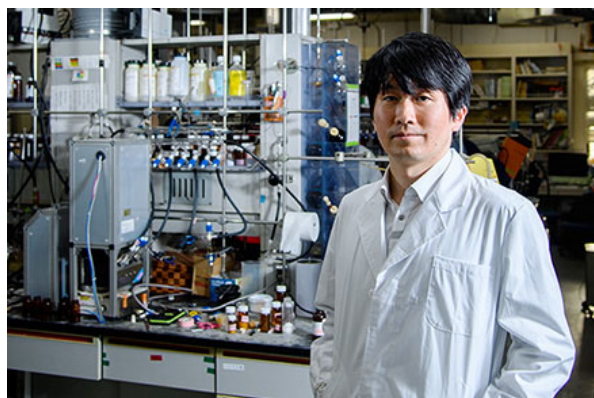
- 有機EL用青色発光新材料「DABNA」を開発し、ハイエンドスマートフォンに搭載され、省エネに貢献
- JNC石油化学との共同研究の成果
- 2019年には、さらに高性能・高機能を有する「v-DABNA」を開発。

③人工光合成

- 水素と大気中のCO₂でメタノールを人工的に合成し、地球温暖化とエネルギー枯渇問題に貢献
- 前任校では国プロ(政府研究開発PJT)のCREST(JST:戦略的創造的研究推進事業)に採択



①金子忠昭 工学部教授



②畠山琢次 理学部教授



③橋本秀樹 生命環境学部教授



1. “Sustainable Energy” の一大研究拠点を形成

2019
年度



教育・研究
4つの特長

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



SDGs ゴール7に取り組むKSCの教員一覧

所属学部	教員氏名(50音順)	<合計31名>
理学部	阪上潔准教授、重藤真介准教授、高橋功教授、田中大輔准教授、谷口亨教授、畠山琢次教授、平賀純子准教授、矢ヶ崎篤教授、山口宏教授	< 9名 >
工学部	大谷昇教授、小倉鉄平教授、金子忠昭教授、作元雄輔准教授、鹿田真一教授、田中裕久教授、日比野浩樹教授、藤原明比古教授、已波弘佳教授、森崎泰弘教授、吉川浩史准教授、若林克法教授	<12名>
生命環境学部	橋本秀樹教授、羽村季之教授、藤原伸介教授、増尾貞弘教授、松田祐介教授	< 5名 >
建築学部	角野幸博教授	< 1名 >
総合政策学部	西立野修平准教授、朴勝俊教授、村田俊一教授、関根孝道教授	< 4名 >



2. 国境を越えた学び

2019
年度

教育・研究
4つの特長

学部の専門分野に即した海外学修科目(PBL=Project-based Learning、フィールドワーク、実習、インターンシップ等)を大幅に拡充し、学生たちが世界各地で社会的課題に各国の学生らとともに取り組む国際プログラムを充実します。

□ 海外理工学プログラム

- 理学部・工学部・生命環境学部・建築学部生対象
- 夏・春季休暇を利用して、専門的知識を英語で学ぶ
 - English for Science & Technology: カリフォルニア大学デビス校
 - NTCU Summer Program: 台湾 国立交通大学
 - Geoscience Program: 台湾 国立台湾師範大学
 - Introduction to Scientific Diving: インドネシア ディポネゴロ大学
 - Coral & Forest Study in Tropical Area: インドネシア ウダヤナ大学

□ フィールドワークプログラム

- 総合政策学部生対象
- 希望者が「全員」留学可能なプログラム
 - 台湾フィールドワーク: 台湾 国立成功大学
 - フィリピンフィールドワーク: フィリピン ニエヴァ・ヴィスカヤ州立大学

□ 共通プログラム

- 国連ユースボランティア
- グローバル人材・企業体感プログラム in シリコンバレー
- ソノマ州立大学英語研修&フィールドワーク

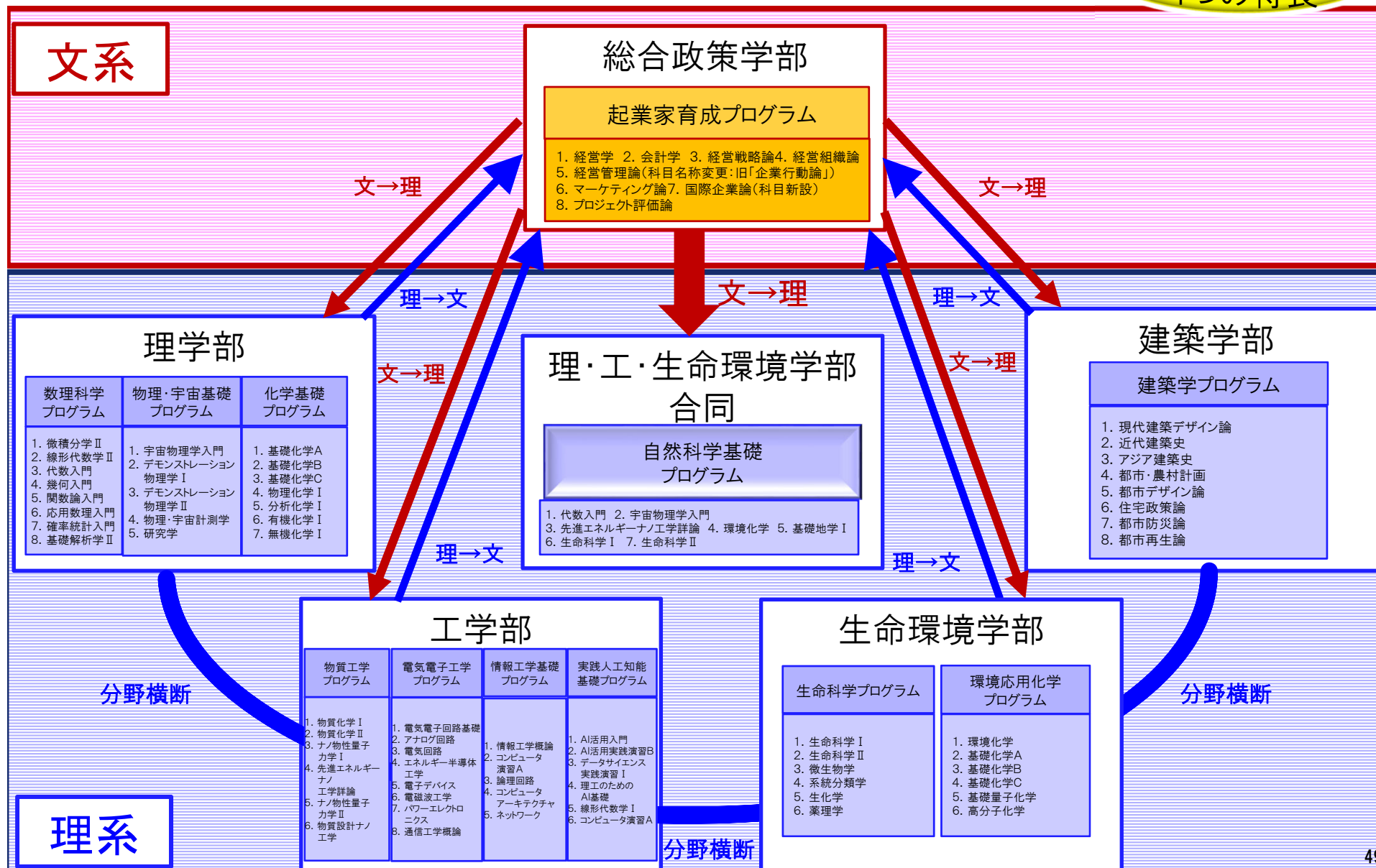


3. 文系理系や学問分野の境界を越えた学び(1)

2019
年度

教育・研究
4つの特長

①KSC分野横断型プログラム(文理横断・分野横断)





3. 文系理系や学問分野の境界を越えた学び(2)

2019
年度

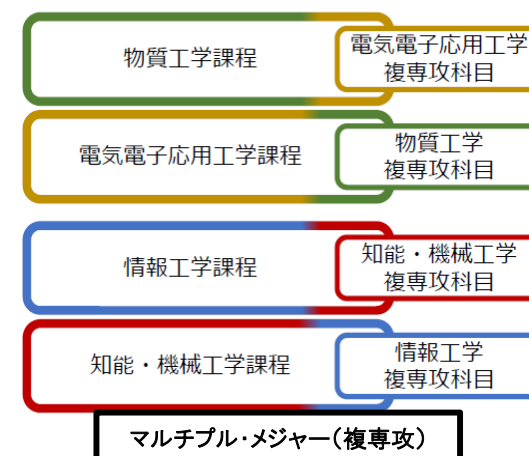
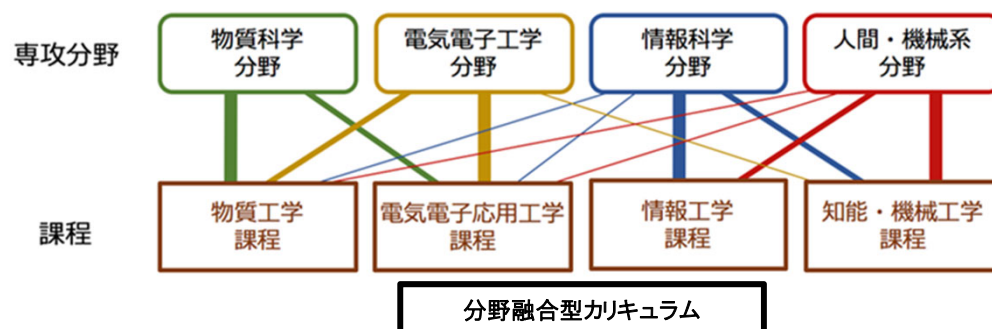
教育・研究
4つの特長

② KSC総合教育科目－「SDGs実践入門」

総合政策学部開講の科目に理系4学部(理学部、工学部、生命環境学部、建築学部)の教員が加わり、KSC5学部の教員・学生が文理の両面からSDGsの目標達成をめざして、ビジネスやNPOなどのソーシャル・イノベーションの理論と実践を学びます。若手事業家らの集まりであるNPO「グローバル・シェイパーズ」の関西地区から講師が参加します。ダボス会議の議長を務めた総合政策学部同窓の坂野晶氏も同NPOのメンバーです。

③ 工学部－「課程制」

- －隣接分野のマルチプル・メジャー(複専攻)
- －分野融合型カリキュラム



④ 総合政策学部・建築学部のメジャー・マイナー制度

- －総合政策学部生の建築学マイナー制度(建築士プログラム＝48～60単位)
- －建築学部生の総合政策学マイナー制度(20単位程度)

⑤ 総合政策学部－レイト・スペシャライゼーション

4つの学科(総合政策、メディア情報、都市政策、国際政策)は取組む課題や学問的アプローチの点で、互いに関連しあっています。そのため、1年次は学科の枠にとらわれない学びを展開。2年次に学科を選択します。



4.アントレプレナー育成プログラムの創設

2019
年度

KSC全体での「総合的な起業家育成プログラム」

教育・研究
4つの特長

1. 正課科目による展開

- ①「ベンチャービジネス創成」(理学部開講) ②「ベンチャービジネス演習」(総合政策学部開講)
- ③「起業家育成プログラム(理系学生対象)」(総合政策学部によるKSC分野横断科目群)
- ④「AI活用人材育成プログラム」(全学開講)

2. 正課外プログラム 2017年度から実施しているものを理系学生向けにアレンジ。

- 「KG STARTUP ACADEMY for KSC」

3. ビジネスピッチコンテスト

①Kwansei Gakuin PITCH CONTEST

本学出身の起業家らの前で、自らのビジネスプランについてピッチ(短めのプレゼンテーション)を行い、フィードバックを受けるコンテスト



②Hult Prize On Campus

“学生のノーベル賞”と称される、世界の学生による起業アイデアのビジネスコンテスト



4. KGOB“エンジェル”からの起業支援

- 起業後株式上場した経営者らが「エンジェル投資家」として約30億円の資金提供による支援を予定

5. KSCベンチャーラボ(仮称)の創設

- 学生と企業・起業家・自治体等が交流するインキュベーション機能をもった施設を検討中。

KSCのさらなる活性化に向けて、以下のような環境の整備を検討・推進している。

Camping Campus

アウトドア用品ブランド
「snow peak」との包括協定締結



KSC学生寮建設計画

2023年春供用開始をめざして
検討中

KSC新棟建設計画

2022年秋供用開始をめざして
検討中

三田駅前再開発構想

三田市と連携しながら、
JR三田駅前再開発構想へ
参画をめざして検討中





“Camping Campus”—snow peakと連携協定

2019
年度

- アウトドア用品ブランド「snow peak」との包括協定を締結(2020年6月17日)

〈目的〉

“Mastery for Service”をスクールモットーとする関西学院大学と、『自然と人、そして人と人をつなげることで人間性を回復する』ことをミッションとして掲げるスノーピーク株式会社とが、人的・知的資源を活用して、新たな学びの環境を創出し、社会に貢献する。

〈連携事業〉

- ◆ キャンパス内でのキャンプを通じた「新たな学び」の創造
- ◆ 共同研究の推進
- ◆ SDGsの推進による社会貢献

「CAMP×US(キャンパス)」 が中心となって取り組みます！

➡ KSCが大好きな学生たちが、自分たちの学びの場の明日を創造するために集まった有志



第1回プレ・キャンプ(2019.10.5～6)—CAMP×US 15名参加

第2回プレ・キャンプ(2020.2.5～6)—snow peak 11名+CAMP×US 30名 参加





“マイボトル事業”—snow peakと共同開発

2019
年度

「関西学院SDGs宣言」の下、KSCのキャンパス全体を推進の対象と位置づけ、
「『誰一人取り残さない』**Kobe-Sanda Sustainable Campus**への変革」に取り組んでいます。

KSC内で年間約27万本のペットボトルが消費されており、この世界規模の環境問題に身近な生活の中で真剣に取り組めます。

まず、2021年度からKSCの学生全員に“マイボトル”を配布し、3万本のペットボトルの削減を目指します。マイボトルはsnow peakと学生（「CAMP×US」）が関学オリジナルのものを共同開発し、導入後の推進活動は学生主体で進めていきます。

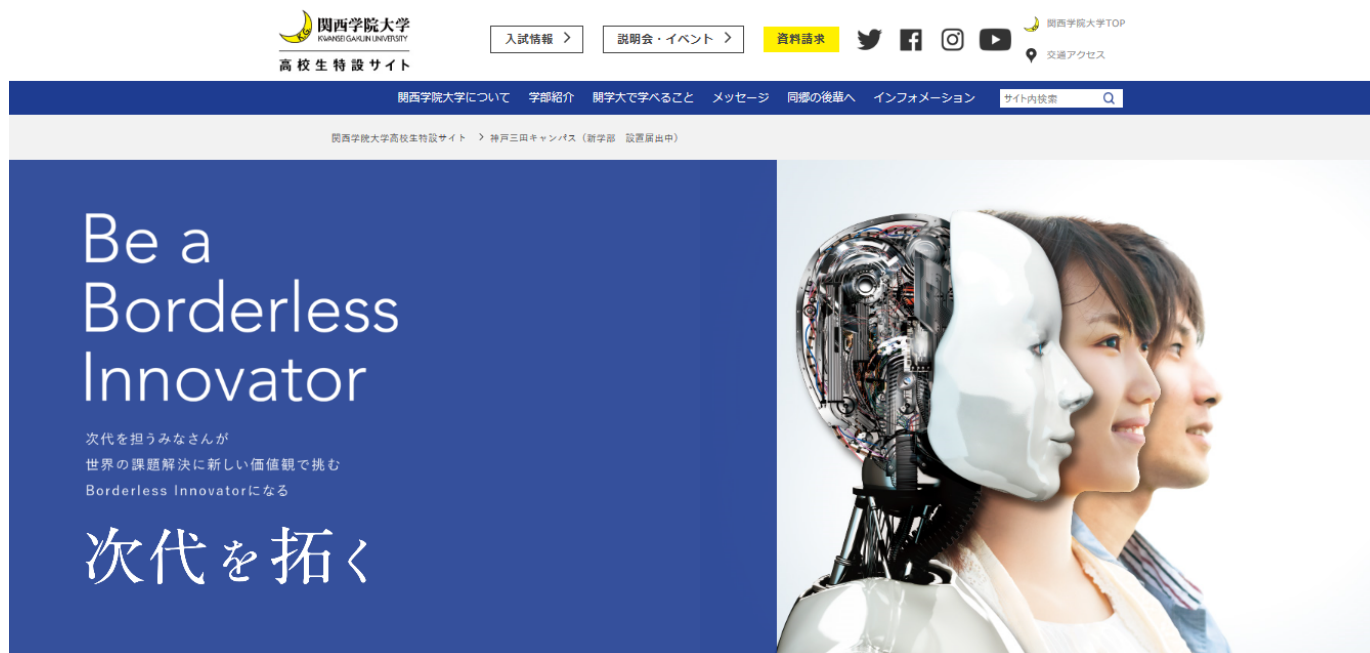




1-(4) KSC特設サイトの開設

2019
年度

「高校生特設サイト」の中に、KSC再編を告知するサイトを開設。バーチャル空間での広報活動を促進していきます。また、多くの学生をこのサイトに引きつけ、どのページを見ているかによって本人の志望を推定して最適の情報を提供していきます。



※<https://whatfor.kwansei.ac.jp/kobe-sanda> より



1-(7).国連等との連携強化

長期戦略の
冊子より

国連職員の輩出やSDGsの推進

本大学は、「国連・外交コース」「国連ユースボランティア」など国連・国際機関と協同して多様な教育プログラムを構築しており、地球温暖化、貧困等においてSDGs（Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標）を推進する国連との連携を一層強化し、国際公共分野で人類の課題に挑む人材を輩出する。



国連外交コース 2017年度新設/累計入学者34名*、修了者14名

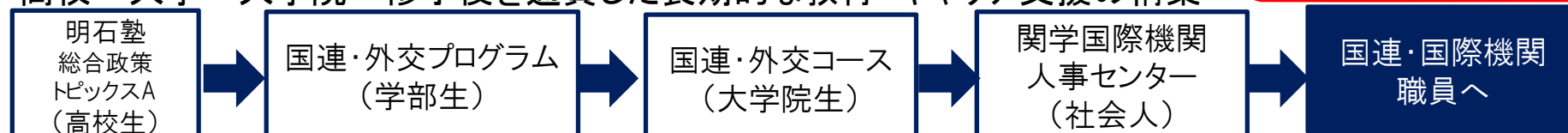
*2020年3月末日時点

第1期生 8名 (2017年度入学者)		第2期生 10名 (2018年度入学者)		第3期生 8名 (2019年度入学者)		<ご参考>第4期生 8名 (2020年度春入学者)	
所属	出身大学	所属	出身大学	所属	出身大学	所属	出身大学
総合政策	関学大 総合政策学部 (早期卒業)	総合政策	関学大 総合政策学部 4名	総合政策	立命館大学 法学部	総合政策	関学大 文学部
	大阪大 外国語学部		同志社大 社会学部		カラチ大(パキスタン) Faculty of Commerce (修士課程)		関学大 総合政策学部 5名
国際	ICU 教養学部	人間福祉	神戸市看護大 看護学部	IBA	シドニー大(豪州) Faculty of Arts and Social Science	IBA	関学大 国際学部
言コミ	大阪大 文学部		関学大 文学部		ミズーリ大学コロンビア校 (アメリカ) English		兵庫県立大学 経済学部
	関学大 総合政策学部	国際	関学大 国際学部		大連外国語大学(中国) School of Software Studies	※2020年度秋学期入学は 1名の予定	
IBA	タマサート大(タイ) 社会学・人類学		京都外国語大学 外国語学部		関学大 文学部		
	サティヤ・ワチャナ・キ リスト教大 (インドネシア) Faculty of Economics and Business(修士課程)	IBA	アウグスブルグ大学 (ドイツ) Faculty of Global Business Management		ネブラスカ大学オマハ校 (アメリカ) College of Arts and Science, International Studies Major 2名		
	ベトナム商業大 (ベトナム) Faculty of Hospitality and						



1人は国連・外交プログラム、
1人は明石塾からで二人とも早
期卒業制度を利用

高校～大学～大学院～修了後を通貫した長期的な教育・キャリア支援の構築





1-(7).国際機関等との連携強化

◆ 8名のコース学生が国連・国際機関でのインターンシップに参加

<2019年度派遣実績>

	受入機関	実習国	実習期間
1	UNHCR駐日事務所	タイ	2019年4月～8月
2	JICA関西	日本	2019年8月
3	National Institute of Development Administration (NIDA)	ベトナム	2019年8月～9月
4	UNFPA東京事務所	日本	2019年7月～9月
5	UNFPA東京事務所	日本	2019年7月～9月
6	ヒューライツ大阪	日本	2019年7月～12月
7	WHO神戸	タイ	2019年10月～12月
8	UNDP駐日代表事務所	タイ	2020年1月～3月

派遣先例: UNHCR駐日代表事務所

2019/4/1～2019/8/30

業務内容:

- ・難民・第三国定住・無国籍に関する出身国情報・判例・国家による実務例などのリサーチ
- ・難民保護や無国籍に関するプレゼンテーション資料の作成
- ・難民保護に関する統計の整理
- ・難民・難民申請者等の対応



◆ 講演会・各種セミナー等を開催

● 国連・外交フォーラム特別講演会2019

Vol1.化学兵器禁止機関 (OPCW)事務局長 フェルナンド・アリアス氏(6/18)

Vol2.UNHCR 駐日代表 ダーク・ヘベカー氏、
前UNHCR 駐インド代表 清水康子氏(10/25)

● International Pre-G20 Summit Joint Workshop(6/23)

◆ 国連グローバルコンパクトへの参加

- 第11回日中韓ラウンドテーブルユースプログラム (2019年8月)に学生2名を派遣





1-(7).高大接続と連携の推進 ～世界市民明石塾～

将来のグローバルリーダー育成を目的とし、
明石康・元国連事務次長を塾長に迎えた
『関西学院世界市民明石塾』
(2016年、2017年、2018年に続き4回目の開催)

- 実施日程：2019年8月6日～8月8日の3日間
- 開催地：西宮上ヶ原キャンパス
- 参加者：WWL事業連携校を中心とした全国の高校から選抜された30名



テーマ：

「Challenges for SDGs!

～Goal 2. ZERO HUNGER

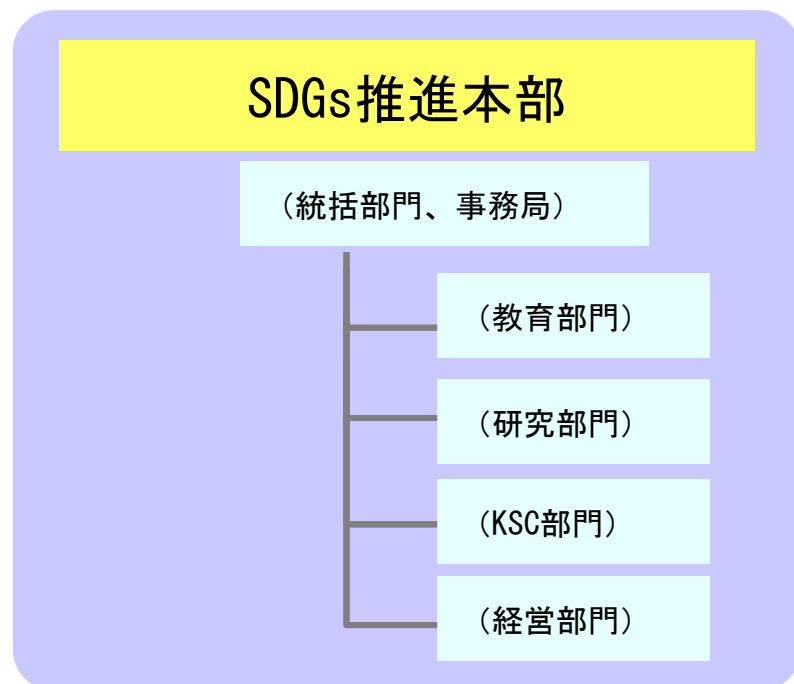
～Goal 3. GOOD HEALTH AND WELL-BEING

～Goal 6. CLEAN WATER AND SANITATION」

SDGs（持続可能な開発目標）の17の目標のうち、Goal2：飢餓をゼロに、Goal3：すべての人に健康と福祉を、Goal6：安全な水とトイレを世界中に、の3つの目標に焦点を当て、講義やディスカッション、ディベートを実施。「生命に関する青年の声明」の作成は2日目と3日目に渡り行いました。



8-(12) SDGs推進本部の設置



本部長：村田治企画担当理事・学長

副本部長：小菅副学長

総合企画部・学長室・広報室

国際連携機構、教務機構、国連・外交センター

研究推進社会連携機構

神戸三田キャンパス事務室

総務・施設管理部、人事部、財務部



<目的>

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する施策の検討・実施、その取組を通じたブランディング強化について、学内の教育、研究、経営部門の緊密な連携を図ることで包括的かつ効果的に推進します。

特設サイト(<https://kgc2039.jp/sdgs/>)の設置、研究者DBの改修による研究領域とSDGsテーマとの関連性の明示、KSCにおけるマイボトル事業などの取組を推進中。





8-(12) SDGs検索－研究者DBの機能追加

2019
年度

関西学院大学 KANSUI GAKUIN UNIVERSITY SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

教員・研究者紹介 Database of Researchers

基本情報 研究活動 教育活動 学内運営 社会貢献 その他

日本語 English

ダイガク タロウ
大学 太郎
国際学部

基本情報

大学 太郎

SDGs 関連ゴール

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 8 働きがいも経済成長も
- 12 つくる責任 つかう責任

研究者データベースにおいて、各研究者が自分の研究領域と関連するSDGsゴールを表示できる機能を追加(2019年10月から可能)

2019年度中に「SDGsゴール別検索」も可能とする機能を追加。これにより、17ゴールに対する本学研究者の関与状況のマッピング化が実現し、学内外に発信する。

また、神戸三田キャンパス(KSC)ではSDGsの7番目のゴールである「Sustainable Energy」の一大研究拠点となることを宣言している。



1-(8) 正課外教育の推進

長期戦略の
冊子より

課外活動から「正課外教育」への転換

汎用的能力や価値観等は、正課教育だけでなく、正課以外の大学の多様な活動・環境によって涵養されており、これらを「正課外教育」として位置付ける。体育会や文化総部などのスポーツ・文化・芸術活動を、「学生の自主活動」であることを尊重しつつ、「大学の責任に基づく教育プログラム」へと発展させる。



1-(8) 正課外教育の推進





1-(8) アカデミック・エリジビリティ制度

【制度の目的】

関西学院大学体育会に所属する学生が、学業の重要性を認識し、学業とスポーツ活動との両立を実現することによって、以下に記す大学の理念と目標に沿った人材育成を実現するとともに、体育会学生が体育会のモットーである“Noble Stubbornness”を自ら体現するために、本制度を制定する。

【制度の概要】

- ・一定数の単位修得を試合・大会出場の条件とする。
- ・単位が一定数に満たない場合、修学支援プログラムを受講する。
- ・2019年度以降の入学生で体育会に所属する者が対象となる。

2019年度入学生より実施。
東進ハイスクールによる補習講義へは、33名が対象となり、そのうち31名が復活している。

【学業条件】

在籍期間中に修得している単位数によって、試合出場資格の有無を下表のとおり判定する。

在籍期間 (春入学の場合)	資格判定	①出場資格あり	②条件付き 出場資格あり	③出場資格なし
0.5 年(1年春)終了時	1次判定	13単位以上	12単位以下	
1 年(1年秋)終了時	2次判定	25単位以上	24～21 単位	20単位以下
1.5 年(2年春)終了時	復活判定	38単位以上	37～31 単位	30単位以下
2 年(2年秋)終了時	3次判定	50単位以上	49～42 単位	41単位以下
2.5 年(3年春)終了時	復活判定	62単位以上	61～52 単位	51単位以下
3 年(3年秋)終了時	4次判定	75単位以上	74～62単位	61単位以下
3.5 年(4年春)終了時	復活判定	87単位以上	86～73単位	72単位以下
4 年(4年秋)終了時	復活判定	100単位以上	99～83単位	82単位以下



1-(10)-⑧ K.G.ポートフォリオについて

	2017年度	2018年度	2019年度
アクセス数※1	302,637件	598,512件	577,239件
データ送信数※2	14,245件	17,534件	12,639件

(各年度とも 4月から翌2月)

※1 学生がアクセスした数。1人の学生の複数回アクセスもカウント。

※2 学生がデータを入力した数。1人の学生が複数回送信もカウント。システム連携の数は含まない。

- 2017年度にK.G.ポートフォリオの運用を開始した。運用開始後も、キャリア相談ができるチャットボット機能や、入力したデータをまとめて出力できるデータアウトプット機能などを追加した。
- 2018年度入学生からは、ポートフォリオを機能拡張したK.G.合格者Naviにより、入学手続書類のデジタル化を実現した。
- 2019年2月には、ポートフォリオの今後の可能性を考えるシンポジウムを上智大学と共同で開催した。
- ポートフォリオを学部に取り組みに活用する事例も増えた。記録された目標や達成状況をゼミの選考材料として活用する学部や、教育実習などのすべての実習を記録させる学部などがある。

上智大学との連携協定記念シンポジウム開催（2019年2月）
「変革する大学 ～IR・ポートフォリオ・クラウドの展開と可能性について～」

関西学院大学
KANSAI GYUSEI UNIVERSITY

ポートフォリオレポート：田中 太郎

学習履歴

学期	タイトル	ステップ	振り返り	自己評価
2016年春学期	授業をがんばる	・毎日トレーニングをする ・1週間以内に授業? ・ECを頑張る	よくできた。	★★★★☆
2016年秋学期	学習をがんばる	・情報・知識を得るために、国際関係の科目を履修する ・身につけた学びを他者へ伝えるために海外でのボランティア活動に取り組み ・身につけた学びを他者へ伝えるために海外でのインターンシップ活動に取り組み	よくできた。	★★★★☆
2017年春学期	授業をがんばる	・毎日トレーニングをする ・1週間以内に授業? ・ECを頑張る	あまりできなかった。	★★★☆☆
2017年秋学期	学習をがんばる	・情報・知識を得るために、国際関係の科目を履修する ・身につけた学びを他者へ伝えるために海外でのボランティア活動に取り組み ・身につけた学びを他者へ伝えるために海外でのインターンシップ活動に取り組み	よくできた。	★★★★☆
2018年春学期	授業をがんばる	・毎日トレーニングをする ・1週間以内に授業? ・ECを頑張る	よくできた。	★★★★☆
2018年秋学期	学習をがんばる	・毎日トレーニングをする ・1週間以内に授業? ・ECを頑張る	よくできた。	★★★★☆

自己目標

ステップ	振り返り	自己評価
目標達成で働くことを目指す！ (国語)		
期間：2016/04/01-2016/09/30		
【ステップ1】 専門教育に向けた土壌を築くためのNPJ試験・基礎知識・技術の修得 【ステップ2】 専門教育に向けて必要な土壌を築くためのNPJ試験・基礎知識・技術の修得 【ステップ3】 専門教育に向けた土壌を築くためのNPJ試験・基礎知識・技術の修得	よくできた。	★★★★☆
友達を作る！ (ライティング)		
期間：2016/04/01-2016/09/30		
・友達とたくさん作るために積極的に話しかける ・海外フィールドワーク参加 ・メールで連絡する	よくできた。	★★★★☆
留学する！ (国語)		
期間：2016/04/01-2016/09/30		
・TOEFL 80/TS4.0以上取る ・ECの授業で積極的に参加する	よくできた。	★★★★☆

アウトプット機能追加





1-(12) 教員個人・組織の教育力向上

長期戦略の
冊子より

ST比の大幅な改善、教学マネジメントの推進

教育の質を高めるために基礎条件であるST比※を大幅に改善する。また、組織的な教育力向上には三つのポリシーに基づく教学マネジメントの推進が重要であり、まず「シラバスの精緻化」と「キャップ制（履修単位数の上限設定）の実質化」に取り組む。

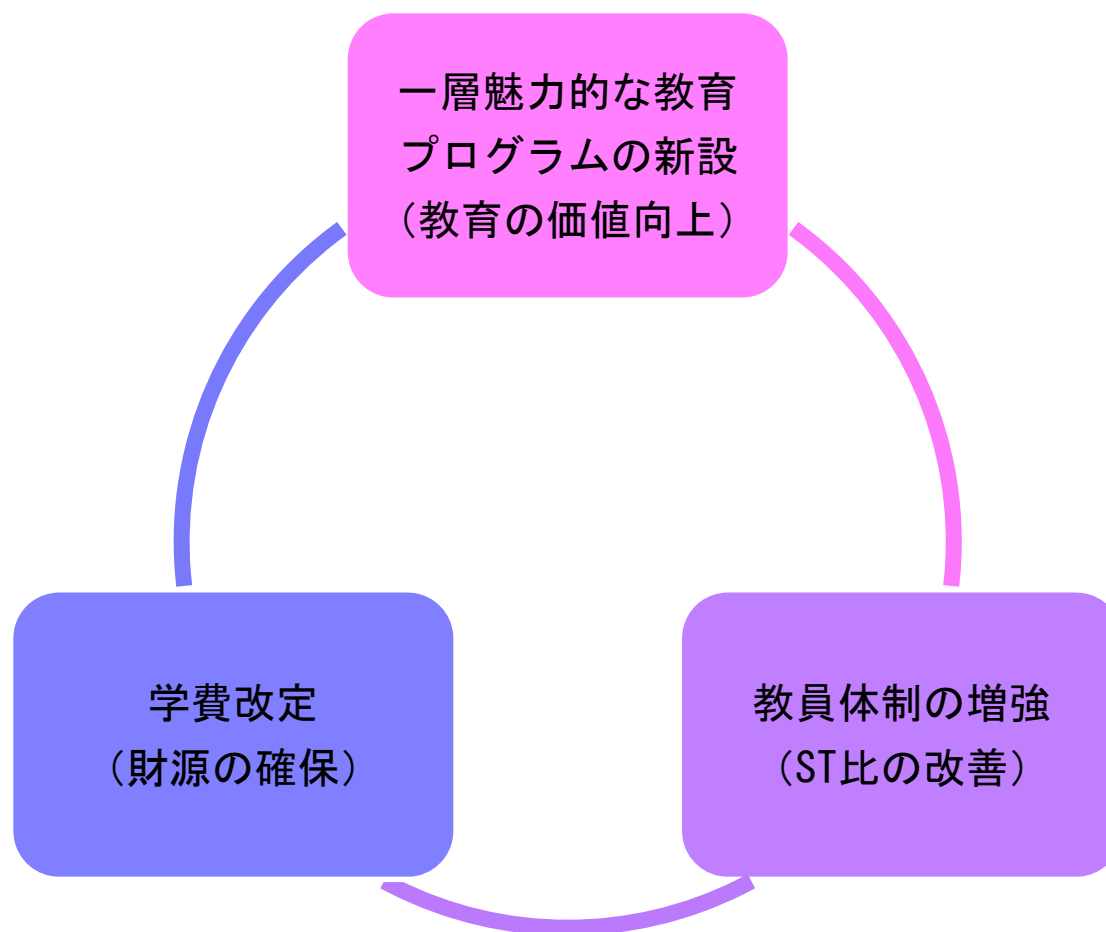
※ 教員一人あたりの学生数

【目標値】 大学全体のST比

35.0 ⇒ 30.0未満
(2016年度) (2027年度)



7-(1) スパイラルアップに向けた3つの必須要件



これら3つをセットした総合的な「学部教育改革施策」を2019年度より公募開始。



7-(1)-① 法学部の取組み—「学部教育改革施策」

2019
年度

1. 特修コースを「司法特修のみ」から「法曹・企業法務・公務の3分野」へ拡充

特修コース(選抜制一括募集:定員50名) ※2年生春スタート

コース	育成する人材像
法曹	裁判官・弁護士など法曹界にて活躍する人材(司法特修と同じ)
企業法務	グローバル企業が抱える、知的財産法紛争等に対応できる人材
公務	国家公務員や外務専門職、国連等国際機関で活躍する人材



「早期卒業制度」
の活用

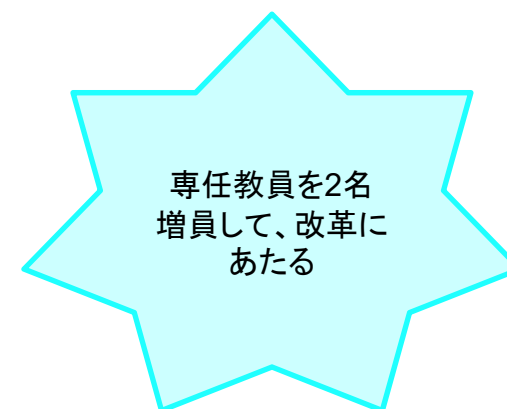
2. 特修コース以外のコース制の再構築

＜現行＞	＜新規＞
司法コース <法律学科のみ>	司法・ビジネスコース <法律学科のみ>
企業法務コース <法律学科のみ>	
公共政策コース(経法連携)	公共政策コース(経法連携)
国際法政コース	グローバル法政コース
政治システムコース<政治学科のみ>	法政社会歴史コース

3. ダブルチャレンジ制度推進策の検討

- 「法学・政治学グローバル演習」の定員増
- 「議員インターンシップ」の定員増
- 「弁護士事務所へのインターンシップ」の新設

等具体案の検討中



専任教員を2名
増員して、改革に
あたる



8-(5) 任期に定めのある新たな教員制度の創設

「教育特別任期制教員」 「任期制実務家教員」 の設置

新たな教育プログラムの企画・コーディネーター等を担う教員制度を2020年度より創設。

◆教育特別任期制教員（教授、准教授のみ）

■ライティングセンター :准教授2名(2019年度～)
■ハンズオンラーニングセンター:准教授1名(2020年度～)
■理工学研究科 :准教授1名(2020年度～)

学部、機構、センター等の特定の教育プログラムの企画・コーディネート^{もつぱ}を担う「専ら教育に取り組む教員」（責任コマ週12時間）。任期は3年1期で、2回限り更新可能。毎年度、教育活動に関する評価を行い、任期更新にあたっては評価結果を踏まえて審査する。また、また通算契約年数が10年を迎えるにあたっての契約更新においては無期転換の採否を判断する。

◆任期制実務家教員

従来、司法研究科・経営戦略研究科のみで採用が可能であった実務家教員を学部の特定期間プログラムでも採用可能とするもの。



1-(13)-① 学修支援の充実(学士課程教育)

2019
年度

ライティングセンターの設置

学生の学術的な文章作成能力（ライティングスキル）の向上を支援するため、教務機構の下に「ライティングセンター」を2020年度に設置しました。

センターでは学部学生および大学院生を対象に全学科目を開講しています。また、2021年度から学部学生向け対面指導を行うため、院生や研究員を対象とした教育指導員養成研修も実施します。

<2020年春学期 スタディスキルセミナー(リポート執筆の基礎)>

担当教員		定員	申込者数 (第1希望)
時任 隼平	准教授	20人 (20人×1クラス)	29人
西口 啓太	教育特別任期制准教授	120人 (20人×6クラス)	402人
福山 佑樹	教育特別任期制准教授	100人 (20人×5クラス)	460人
三井 規裕	専任講師	40人 (20人×2クラス)	165人
合 計		280人	1,056人





3.研究

競争的環境により、
「世界トップレベルの研究」を創り出す



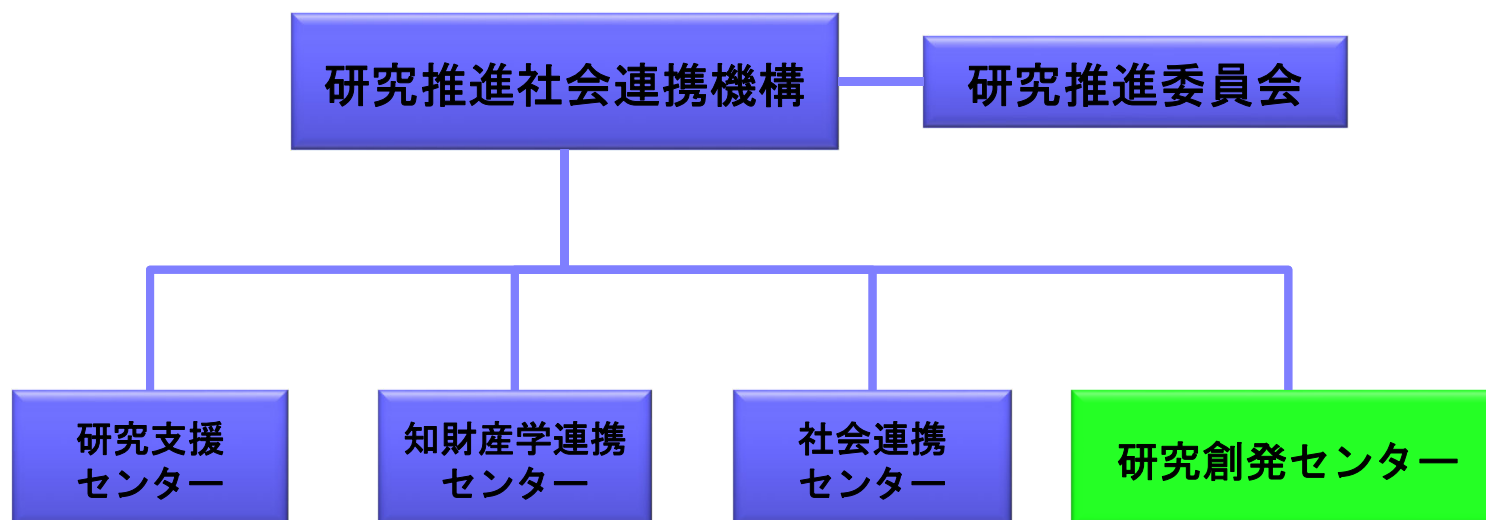
3-(2)-①.「研究創発センター」の創設

<目的>

長期戦略テーマ「個別研究の活性化」「研究ブランドの確立」の実現のため、各実施計画及びその他のプロジェクトを推進する。

<業務>

研究に関する情報収集、研究力分析、戦略検討・立案、産学連携及び補助金申請の支援など、URA (University Research Administrator : リサーチ・アドミニストレーター) を採用して、研究の活性化に導く。



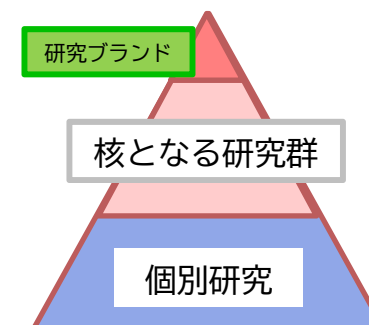


3-(2)-②.「感性価値創造インスティテュート」を選定

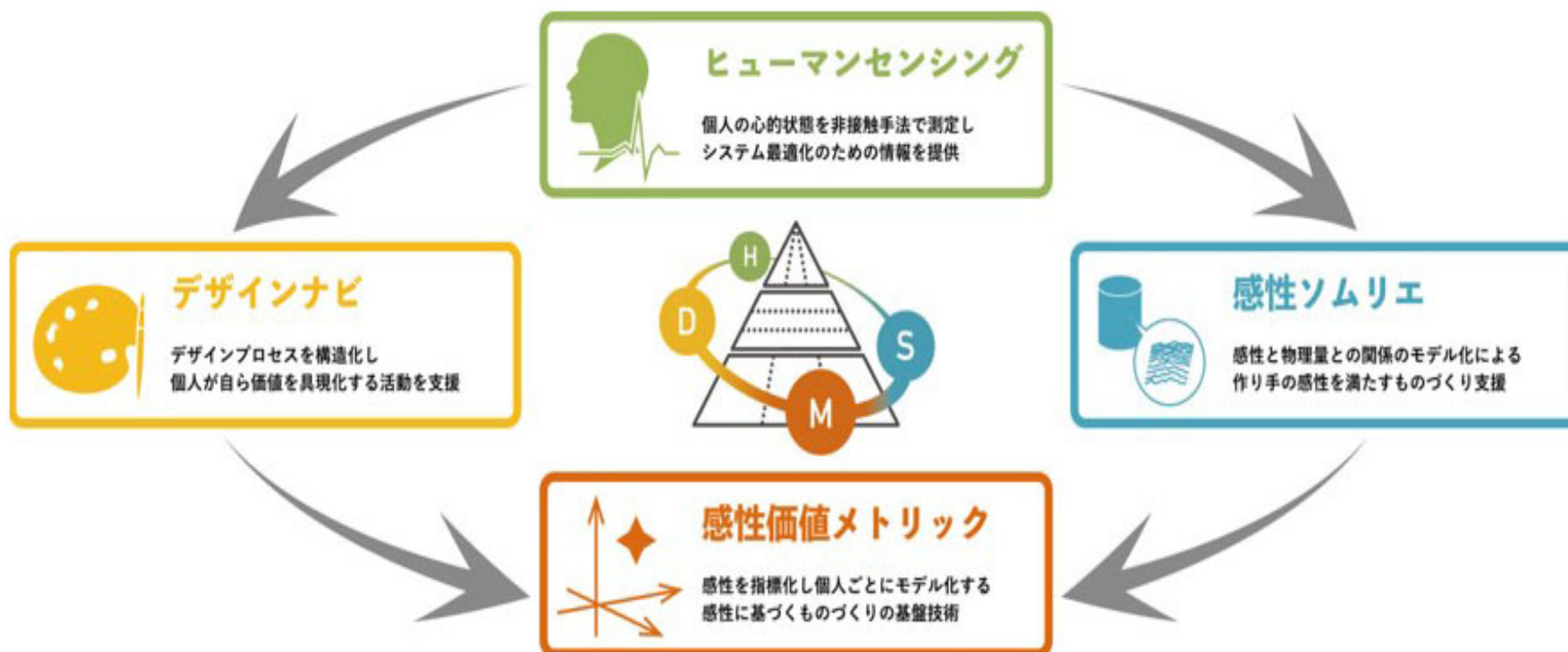
2019
年度

2020年1月、「核となる研究群」として、「幸福のための感性・知性・感情の研究」を進める「**感性価値創造インスティテュート**（代表者：**長田典子理工学部教授**）」を選定した。

同インスティテュートは、産業や生活環境における新たな感性価値を創出するため、科学・技術・芸術を融合した新しい方法論の研究を行っている。



感性価値創造インスティテュート





3-(2)-④.研究活動情報発信サイトの稼働

2019
年度

研究活動や研究業績といった情報を発信するシステムを構築し、各種情報の随時発信を開始しています。

— PICK UP —



2019.09.20
土方嘉徳・商学部教授が国際会議
CollabTech 2019にて基調講演を実施



2019.09.05
渡秋作・教育学部教授の活動がフジテレビ「フューチャーランナーズ」で紹介されました



2019.08.26
国際数理科学協会 2019 年度年会「統計的推測と統計ファイナンス」分科会研究集会が開催されました

※ <https://research-activity.kwansei.ac.jp/> より

4.総合学園と一貫教育

建学の精神を共有し、
幹の太い総合学園を実現する



4.国際化の推進(総合学園と一貫教育)

長期戦略の
冊子より

学院全体で国際化を卓越したレベルへ

高等部、千里国際高等部もSGHに指定され、大学との緊密な連携によってグローバルリーダー育成に取り組んできた。千里国際キャンパスにある千里国際高等部・中等部、大阪インターナショナルスクールには35以上の国籍の生徒・教員が集い、両校が英語による授業を共有するなど、特徴ある学びと交流を通して国際的な環境を創り出している。大学・各学校が連携・連動し、学院創立時からの伝統である「国際性」を卓越したレベルにまで進化させる。



4-(4)-⑤.高等部がWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）に採択

＜実施期間＞ 3年間（2019年度～2021年度）

＜構想名＞ “AI活用 for SDGs” 「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」
～Society 5.0に向けたWWLCリーディング・プロジェクト～

＜概要＞ 先進的なカリキュラムの研究開発・実践を行う。
また、持続可能な取組への支援等による体制整備を行うとともに、関西学院大学が中心となり、拠点校をはじめとする連携校、国外の大学、企業、国際機関等と協働し、AIの活用によりSDGsの課題を解決できる能力を涵養することを通じて、Society 5.0を牽引し世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベティブなグローバル人材の育成を目的とする。

＜採択拠点校＞全国10校（国立2校、公立5校、私立3校）

都道府県	事業拠点校
兵庫県	関西学院高等部
	神戸市立葺合高等学校（公立）
大阪府	大阪府立北野高等学校（公立）
京都府	立命館宇治高等学校（私立）
埼玉県	筑波大学附属坂戸高等学校（国立）
東京都	東京都立南多摩中等教育学校（公立）
東京都	渋谷教育学園渋谷高等学校（私立）
石川県	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校（国立）
静岡県	静岡県立三島北高等学校（公立）
広島県	広島県立広島国泰寺高等学校（公立）

事業連携校
20校

京都教育大学附属高等学校	国立
京都市立西京高等学校	公立
大阪教育大学附属高等学校池田校舎	国立
大阪府立千里高等学校	公立
高槻中学校・高等学校	私立
清風南海高等学校	私立
関西学院千里国際高等部	私立
兵庫県立神戸高等学校	公立
兵庫県立長田高等学校	公立
西宮市立西宮高等学校	公立
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	公立
兵庫県立加古川東高等学校	公立
兵庫県立姫路西高等学校	公立
兵庫県立八鹿高等学校	公立
兵庫県立洲本高等学校	公立
兵庫県立北摂三田高等学校	公立
兵庫県立国際高等学校	公立
白陵高等学校	私立
奈良県立畝傍高等学校	公立
広島女学院中学高等学校	私立



4-(4)-⑤.WWLコンソーシアム構築支援事業

"AI活用 for SDGs"

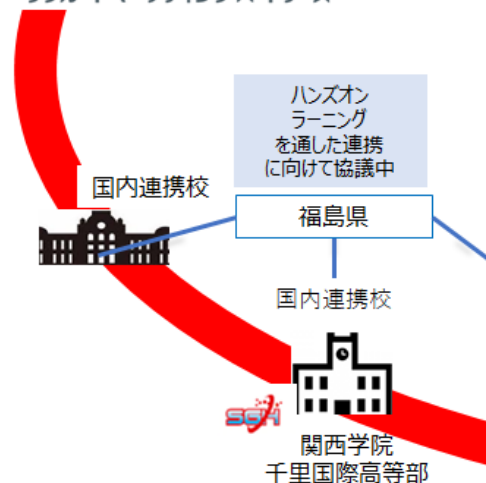
「地球と人類に貢献する
平和構築のための学び」
～Society 5.0に向けた
WWLリーディング・プロジェクト～



オンラインにおける「AI活用入門講座
開講」を通じた連携



リクルートマーケティングパートナーズ



関西学院・関西学院大学

ALネットワーク・プログラム

"AI活用 for SDGs" ～Society 5.0に向けたWWLリーディング・プロジェクト～

(関西学院大学 スーパーグローバル大学)

- 1) WWL・AI活用人材育成プログラム
 - 2) SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEAM系の「探究・課題研究」への支援（講師派遣等）
 - 3) アドバンストプレースメント（単位履修・高大連携科目）
 - 4) Harvard College Japan Initiative X 関西学院大学ワークショップ
 - 5) 高校生公開討論会
 - 6) 関西学院世界市民明石塾
 - 7) 探究甲子園（仮称）
 - 8) 高校生国際交流のついで
 - 9) テーマに基づく国際会議
- (管理機関 関西学院)
継続を担保する人的・財政的支援

(管理機関 学校法人 関西学院) 継続を担保する人的・財政的支援
(関西学院大学)
ハンズオンラーニングを軸とした、平和・SDGsを志向する課題探究型カリキュラムの開発

拠点校：関西学院高等部

研究開発・実践テーマ："AI活用 for SDGs"

「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」

- 1) 全学年において文理科目をバランス良く配置し、授業・課外活動双方において、平和やSDGsをキーワードとした、教科横断型で体系的なカリキュラムを開発する。
- 2) 高校1年次は、SGHから継続するGLP（グローバルリーダープログラム）を継続。適性と関心のある生徒を対象とし、知識の修得・活用・探究のバランスを考慮しながら、AI活用・国際協働・ハンズオンラーニングの基礎を学ぶ。
- 3) 高校2年次には、1年次のGLPメンバーを核として、「AI活用演習」「グローバルスタディ」「ハンズオンラーニング」等を必修選択科目として開講し、対象となる生徒を増やす。大学教員・外国人講師もそれら授業を担当する。
- 4) 高校3年次には、選択科目として高校2年次の発展形を用意し、更に対象生徒を増やす。国内・海外でのフィールドスタディ等を踏まえ、連携校とそれぞれの知見を活かし、平和構築に向けた国際シンポジウムを開催する。
- 5) ICT環境を活かし、全ての生徒が授業・課外活動双方において効果的にeポートフォリオを活用する。質の高いポートフォリオによる振り返りを重ね、次の活動につなげるよう導くことで、生徒の主体性を育んでいく。
- 6) 海外の高等学校とのフィールドスタディを含めた英語での探究活動や、インターナショナルスクール等との国内外での研修等をカリキュラムの中に体系的に位置づけていく中で、海外大学進学等を含めた多様な進路を視野に入れる。
- 7) 関西学院大学による、選択科目としての様々な講座提供により、文系理系を問わずより高度な内容を学びたい高校生が学習できる環境整備を行う。なお、その際に一部の科目については、関西学院大学による単位認定も可能とする。



GLOBAL LINKを通じた連携

インドネシア
ハラバン高校
連携校



オーストラリア
カンボジア
連携校

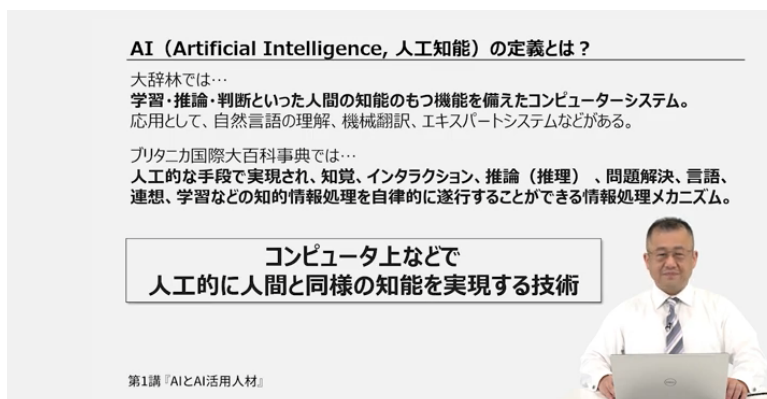
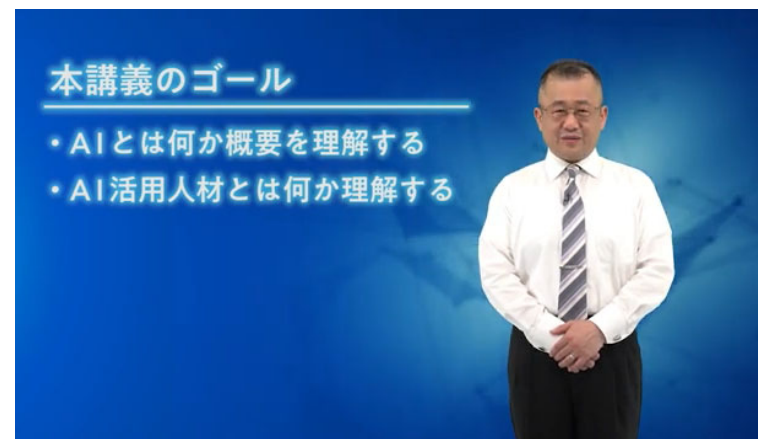


eポートフォリオを活用
した主体性評価を通じた
海外連携校との連携



4-(4)-⑤.スタディサプリで「AI活用入門」を配信(WWL)

本学高等部が拠点校として採択されたWWL事業で、“AI for SDGs”構想に基づき、大学の「AI活用人材育成プログラム」の入門科目「AI活用入門」を映像化し(10回分)、リクルート社の協力によって「スタディサプリ」で連携校20校に無料配信する。



全10回

関西学院高等部

事業連携
校20校

京都教育大学附属高・京都市立西京高・大阪教育大学附属高池田・大阪府立千里高・高槻中高・清風南海高・関西学院千里国際高・兵庫県立神戸高・兵庫県立長田高・西宮市立西宮高・兵庫県立篠山鳳鳴高・兵庫県立加古川東高・兵庫県立姫路西高・兵庫県立八鹿高・兵庫県立洲本高・兵庫県立北摂三田高・兵庫県立国際高・白陵高・奈良県立畝傍高・広島女学院中高



4-(4).初中高大連携のプログラミング教育

■プログラミング一貫教育

ー「学長指定研究」として、初中高大にて一貫したAI/プログラミング教育

■初等部／西北クロスでのプログラミングワークショップ

ー大学生が初等部生にプログラミングを教えるワークショップ。（西北クロスにおいては有料）

■SISでのプログラミングワークショップ

ー大学生がSIS中高生にプログラミングを教え、その経験を生かしたSIS中高生が小学生にプログラミングを教えるワークショップ。

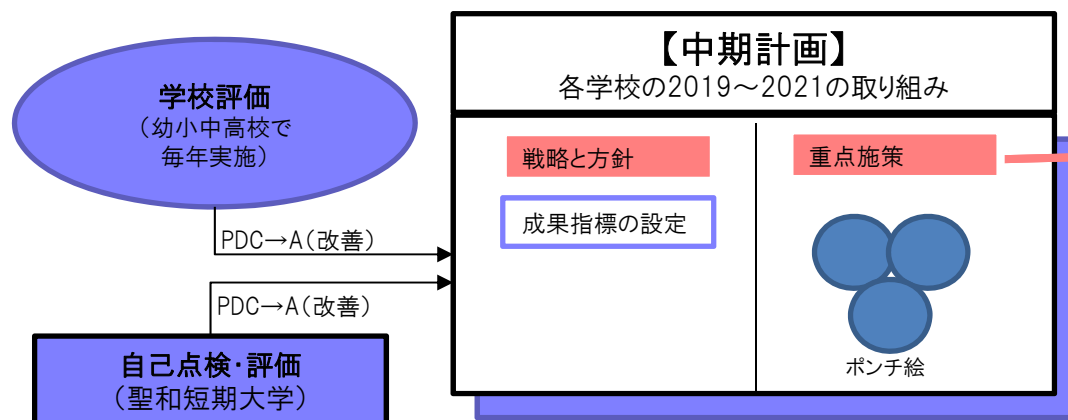
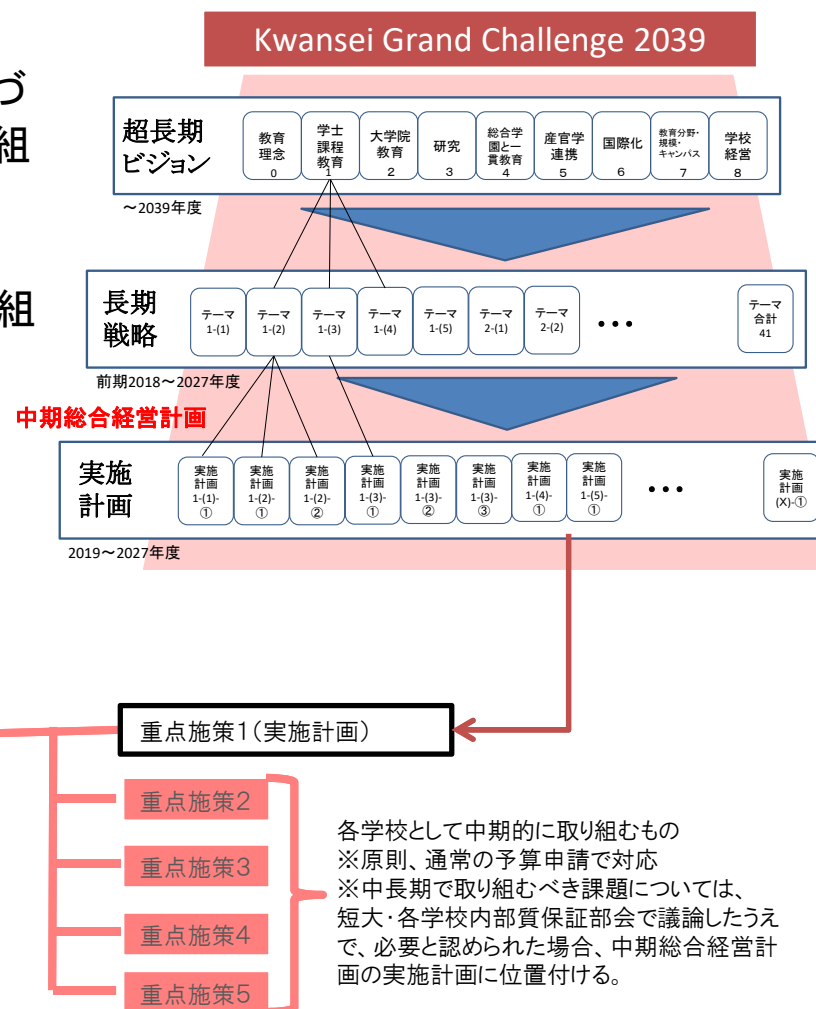


4-(4) 院内各学校の中期計画を策定

2019
年度

大学以外の各学校においては、
Kwansei Grand Challenge 2039 の長期戦略テーマに基づいた実施計画を進めると共に、各学校としての独自の取り組みを「中期計画」として2019年度に取りまとめた。

「中期計画」には、各学校が毎年取り組んでいる「学校評価」や「自己点検・評価」で出てきた課題や改善すべき点を組み込んでいるほか、諸活動の進捗・成果を測る指標を積極的に定めている。





4-(4) 聖和短期大学の取り組み(2019-2021)

2019
年度

	人材育成・教育の方針	志願者獲得の方針	中期的課題	重点施策
聖和短期大学	◎人材育成、教育の方針 ・「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成を目指し、キリスト教主義に基づく全人教育を通して、他者、特に幼い者を愛し仕える高い使命感を持った保育者を養成する。 ・幼稚園教諭・保育士となる際に必要な基礎的・基盤的な学習ができるよう、教育課程、教授内容を改善する。 ・保育の現場に立つ使命感を構築できるよう、実習や授業など有意義な機会を提供する。 ・新しい教育課程の基本となる幼児期に育みたい資質・能力「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性」の内容について、学生が体得できるように享受する。また、最新の子どもに関する調査結果などを積極的に取り入れ、時代にあった幼稚園教諭、保育士、保育教諭の養成に努める。 ・学習成果の検証の実施と見直し ・多様な学びを卒業後も続けることができるように、コース制について検討する。 ・学生支援体制の見直しと充実を図る。	・入学者選抜試験等、「学力の3要素」(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を多面的・総合的に評価するものへと改善する。 ・聖和短期大学の魅力を伝えるための広報の戦略を常に検討する。 ・中高生向けの広報を充実させる。 ・オープンキャンパスの時期や内容を検討する。 ・多様な進路を選択できるように、編入制度の充実と周知を図る。(大学・高等部との接続) ・高校との連携を充実させる。(高校への出張授業等)特に、保育系コースを持つ高校との連携を強化する。 ・保育団体や地方自治体との連携を強化し、保育者を目指す人材を確保する。	・志願者の獲得 ・教育の質保証 ・学生支援体制の見直しと充実 ・ST比率の見直し ・入試業務の効率化 ・大学の社会的活動の充実 ・実習施設との協力体制の構築 ・保護者への情報発信の充実(保護者対応)	①総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透 ②広報戦略の充実 ③授業内容の充実 ④学生支援体制の推進 ⑤質の高い保育者の輩出 ⑥再教育システムの充実

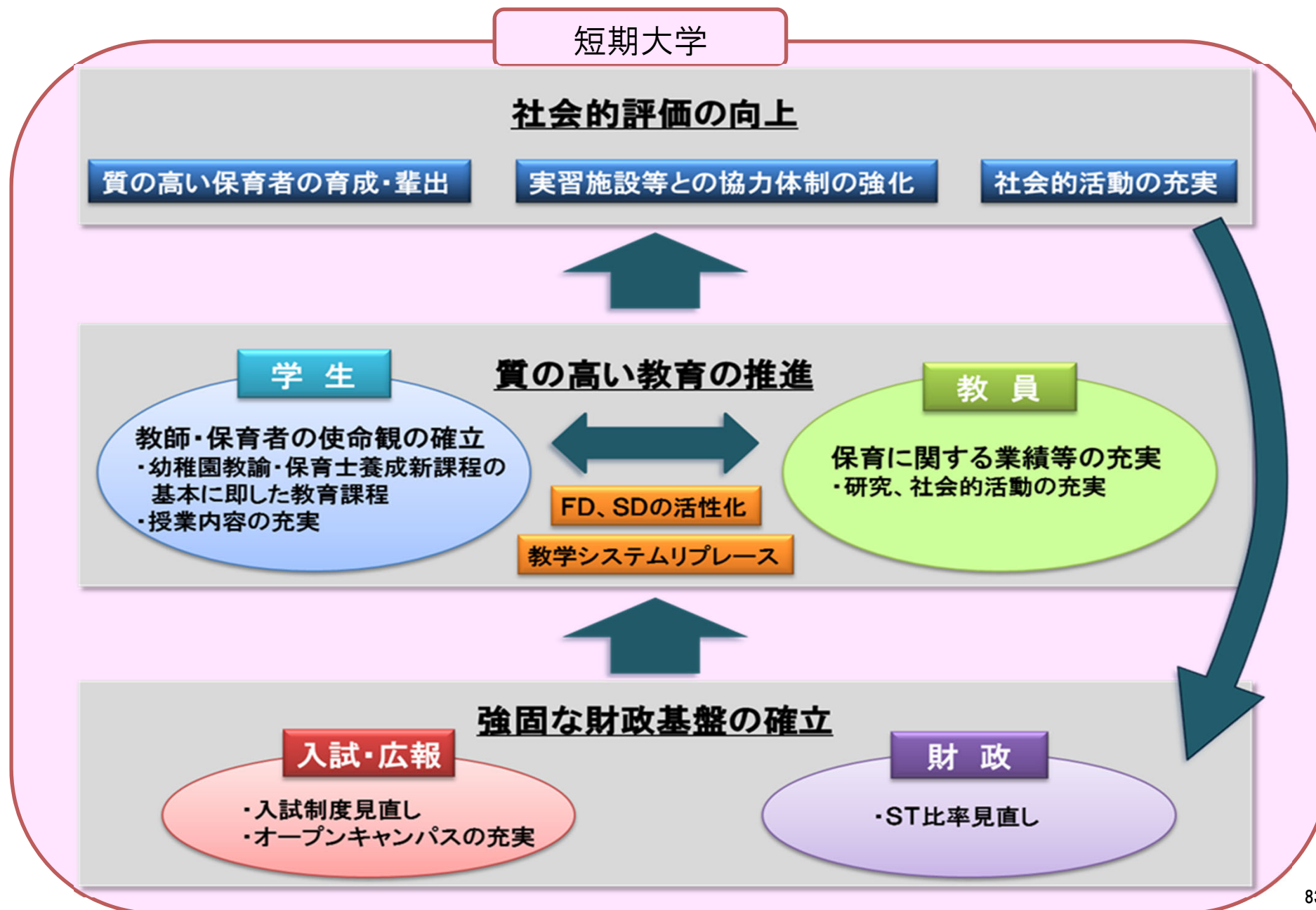
設定指標＜抜粋＞

- ・出願高校数
- ・免許資格取得率
- ・学修成果の獲得状況
- ・学生満足度
- ・就職率
- ・就職先からの評価 など



4-(4) 聖和短期大学の取り組み(2019-2021)

2019
年度





4-(4) 幼稚園の取り組み(2019-2021)

2019
年度

	人材育成・教育の方針	志願者獲得の方針	中期的課題	重点施策
幼稚園	◎教育方針 一人ひとりの子どもが、神さまと人に愛され、安心と信頼関係の中で喜びをもって生き、主体的に社会的に遊び、生活から、愛されている自分を感じ、生涯にわたる生き方の基礎を培い、私が私になっていくことを支える保育を実践し、キリスト教主義に基づく全人教育を行う。幼稚園では“Mastery for Service”を体現する世界市民に育つよう、心の教育を大切する。 ◎人材育成 ・保育の振り返り(全体・学年・個人) ・チーム保育のなかで他の教諭から学ぶ ・研究課題、自己課題を見つけて取り組む ・園内研修の充実 ・研修会への参加	◎幼児教育無償化への対応 ◎保育方針・内容の理解 ◎園の様子を発信 ◎募集エリアの拡大	◎キリスト教保育質向上、保育カリキュラムの見直し ◎志願者数の獲得 ◎保育環境の整備、充実 ◎保護者との連携 ◎保育者の確保 ◎保育者の育成 ◎初等部との連携	①総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透 ②幼児教育無償化への対応、志願者数の獲得 ③質の高いキリスト教保育の実践、キリスト教保育質向上のための研究 ④保育環境の整備、充実 ⑤保護者との連携 ⑥初等部との連携

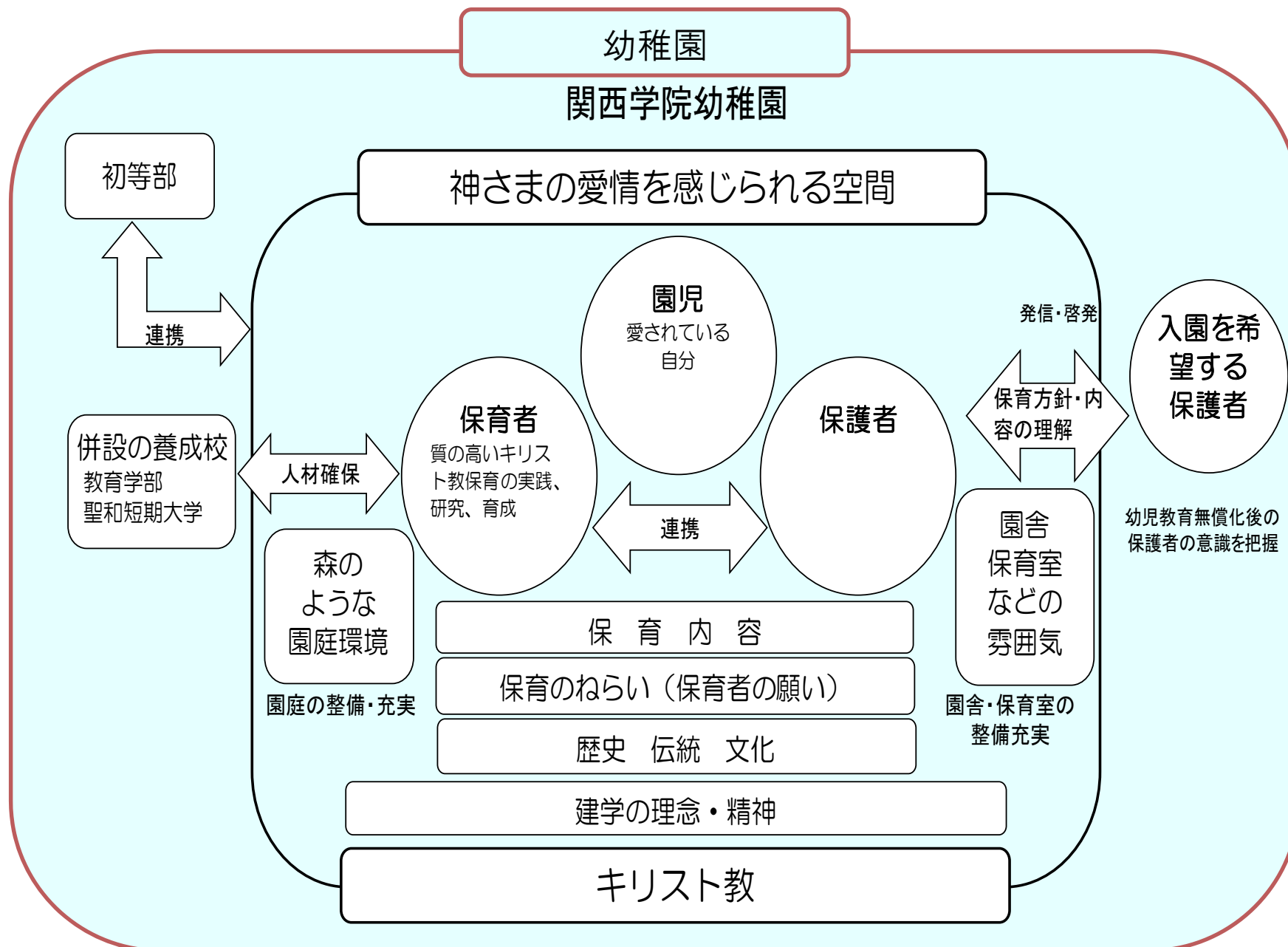
設定指標＜抜粋＞

- ・スクールモットーの認知度・共感度
- ・3歳児の志願者
- ・キリスト教主義教育の実践度
- ・保護者との連携(満足度) など



4-(4) 幼稚園の取り組み(2019-2021)

2019
年度





4-(4) 初等部の取り組み(2019-2021)

2019
年度

	人材育成・教育の方針	志願者獲得の方針	中期的課題	重点施策
初等部	◎キリスト教主義に基づく 全人教育と“Mastery for Service”の具現化 【4つの柱】 聖書・礼拝、国際理解、 全員参加・理解、本物 (文化、スポーツ、芸術 自然と触れる)	◎魅力ある学校づくり ◎広報活動の充実 ◎入試方法変更(A入試、 B入試の実施)	◎志願者の確保 ◎英語力の向上 ◎教育課程の改善 (宿泊的行事 KGタイム) ◎配慮が必要な児童への サポート ◎教員が欠けた場合の セーフティーネット ◎校務の適正化(長時間 勤務の常態化の解消) ◎ICT機器、各教科備品 の更新 ◎初・中・高間での情報及び 学力観の共有	①総合学園の「見える化」と 関西学院アイデンティティの 浸透 ②志願者の確保 ③英語力の向上 ④教育課程の改善 (宿泊的行事 KGタイム) ⑤配慮が必要な児童への サポート

設定指標＜抜粋＞

- ・スクールモットーの認知度・共感度
- ・志願者数
- ・英語授業への関心度・理解度 など



4-(4) 初等部の取り組み(2019-2021)

2019
年度

初等部





4-(4) 中学部の取り組み(2019-2021)

2019
年度

	人材育成・教育の方針	志願者獲得の方針	中期的課題	重点施策
中学部	◎人材育成の方針 関学スピリットを軸とする者を育てる ◎教育の方針 キリスト教主義に基づく全人教育を実践する	関学ファンを創生し獲得する ◎入試の内容、及び出願手続きの継続的見直し ◎オープンスクールや学校説明会での訴求力向上 ◎学校案内冊子等の広報ツールの費用対効果に基づく改善 ◎高等部との広報連携の強化、及び高中一体の訴求力の向上 ◎初等部への中学部広報の継続	◎キリスト教主義教育への教員の理解の深化 ◎教員の労働環境の改善を通じた、ワークライフバランスの適切化と教育の質の向上 ◎新日程入試の安定的運用 ◎教員間の認識と注力のベクトル合わせ、及びそれを通じた教育の質の向上 ◎高等部への進学者数、及び初等部からの入学者数の高位安定化 ◎多様性の精神の涵養 ◎初・中・高の連携強化	①総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透 ②「大学生メンター制度」の導入 ③働き方改革に伴う諸施策 ④新日程入試の運用の精緻化、及び広報戦略の強化 ⑤教育方針や学校の課題の共有、及び主な課題の克服による、教育の質の向上～「Kwanseiコンピテンシー」の幹の涵養を念頭に ⑥多様性の精神の涵養に向けた、国際理解教育・英語教育・人権教育の充実 ⑦初・中・高の連携強化

設定指標＜抜粋＞

- ・スクールモットーの認知度・共感度
- ・一般入試倍率
- ・生徒の異文化への興味度など



4-(4) 中学部の取り組み(2019-2021)

2019
年度

中学部

“Kwansei Grand Challenge 2039 長期戦略テーマ:「総合学園」の枠組み再構築及び特長ある一貫教育の創出”

関西学院高等部・関西学院大学の中核を担う者
～確かな学力、向き合う姿勢と力・広がる心、強くしなやかな体～

高等部との連携強化

進学者数の高位安定

関学スピリットを軸とする生徒

「Kwansei コンピテンシー」の基礎育成

知

- ・知識、技能
- ・思考、判断、表現
- ・主体的に学ぶ力

キリスト教主義に基づく
全人教育

心

- ・品位、誠実さ
- ・粘り強さ
- ・多様性
(国際性・人権意識など)

体

- ・基礎体力
- ・しなやかさ
- ・自律の基礎

教員の「働き方改革」の推進

“Mastery for Service”
を体現する世界市民の育成

共感する心、
「感謝・祈り・練達」

PTA・同窓会・後援会

師弟同行の実践

ICTの活用

地域社会

・初等部との連携強化
・広報の強化

入学者数の
高位安定

関学ファン
の
創生と獲得

・入試運用の精緻化
・広報の強化

関西学院初等部

一般小学校



4-(4) 高等部の取り組み(2019-2021)

2019
年度

	人材育成・教育の方針	志願者獲得の方針	中期的課題	重点施策
高等部	◎人材育成の方針 1. 建学の精神“Mastery for Service”を体現できる世界市民の育成(平和な社会を築く担い手としての世界市民) 2. 関西学院大学の中核となる生徒の育成 3. グローバル社会を生き抜くアクティブラーナーの育成 ◎教育の方針 1. キリスト教主義教育に基づく全人教育 2. 礼拝(聖書)、人権教育、平和教育、国際理解教育、自治活動、HR活動、クラブ活動やボランティア活動など、あらゆる教育活動を通して基礎学力の定着を図り、批判的思考力、判断力、表現力、探究する力を養う 3. すべての教育活動において、Kwanseiコンピテンシーの育成を念頭に置いた、(教育基盤)改善の取り組みを行う	◎優秀な生徒を確保するため、入試・広報戦略の見直しを行う ①入試制度の改革に着手 ②学校案内等各種広報ツールの改善 ③費用対効果を検証した上で、新規の広告媒体への出稿や外部説明会の実施を検討 ④オープンスクールや外部説明会実施方法の改善	1. キリスト教主義に立つ建学の精神を堅持するための教員研修 2. 教員の労働環境の改善(クラブ活動における教員の仕事の軽減化も含め、適切なワークライフバランスの確立を目指す) 3. 「Kwanseiコンピテンシー」を身につけるため、正課・正課外教育の中で、ICTを適切に用いながら、批判的思考力、判断力、表現力、探究する力を養う、アクティブラーニングの実施及びカリキュラム化 4. 初・中・高間での情報および学力観の共有 5. グローバル人材育成と国際理解教育・人権教育の充実(ATE教員の増加と長期雇用) 6. 入試・広報戦略の確立と広報活動の一貫教育を生かした一体化 7. 適切な生徒指導、進路指導のための情報管理システムの整備 8. 財政基盤の強化のための募金活動の推進	①総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透 ②高等部から大学への内部進学率維持 ③高等部生の「学びの先取り」の具体的検討と推進 ④「大学生メンター制度」の導入 ⑤働き方改革に伴う各施策 ⑥「Kwanseiコンピテンシー」の育成のための教育目標の策定と、その目標達成のための基礎学力、批判的思考力、判断力、表現力、探究力向上のための教育の活性化 ⑦グローバル人材の育成と国際理解教育の充実 ⑧策定された教育目標に沿った入試制度改革とそれに基づいた広報戦略の強化

設定指標＜抜粋＞

- ・スクールモットーの認知度・共感度
- ・内部進学率
- ・生徒の国際的な問題や世界の出来事などへの興味・関心度 など



4-(4) 高等部の取り組み(2019-2021)

2019
年度

高等部

“Mastery for Service”を体現する
世界市民の育成

感謝・祈り・練達

“Mastery for Service”を実践
する場としての
高等部

優秀な
生徒確保

関西学院大学の
中核を担う生徒

- ・主体的に学ぶアクティブラーナー
- ・ダイバーシティ、インクルーシブな感覚
- ・グローバルな視点と課題解決力・行動力

- ・礼拝
- ・人権講座
- ・聖書科

他者理解・
尊重

- ・行事、クラブ活動
- ・ボランティア活動
- ・HR活動

チャレンジ精神
コミュニケーション力

幅広い教養
論理的思考力

異文化理解

- ・全ての
正課授業

- ・WWLC
- ・国際理解教育
- ・平和教育

ICT等を用いたアクティブラーニング型学習

リーダーとしての
実践・行動力

基礎学力
論理的・批判的思考力

キリスト教主義教育
に基づく人教育

全ての教育活動を支える教員の「働き方改革」の推進

「第一志望」として
選ばれる高等部

- ・入試制度改革、広報戦略強化
- ・初等部・中学部との更なる連携強化

関西学院中学部

関西学院初等部



4-(4) 千里国際中等部・高等部の取り組み(2019-2021)

2019
年度

	人材育成・教育の方針	志願者獲得の方針	中期的課題	重点施策
千里国際中等部・高等部	1.世界市民育成:「Informed, Caring, Creative Individuals Contributing to a Global Community」を育てる。世界人権宣言の趣旨に基づいた世界市民として、世界のどこかで貢献ができる(Mastery for Service)人物を育てる。 2.カリキュラム再編:SIS Learning Compassに基づいた新しいカリキュラムを作成し、6年間の学びのシークエンスを一層可視化する。SGHで培った探究スタイルを持続発展させる。(ポストSGHプログラム) 3.6年一貫教育を強化:一般生は中学1年生からのみ受け入れる。(クロス推薦は高等部からも)(帰国生はどの学期からでも) 4.バイリンガル環境:言語サポートの体制を教科し、日本語での学習経験が浅い帰国生徒を受け入れやすくする。 5.IBDP:2013年にSISに在籍しながらOIS生徒と共にIBDPを取得する制度を確立したが、日本語IBDP授業の導入には制度上の問題があり断念している。これを克服する方法を検討する。 6.STEM/STEAM/STREAM:理工学部との連携、及び、校内での理数系の教員の協働により、理数系プログラムを発展させる。 7.世界標準の教育:大学との連携により、国際的な学会、コンペティション、カンフェレンス等の参加の機会を増やし、高校在学中に世界標準のアウトプットの機会を持つ。 8.卒業後進路:関西学院大学への院内推薦率を上げ、10年一貫の教育を発展させる。同時に、海外大学への進学率も伸ばす。	SISの生徒獲得は、海外へのアプローチと国内でのアプローチの二つの側面を有し、それぞれのニーズに応える戦略が必要である。帰国生徒率を上げるために、前者に一層力を入れると同時に、国内での知名度の向上を目指す。	◎カリキュラム再編の必要性 (文科省の学習指導要領、SISの独自性強化、ST比の安定) ◎施設面の大規模改装、不具合解決(生徒数増加による教室不足、中等部のICT環境不足など) ◎大学への進学率の不安定さ ◎「国際教育」を謳う私立中高が増加する中で、SISの教育を高めることとその広報の必要性 ◎授業料の高さに見合う教育の提供 ◎帰国生徒への言語サポート体制 ◎IBDPの日本語授業導入 ◎同窓会の発展	①総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透 ②千里国際高等部生徒の本大学への進学率維持(50%以上) ③千里国際中等部・高等部の中高一貫教育校への転換検討 ④施設の改善(含:ICT) ⑤言語(日本語)サポート体制の確立 ⑥IBDP日本語授業導入(再度)検討 ⑦海外大学進学者増 ⑧受験者増のための広報一般

設定指標<抜粋>

- ・スクールモットーの認知度・共感度
- ・内部進学率
- ・受験者数
- ・授業への満足度
- ・海外大学への進学者数



4-(4).大阪インターナショナルスクールの取り組み(2019-2021)

2019
年度

	人材育成・教育の方針	志願者獲得の方針	中期的課題	重点施策
大阪 インター ナシヨ ナルス クール	Human resource development, educational objectives KG school motto → OIS school mission Mastery for Service → Informed, caring creative individuals contributing to a global community. OIS will deliver a high quality K-12 education based upon the curricular framework of the three IB (PYP, MYP, DP) programmes. IB mission statement The International Baccalaureate aims to develop inquiring, knowledgeable and caring young people who help to create a better and more peaceful world through intercultural understanding and respect.	●Local and international recruitment Advertising and outreach Overseas recruiting fair/agent relations ●All grades at or above published numbers K-2 and 11, 12 in particular ●Dormitory program	Medium term topics drawn from the work done with WASC and IB as well a recognition of operational issues important to the long term future of the school. 1.Facility improvement 2.Resource management – budget transparency 3.Assessment 4.Learning support structure 5.Professional collaboration 6.Enrollment 7.Personnel & professional development	①総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透 ②Facility improvement Senri Campus facility improvement plan ③Enrollment: Advertising targeting local community Advertising and recruitment targeting overseas students (GFP) Clear goal for 2019 incoming head of school ④Assessment & Learning Support Commitment to systems for monitoring and managing assessment (MAP, ManageBac) system to support assessment practice. Professional development for all components. ⑤Personnel and professional development Expand professional development opportunities. Consider terms of employment within the context of Japanese international schools as well as further afield in Asia and beyond.

設定指標＜抜粋＞

- ・Annual surveys to parents, teachers and students. A range of questions about campus facilities. (キャンパス施設の満足度)
- ・Maintain high enrollment and aim for 80%+ boarding capacity, in balance with SIS numbers. (定員管理)
- ・All full time faculty, leadership and governance team members take part in annual professional learning. (研修)

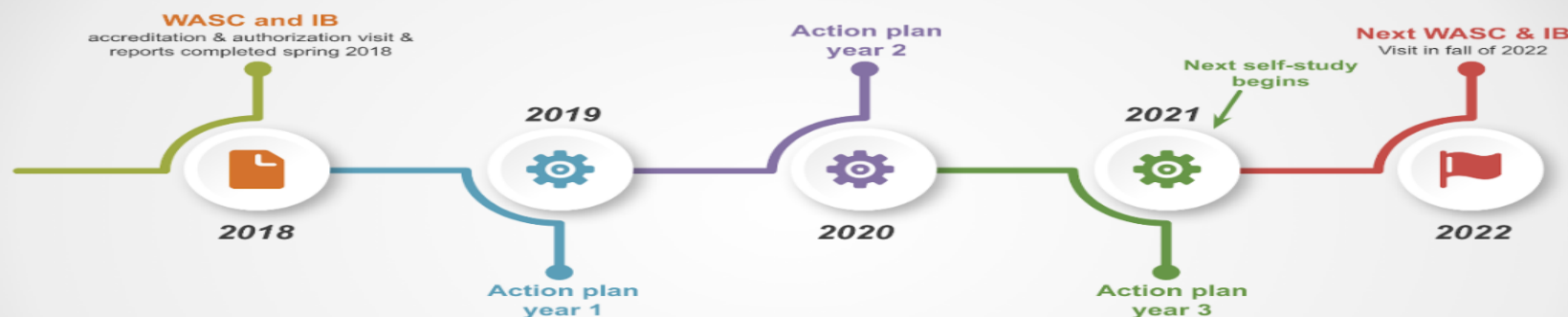


4-(4).大阪インターナショナルスクールの取り組み(2019-2021)

2019
年度

OIS

OIS Action Plan: 2018 - 2023 (KG 2019-2021)



OIS School-wide Action Plan - Focus Areas





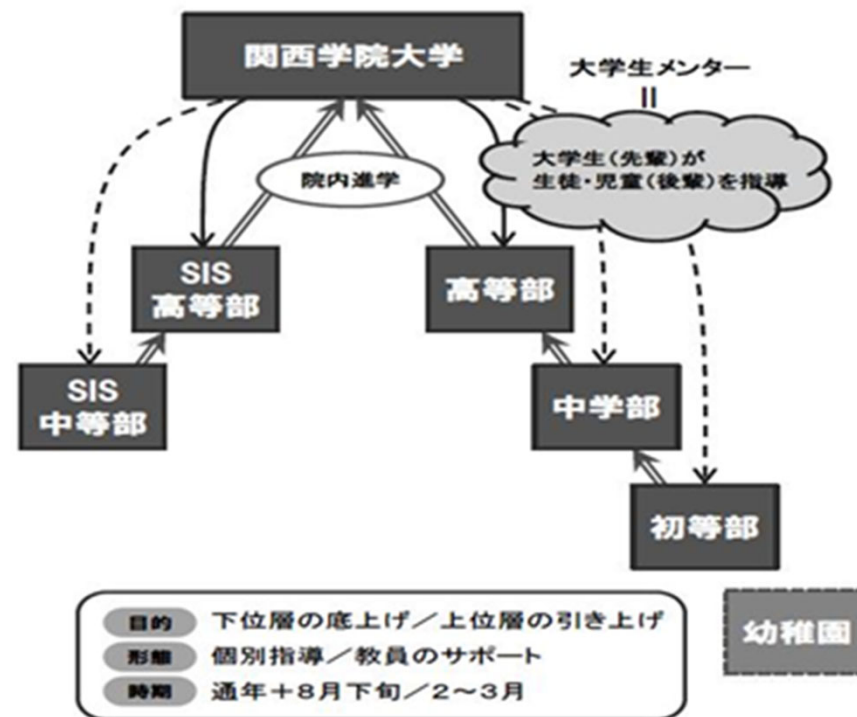
4-(4)-④.大学生メンター制度の導入

2019年秋学期より、高等部生徒の自学自習を支援する
「大学生メンター制度」を開始。

学力保証を目的とした学習支援施策として、初等部・中学部・高等部の児童・生徒を、関西学院大学の学生が先輩として、後輩の学習を支援する「メンター制度」を創設。2019年秋学期より、まずは高等部生を対象として開始しています。メンター学生は、課外(放課後)に実施される対象生徒の自習のサポートを行います。

2019年度秋学期：高等部1年生20名を対象に、大学生メンター7名で実施。
2020年度：高等部1,2年生を対象に実施。

関西学院の一貫教育における
初等・中等教育の大学生メンター制度



主な課題	
①	財政(人件費) 受益者負担+学校負担
②	雇用形態(大学のLAに相当)
③	規模(人数、時間)



4-(2)-③.インクルーシブ・コミュニティの推進

2019
年度

【2014年3月】

ダイバーシティを力とする「垣根なき共同体」をめざす「インクルーシブ・コミュニティ宣言」を制定

【2020年4月】

「インクルーシブ・コミュニティ実現のための基本方針と行動指針」を制定

関西学院インクルーシブ・コミュニティ実現のための基本方針と行動指針

関西学院は、多様性(ダイバーシティ)を力とする「垣根なき共同体」をめざして「インクルーシブ・コミュニティ構築に向けて」という宣言文(インクルーシブ・コミュニティ宣言)を、2014年に策定した。このインクルーシブ・コミュニティを実現するため、「インクルーシブ・コミュニティ実現のための基本方針と行動指針」を以下のとおり策定する。

I. 基本方針

インクルーシブ・コミュニティ宣言の基本理念に従い、その実現の指針となる5つの基本方針を定める。

1. 男女共同参画促進
2. 性的指向や性自認の多様性(SOGIの多様性)の尊重
3. 障がいがある構成員支援の実施
4. 文化的多様性の尊重
5. インクルーシブ・コミュニティ推進施策を着実に実施

II. 基本方針の実施にあたって

1. 本行動指針の対象となるのは、園児、児童、生徒、学生および教職員(非常勤含む)など関西学院のすべての構成員である。
2. 学院内外の関係者・機関が連携・協力して、インクルーシブ・コミュニティの実現に取り組む。
3. 多様性が尊重されないために修学やサービスの妨げとなる事柄や状況が生じた際には、適切な制度に基づくプロセスによる合意形成を経て、合理的な範囲で係る事柄や状況を取り除く。
4. そのプロセスにおいては、多様性が尊重されないために修学やサービスに関し困難な状況に置かれている構成員本人を交えて十分に話し合い、当該者の意向や選択などを尊重する。
5. 多様性の尊重を学則などに明記するとともに、すべての構成員に周知・啓発する。
6. 基本方針を実行性のあるものとするために、具体的な行動指針を以下に示す。

＜具体的な行動指針＞ ～略(https://www.kwansei.ac.jp/kikaku/kikaku_003750.html 参照)



8.学校経営

ガバナンス改革を進め、
総合的マネジメントを実現する



8-(2) Evidence-based Managementの推進

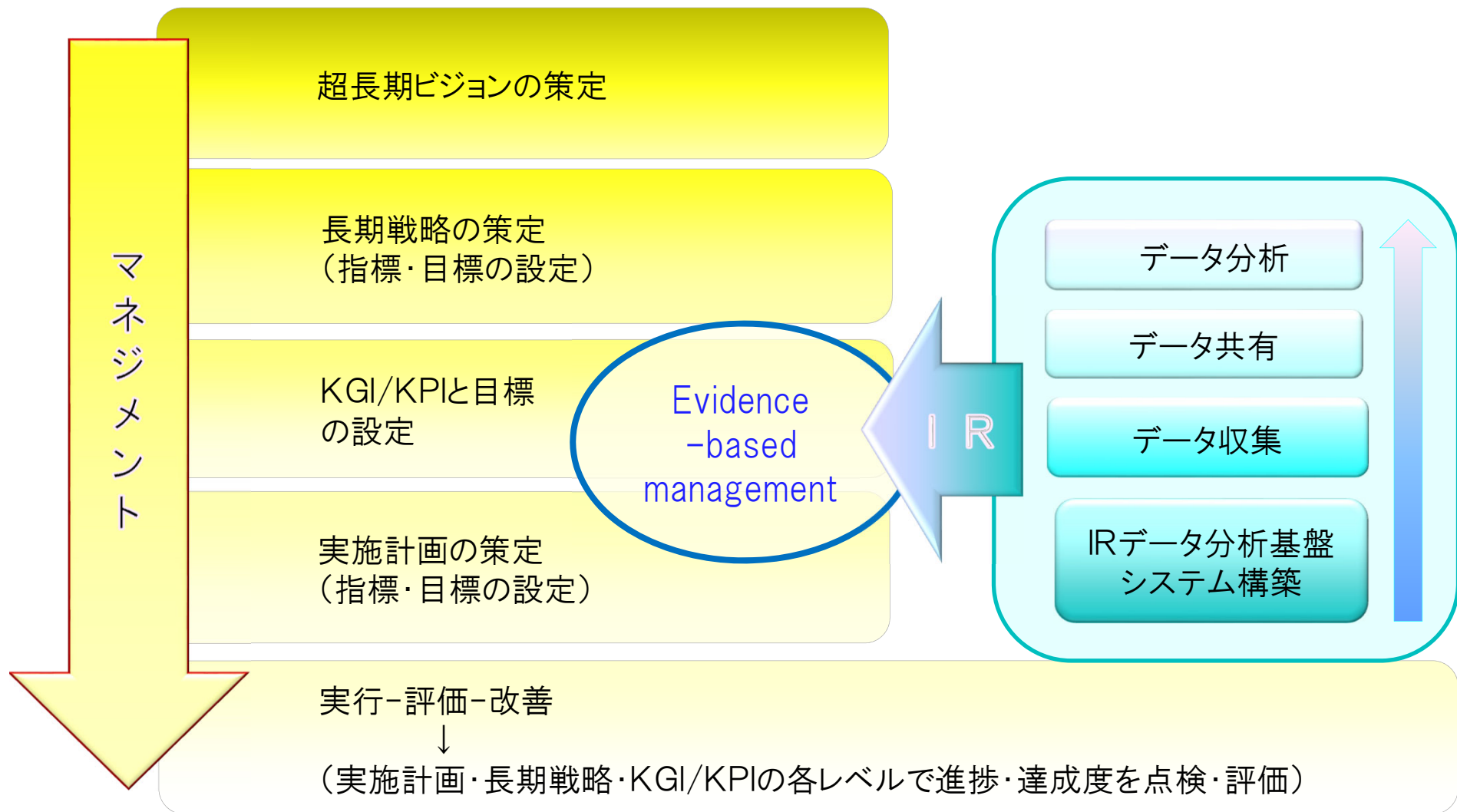
長期戦略の
冊子より

総合的なIR機能の構築

教育・研究のデータと財政・人事など経営資源のデータを収集・蓄積して統合し、分析・可視化することによって政策の立案や評価を支援するなど、経営判断に資する総合的なIR（Institutional Research）機能を構築して客観的データに基づくマネジメント（Evidence-based Management）を推進する。

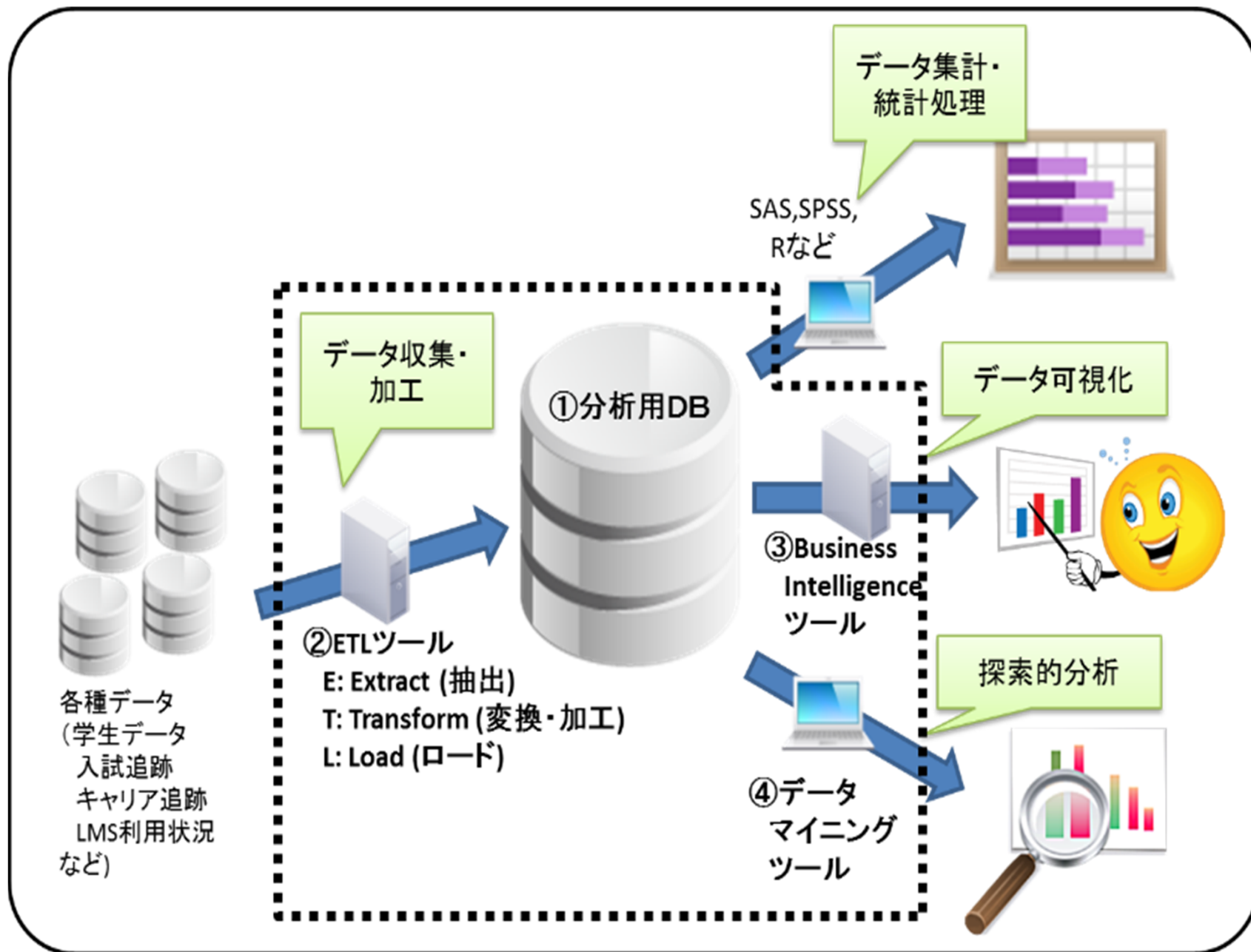


8-(2) Evidence-based Managementを実現する マネジメントとIRの関係





8-(2) IRデータ分析基盤システムの概要

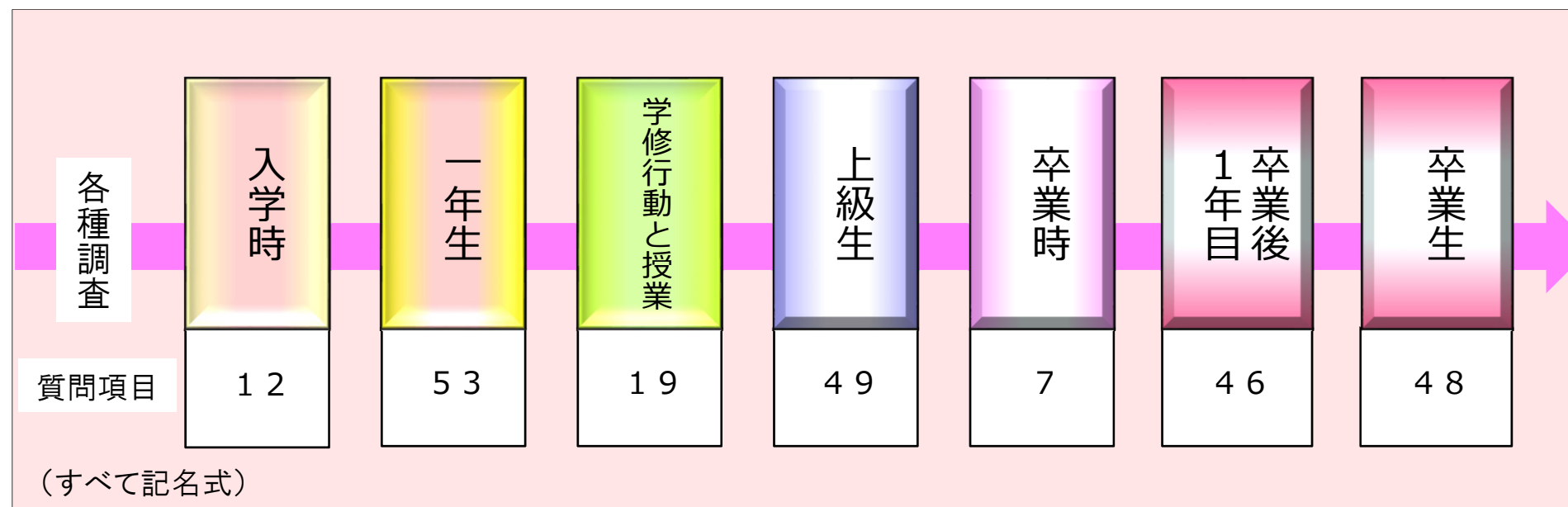




8-(2) IR分析基盤システムの収納データ

2019
年度

学籍	入試	履修成績	授業 時間割 教室	GPA	留学	TOEIC	課外 活動	奨学金	就職
学生個人の属性	入試の属性・科目毎得点等	履修科目・成績	科目・授業・時間割・担当教員・使用教室	GPA・履修単位等	留学プログラム参加	TOEIC成績	クラブ在籍	奨学金の受給・種別	内定、企業情報、CCへの相談等



調査データが個人と紐づいていることが本学のIRの大きな特長(強み)



8-(2)-② IRデータベースの活用～学修行動と就職・進学先

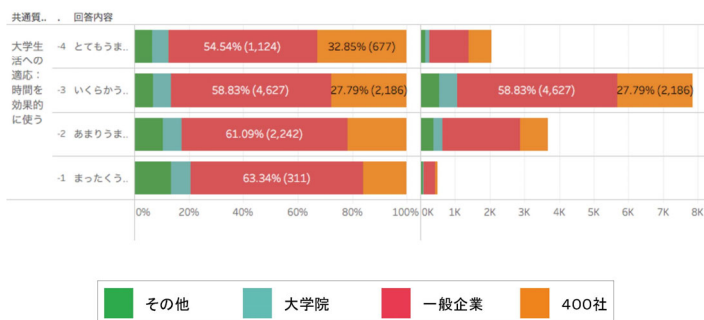
学修成果検証のために高等教育推進センターが行っている各種調査は、学生番号と紐づく形の調査に移行した。学生からの回答をIRデータベースに登録することで、経年や調査間での比較・分析が可能となっている。

今後、BIツールを用いた可視化などを行い、より広範な教職員が容易に集計などを参照できるよう整備を進める。

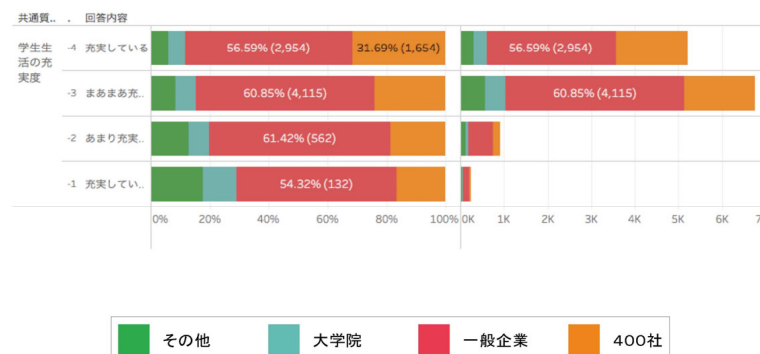
★2005～2015年度入学者(56,582人)を対象に、3年生時点での「学修行動調査」における回答と「就職・進学先」データとを結びつけたもの



＜三年生＞時間を効果的に使う適応

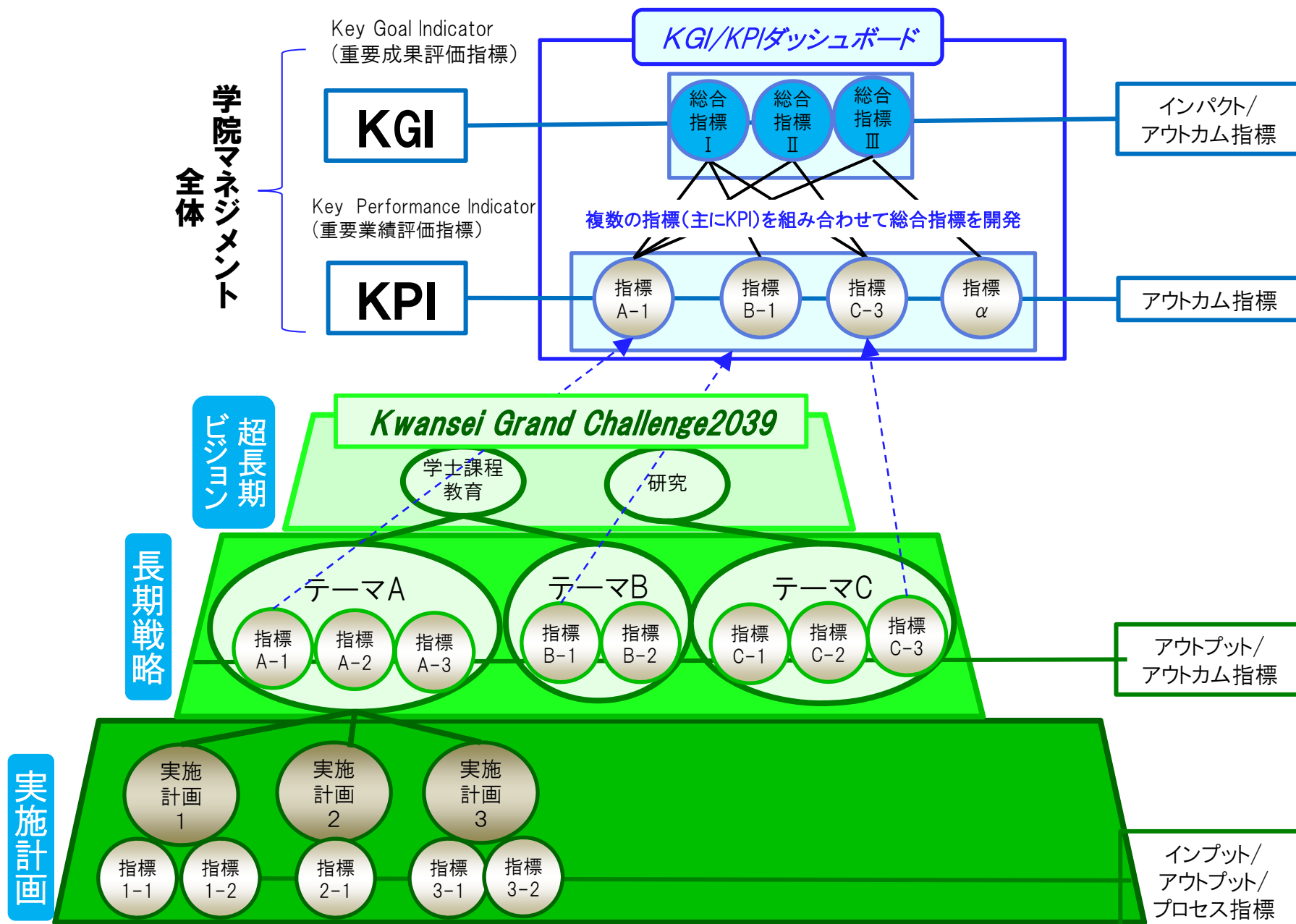


＜三年生＞学生生活充実度





8-(2)-①KGC2039の指標とKGI／KPIの関係





「KGI・KPIダッシュボード」(KGC2039モデル)

KGI

KGI・KPIダッシュボード(KGC2039モデル)

前年比凡例
(プランク比較対象無)
▲ 上昇
▼ 低下
― 変化なし

2020.03月末現在

総合評価
52.0

教育の成果
52.5

「真に豊かな人生」の実現度
(≒ミッションの達成度)

46.3

就労の質の高さ
(≒「学修成果修得」達成度)

58.7

学生満足度
55.7

学生の満足度
(≒CS)

46.3

母校信頼度(推奨度)
(≒ロイヤリティ)

65.0

社会的評価
44.0

ブランド指標
(≒社会における本学の評価)

44.0

KPI

基盤指標	入学(入口)				教育・研究				就職(出口)				卒業後				経営資源			
	現在	対前年	2027年		現在	対前年	2027年		現在	対前年	2027年		現在	対前年	2027年		現在	対前年	2027年	
基盤指標	入試難易度(偏差値)	66.5	▲	未確定	ST比	38.9	▼	30.0	就職率	99.5%	▲	98.0%	スクールモットーの浸透度	15.9%	▼	40%以上	事業活動(帰属)収入	428億円	▲	442億円
	同系列学部勝敗	2位	―	首位	学生生活満足度	92.8%	▼	未確定	内定先の満足度	49.9%	▼	55.0%	Well-being度(QOL度)	81.7%	▼	未確定	事業活動収支差額比率	10.9%	▲	6.0%
	実志願者数	3.12		未確定	汎用的能力の修得度	69.6	▲	未確定	各学部の就職関連独自指標(未設定)	未設定			母校信頼度(推奨度)	65.0%	▲	未確定	実質支出超過額比率	37.3%	▼	50%未満
					外部研究資金獲得額	9.6億円	▼	20億円	有名400社への実就職率	26.7%	▼	35.0%	社会での活躍度	41.3%	▼	未確定	THE世界大学ランキング日本版の順位	37位	▼	20位
戦略指標					科研費等採択率	42.0%	▲	43.0%	研究者輩出数	調査未		55					ブランドイメージ(高校生)	1項目	▲	10項目
																	ブランドイメージ(一般生活者)	21.0%	▲	32.5%
	第一志望度	63.3%	▲	80%	一週当たりの授業外学習時間の平均	22.2%	▲	未確定	国連等職員採用者数	7人	▲	27人以上	寄付金総額	3.8億円	▼	5億円	収容定員充足(超過)率	102.2%	▼	100%
					協定校への派遣学生数	1,962人	▲	未確定	グローバル企業就職者比率	6.4%	▼	未確定					収入増・支出減の総額	―		24億円
参照指標					外国人留学生数	1,292人	▲	未確定									高校教員調査順位「グローバルな教育が盛ん」	9位	▼	5位
					特別研究員採用者数	5人	▼	10人												
	関西圏からの出身者比率	73.5%	▼	未確定	大学教育満足度	50.7%	▲	未確定	実就職率								教育研究経費比率	34.1%	▲	未確定
	高校「平均ランク」比較	6.4	▲	未確定	教育・支援体制の満足度	82.5%	▼	未確定					コンペティンシー獲得状況	79.7%	▼	未確定	当年度収支差額比率平均	-2.4%	▼	未確定
					ダブルチャレンジ達成者数	2,338人	▲	5,700人					個人寄付者数	3,047人	▲	5,400人	人件費比率	52.4%	▼	未確定
					高度なプログラムによる学生の海外派遣者数	652人	▲	800人					一部上場企業社長の輩出度	9位	―	5位	施設・設備等の満足度	45.8%	▼	未確定
					国際ボランティア派遣者数	52人	▲	60人												
				国際共著論文割合	24.9%	▲	26.0%													

2019.6.15理事会メンバーに配付

2019.6.15理事会メンバーに配付



8-(3) 積極的な投資と強固な財政基盤の確立

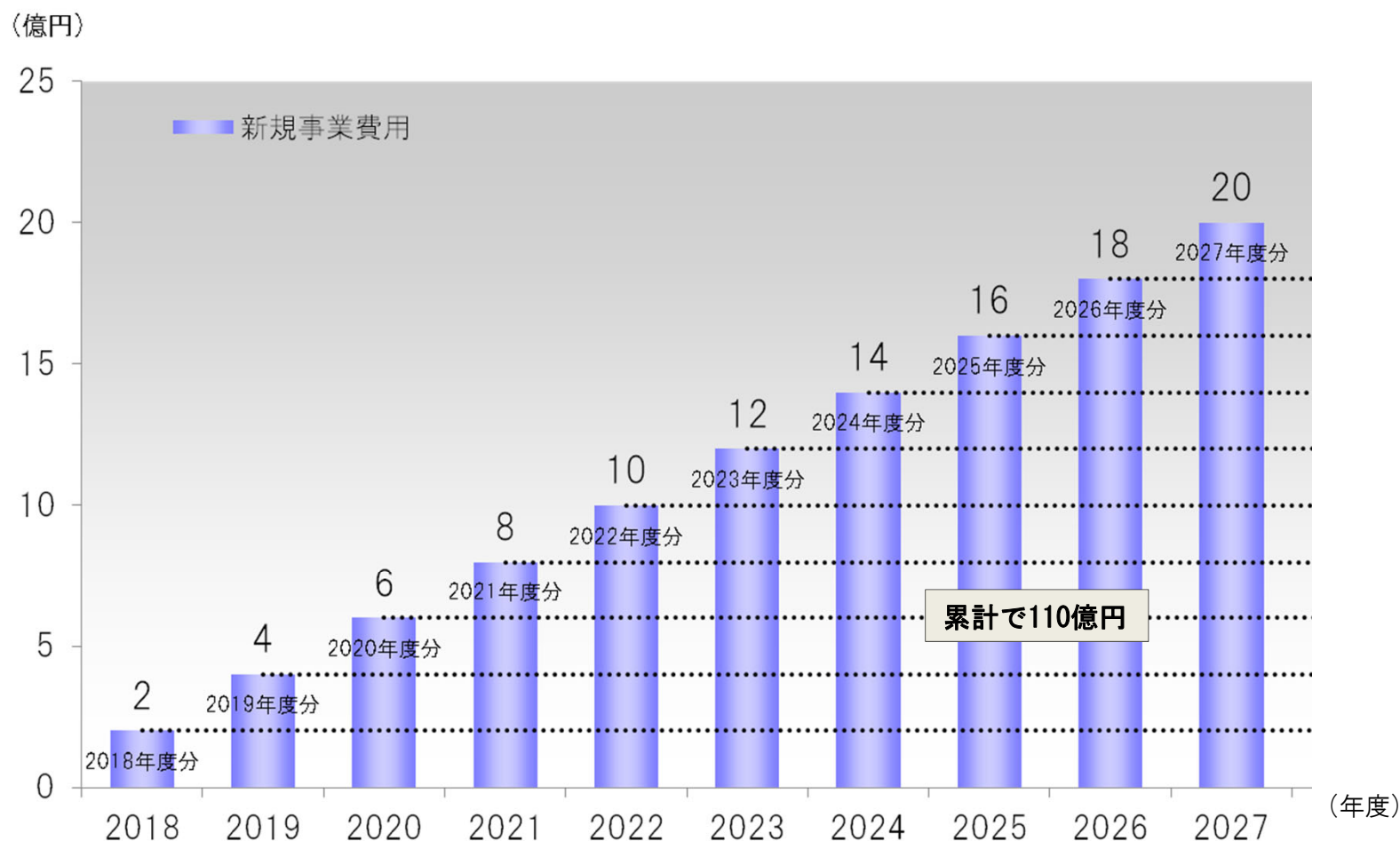
財政計画の概要（2018－2027年度）

- 1** 新規事業費用（経常費）
毎年2億円ずつを投入（2027年には単年度で20億円）
- 2** 建設費用
総額400億円で計画（情報化を含めて）
- 3** 財務指標
(1) フロー（事業活動収支差額比率）：6%以上（2027年度）＝健全性
※2039年度までに8%にする。
(2) ストック（実質支出超過額比率）：50%未満（2027年度）＝安全性
※実質支出超過額比率＝（翌年度繰越支出超過額+借入金残高）÷事業活動収入
- 4** 収入増・支出削減
(1) 政策的な収入増加額は24億円/年（2017年度比）
(2) 政策的な支出削減額は 5億円/年（2017年度比）
- 5** 新規事業停止の条件
2022年までに以下の具体的な見通しが立たない場合は新規事業を停止
(1)（収入増） 12 億円/年
(2)（支出削減） 2.5億円/年



8-(3) 新規事業財源(経常費)の推移

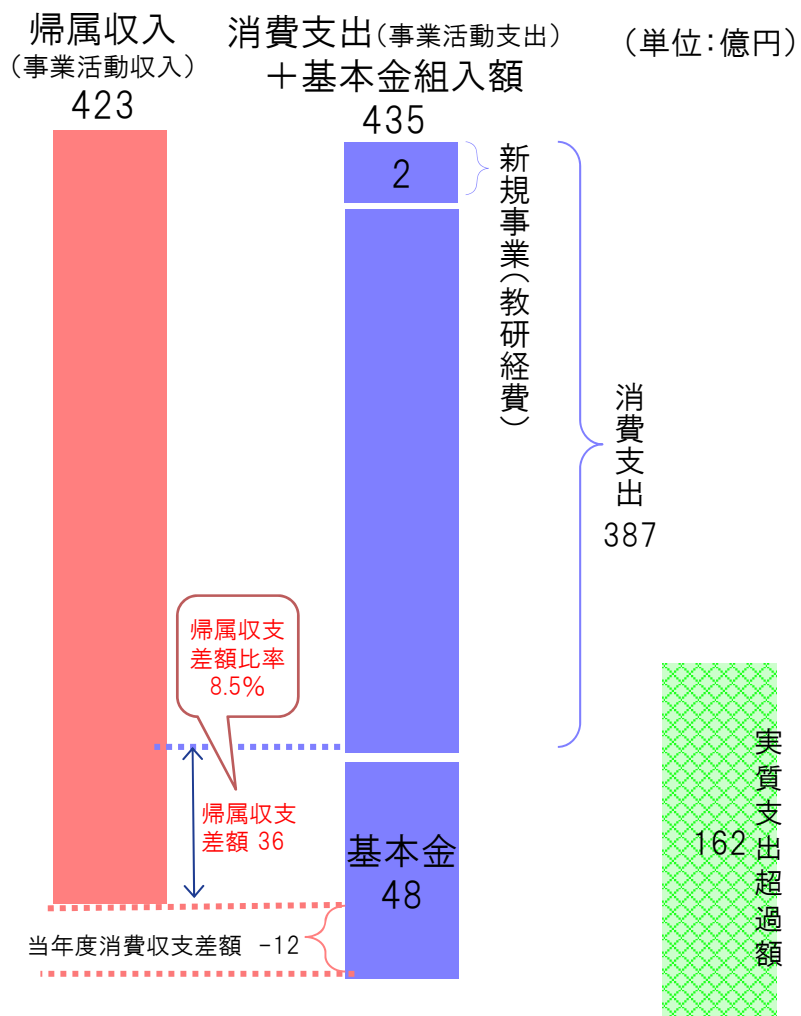
新規事業の財源は、経常費（経費と人件費）で毎年2億円ずつ新たに確保することとする。これを言いかえれば、ビジョンを実現するための新規事業は毎年2億円分ずつ増え、10年目には20億円分となる（下記モデル参照）。新規事業はすべて継続される形になっているが、単年度で終了するものもある。





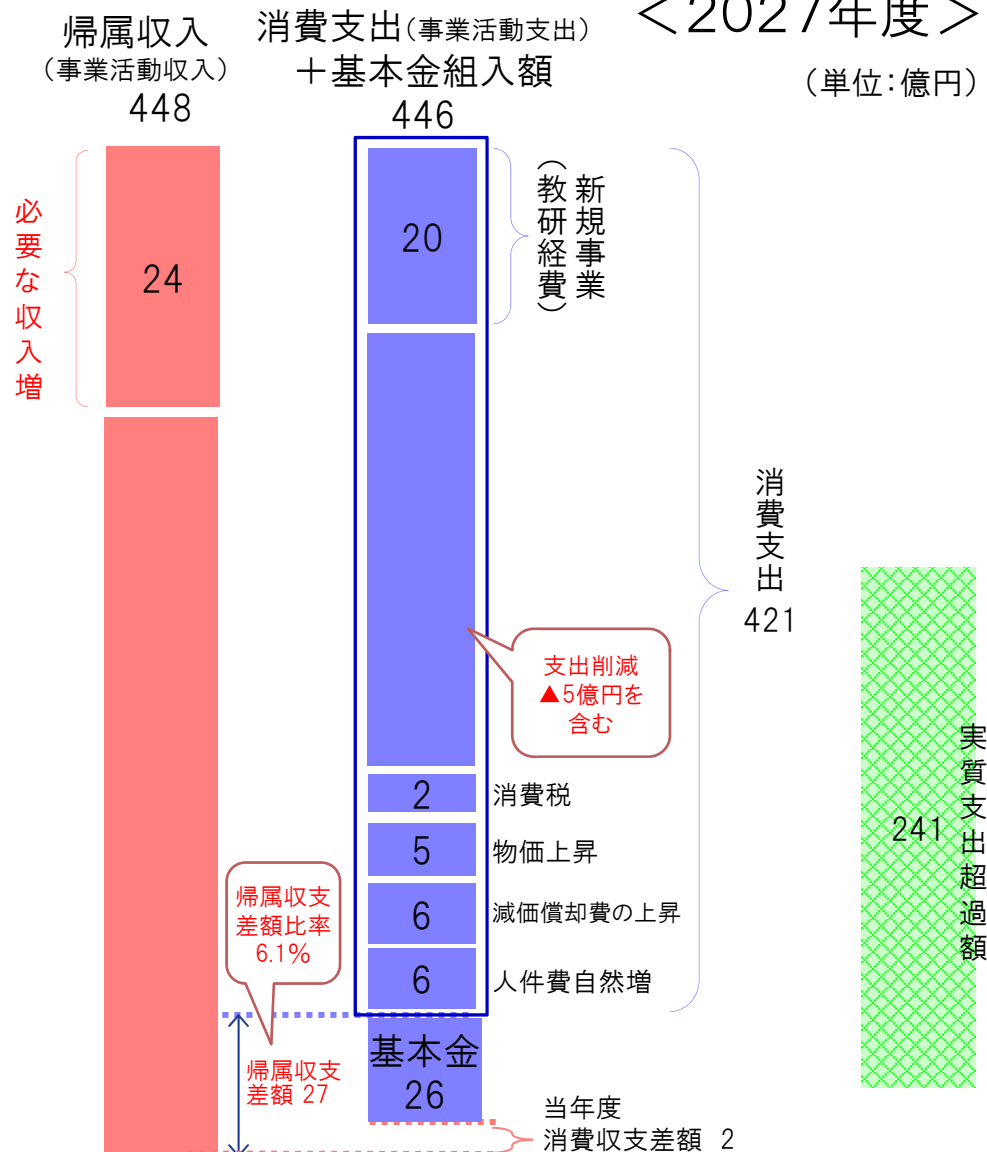
8-(3) 財政シミュレーション(2018→2027)

<2018年度>



実質支出超過額/帰属収入 = 38.3%

<2027年度>



実質支出超過額/帰属収入 = 53.9%

50%未満にするには、さらに
18億円の収支改善が必要

※2017決算見通しを基にした財政シミュレーションによる 注)四捨五入の関係で数値合計は一致しない





8-(4) 新規事業の財源確保

長期戦略の
冊子より

多角的な収入増加、既存事業廃止等の支出削減

ビジョン・戦略を実現するための最重要課題は財源の確保である。方策として、学費、補助金、寄付金、資産運用、事業収入等の増加が必要となる。また、既存事業の廃止を含む支出削減の方策を検討する。このため、2018年度に「財務・業務改革本部」を設置する。

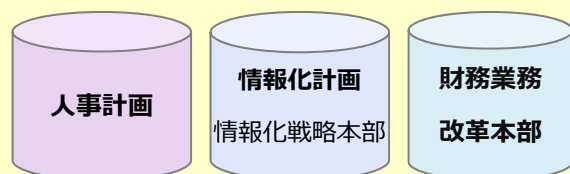
2018年12月に財務・業務改革本部を設置

- | | |
|-----------|---|
| (コンビーナ) | 副理事長・学長 |
| (サブコンビーナ) | 常務理事・事務局長、常任理事・副学長 |
| (委員) | 常任理事、財務部長、人事部長、
総務・施設管理部長、大学事務統轄
総合企画部長 |
| (事務局) | 財務部、人事部、学長室、総合企画部 |

K.G. 8-(4) 業務効率化推進PJTの設置

業務効率化に関する共通認識

- ・多くの教職員が疲弊する状況で、まずは**業務効率化が必要**
- ・各計画でも業務効率化が検討されているが**取りまとめがなされていない為、実行段階で重複**することが懸念される
- ・業務効率化において**テクノロジーの活用が必要**となる



統合

業務効率化推進PJT

業務分析及びヒアリング

効果 大

業務量の削減

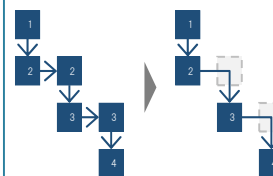
簡素化

実施しなくても良い処理は可能な限り廃し、作業負荷を減らす



非重複化

複数の部署や担当で二重に行われている業務を一方に寄せる



廃止

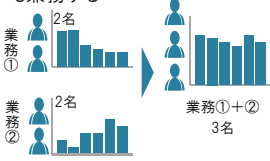
業務上の必要性から、絶対に不可欠のものを除き、業務自体をなくす



業務時間の削減

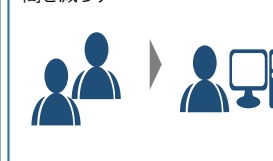
閑閑差の利用

業務量に季節変動や時間変動がある場合、閑散期に他の業務も兼務する



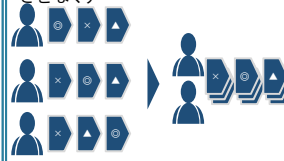
自動化

情報システムの作り込みや、AI・RPAの導入により人員の作業時間を減らす



集約&標準化

同一の処理を集約するとともに、手順やパターンを統一し、バラつきをなくす



時間コストの削減

マニュアル化

属人的な業務を形式化し、非正規職員でも遂行可能とする



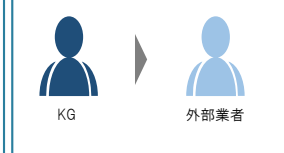
権限委譲

難易度や業務インパクトを見ながら、非正規職員に業務の一部を移行する



外部化

業務手順を明確化し、外部にその業務を委託する



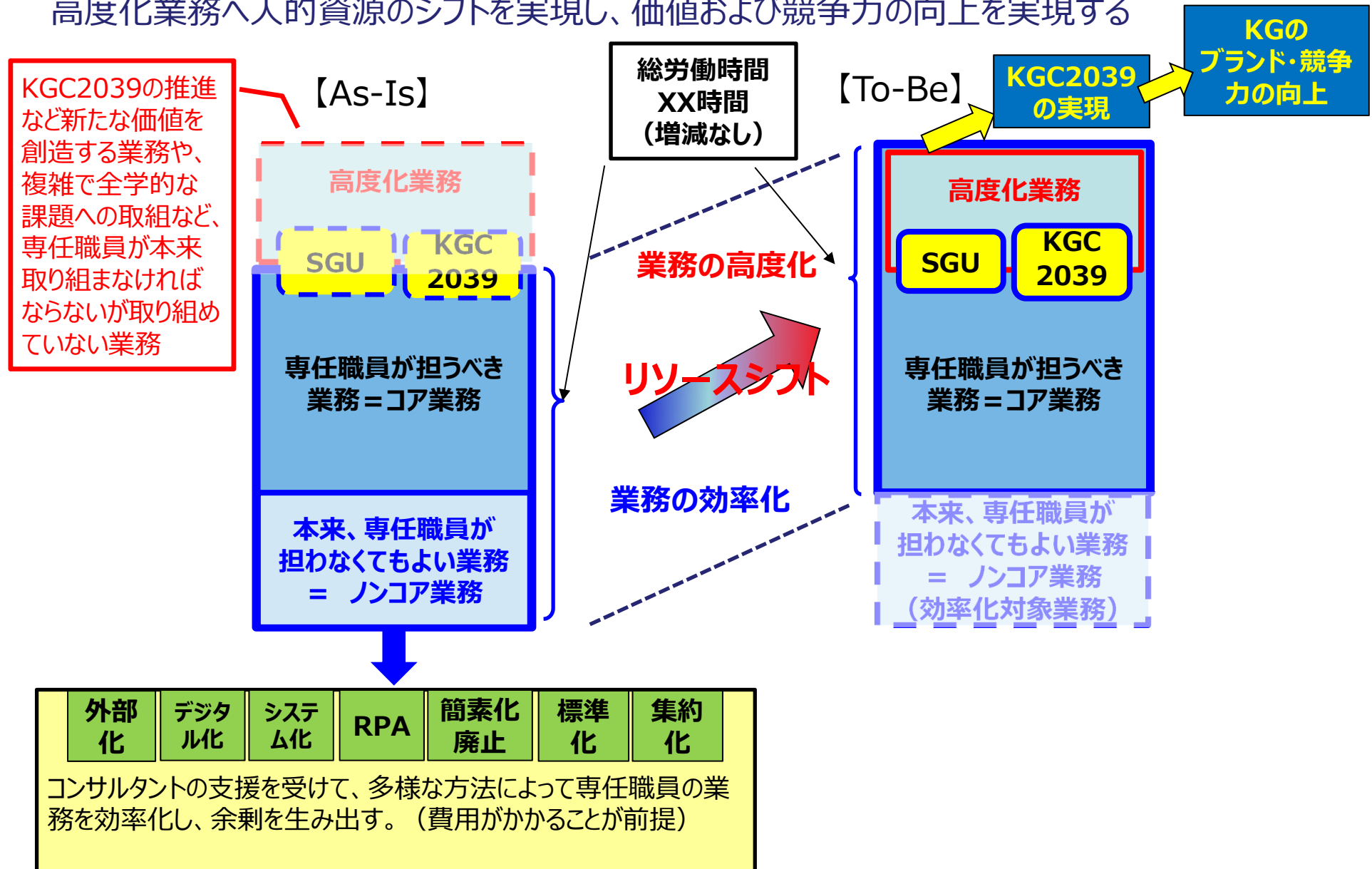
人事計画、情報化計画、財業本部共通の課題に取り組むため、**KGC2039推進WGの下にPJを設置**

(2019年7月11日総合企画会議承認)



8-(4) 業務高度化に向けたリソースシフト

高度化業務へ人的資源のシフトを実現し、価値および競争力の向上を実現する





8-(6) 人事政策の確立

長期戦略の
冊子より

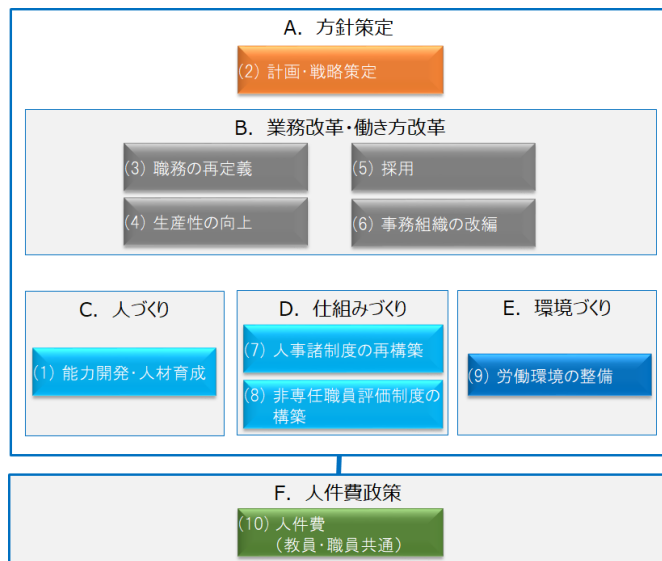
＜職員＞職員の能力向上を追求

教育・研究・マネジメントの質を向上させるため、職員が能力開発によって資質を高め、競争的な環境の中でその能力を最大に発揮することによって、組織としての遂行力を高める。テーマとして、能力開発、生産性の向上、事務組織の再編、人事諸制度の再構築などを検討する。

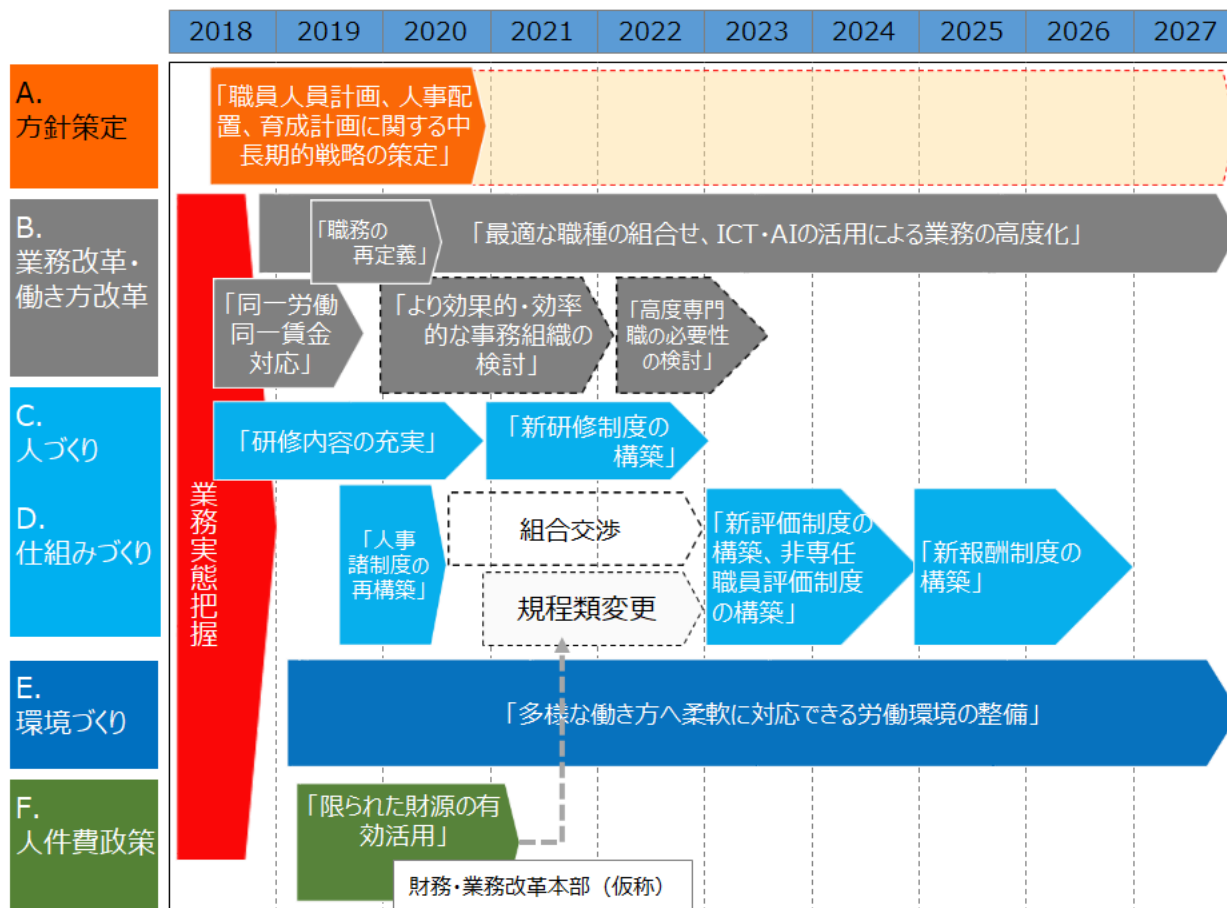


8-(6) 人事計画(職員)

【人事施策の構造と各施策の関係性】



【ロードマップと実施計画】



2018年度作成のロードマップ



8-(6) 職員人事計画(2019後期)の取組

2019
年度

2019年度

2020年度

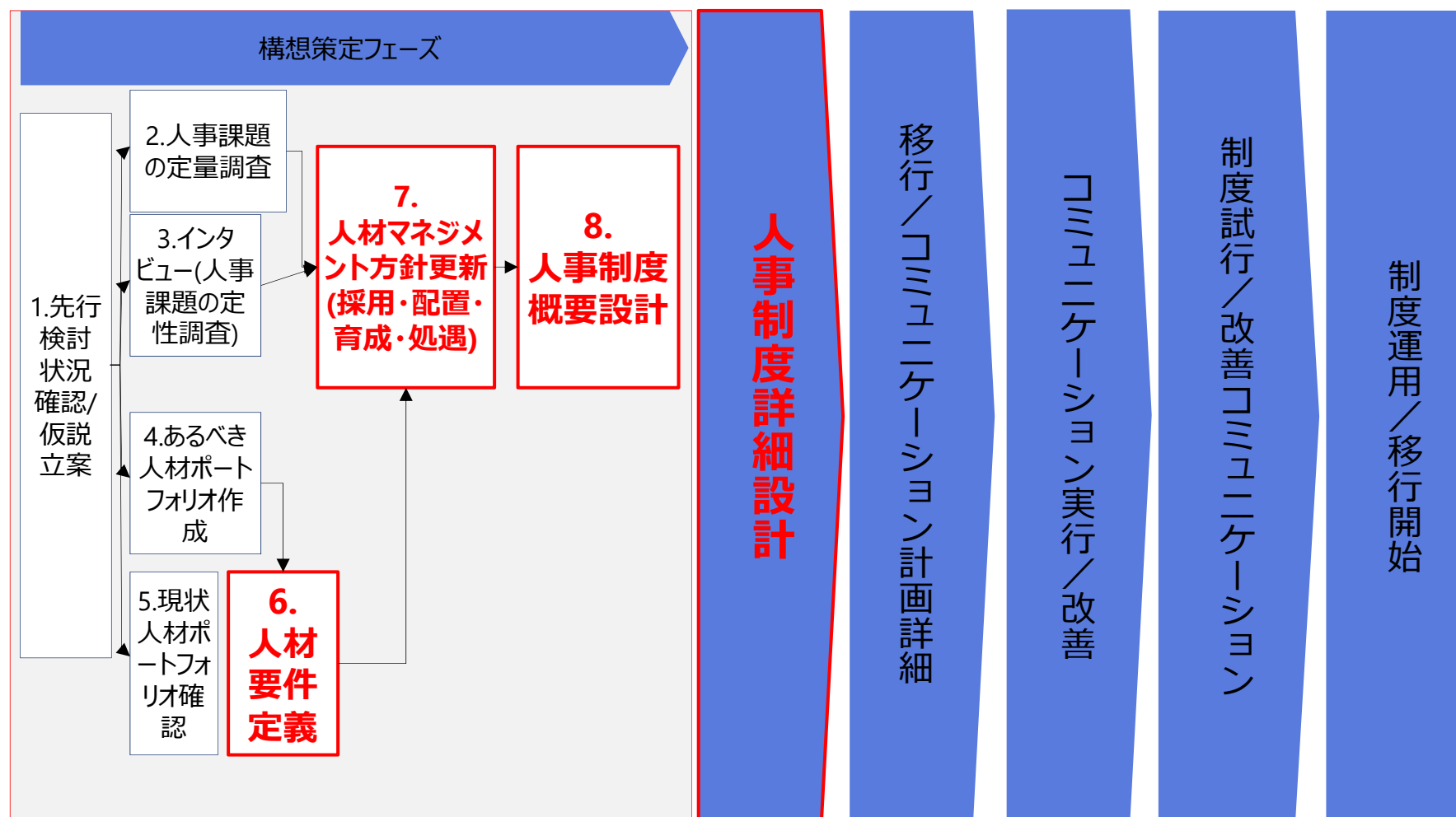
2021年度

2022年度

2023年度

秋

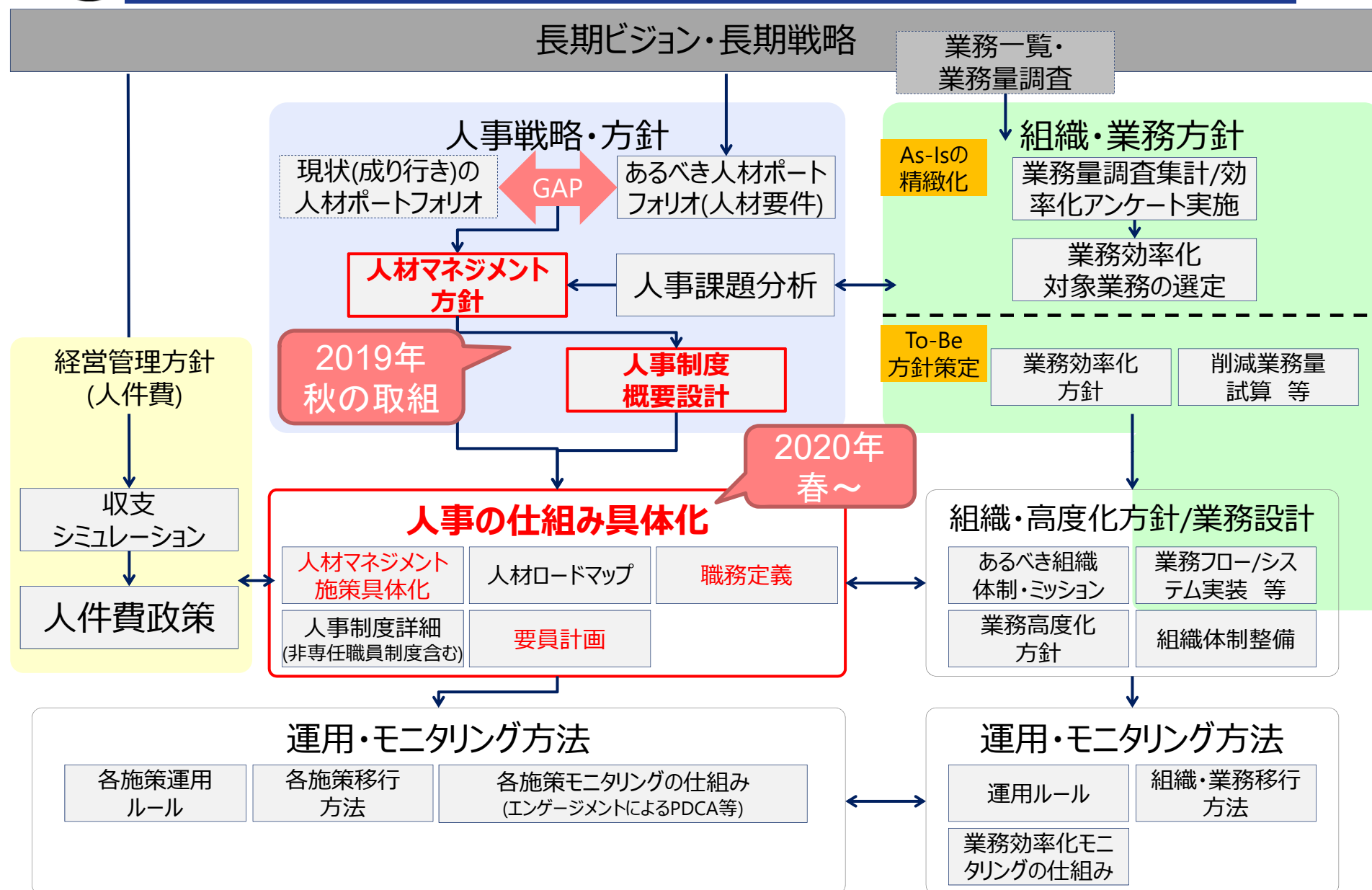
現在





8-(6).職員人事計画の全体図

2019
年度





8-(7) 施設建設・設備整備計画

長期戦略の
冊子より

西宮上ヶ原キャンパスのアメニティ向上に重点

西宮上ヶ原キャンパスにおいて、学生の移動上の安全性を高めるとともに、分散している各種の学生サービス窓口を集約して学生の利便性を向上させるほか、食堂等の設備充実によるアメニティの向上を図る。



8-(7) 総合建設計画(2018-2027)

(1) 基本インフラ <大規模設備更新・改修計画>

各建物に設置している熱源装置や空調機器、監視システム等の大規模設備が経年劣化や耐用年数超過による故障が予測される。故障した場合、教育研究への支障や安全性の確保のため、設備更新を行う。同時に、省エネ化・教育研究環境改善・機能性向上等を踏まえた更新計画とする。

(2) 戦略インフラ

<西宮上ヶ原キャンパスにおける学生動線の改善と安全確保>

市道を横切る学生動線の改善・利便性向上とアメニティ向上を目的として、新学生サービスセンター新設計画や、正門付近の安全対策としての門衛室や保健館の移設計画を実施する。

<西宮上ヶ原キャンパスにおける経年劣化した教育・研究施設の建替計画>

全学共用棟・第2 教授研究館など、築50 年を超える建物を建て替えるとともに、教育研究環境の改善・機能性の向上を踏まえて、ST 比改善に対応した形で個人研究室を増加させる。

(3) 新規計画

<施設建設・設備整備> 長期戦略から導出される事項および各部署からの要望を整理した上で優先順位を定め、長期戦略で設定されている財源（35 億円）の範囲内で実施する。

<情報化> 2018 年度に設置される「情報化戦略本部」において、情報化の戦略および計画を定め、長期戦略で設定されている財源（20 億円）の範囲内で実施する。

費用概算	
【戦略インフラ】 + 【基本インフラ】	345億円
【新規計画（施設建設・設備整備）】	35億円
【新規計画（情報化）】	20億円
合計	400億円



8-(7) 総合建設計画(2018-2027)構想案

- ①大学院2号館改修計画
- ②仁川五ヶ山町建設計画
- ③新第2教授研究館A棟建設計画（北西部新築）
- ④第4別館改修計画
- ⑤新第2教授研究館B棟建設計画（全学共用棟建替）
- ⑥正門周辺安全対策計画
- ⑦新学生サービスセンター建設計画
- ⑧G号館・大学院1号館改修計画

【2019年完了】

【2020年】

【2021年】

【2022年】

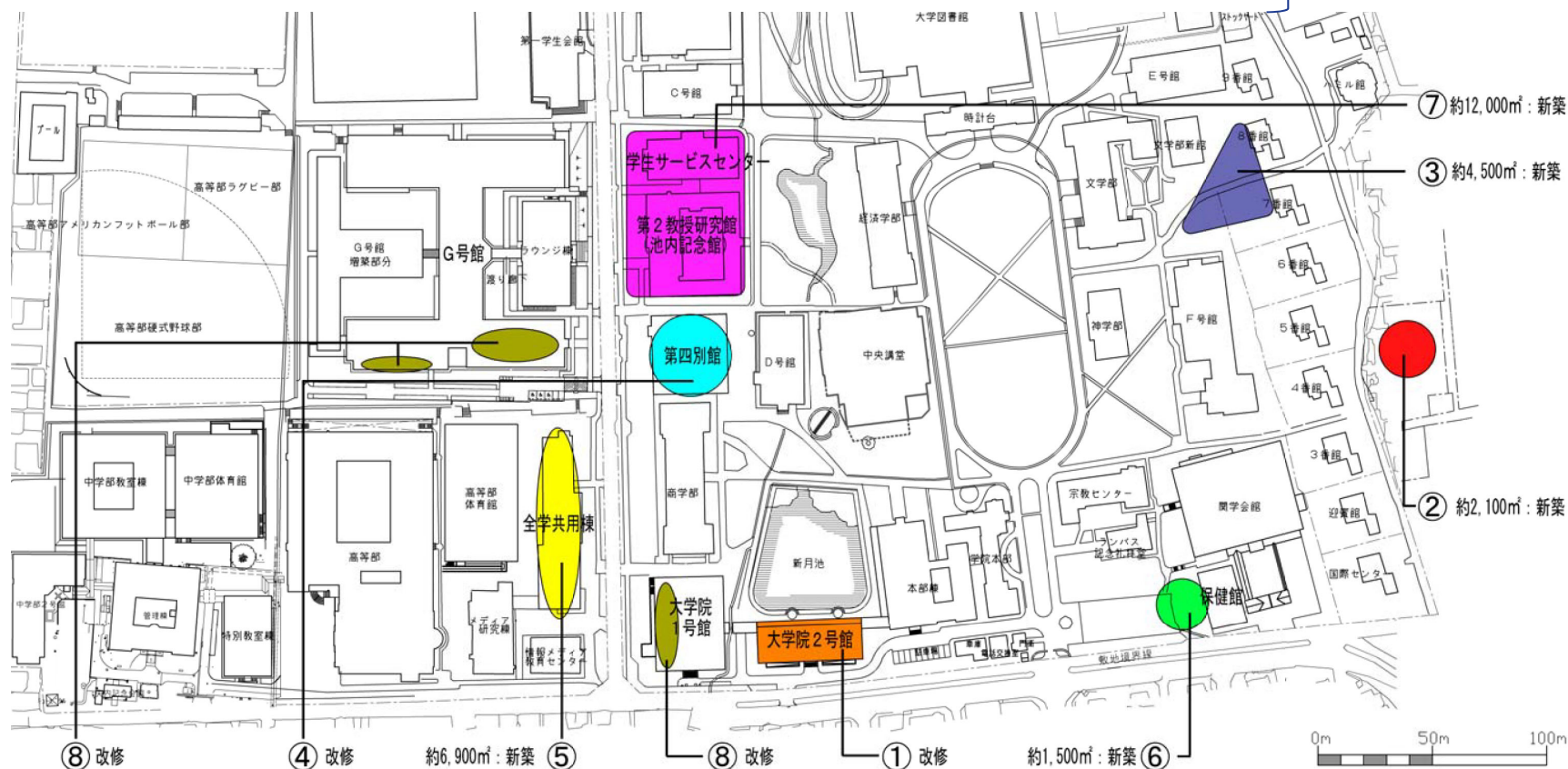
【2023年】

【2024年】

【2025年】

【2026年】

実施年は
予定



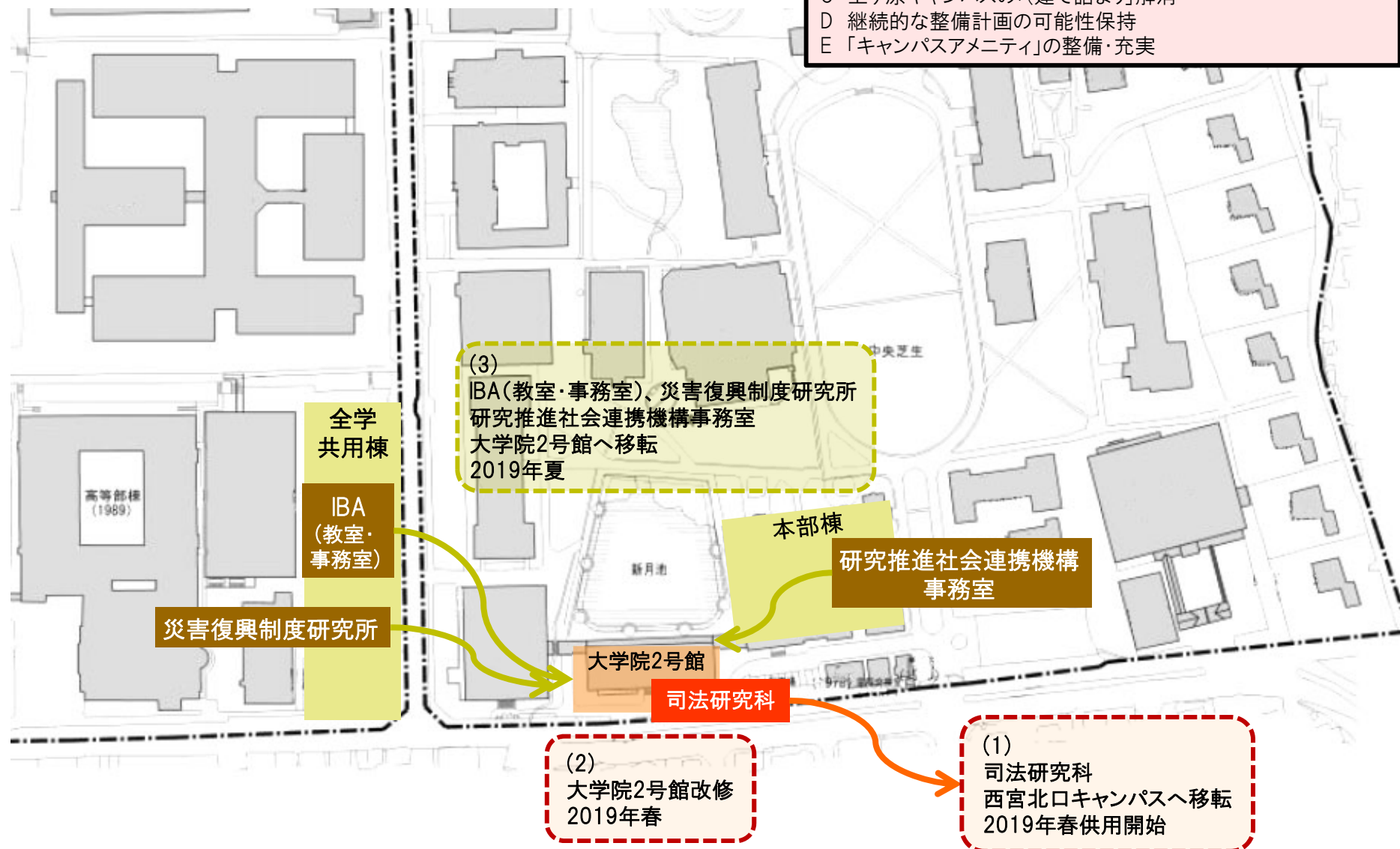


8-(7)「①大学院2号館改修計画」

2019年実施済

<対応課題>

- B 教学の計画との深い連動性、教学からの要請への柔軟な対応
- C 上ヶ原キャンパスの「(建て詰まり)解消
- D 継続的な整備計画の可能性保持
- E 「キャンパスアメニティ」の整備・充実



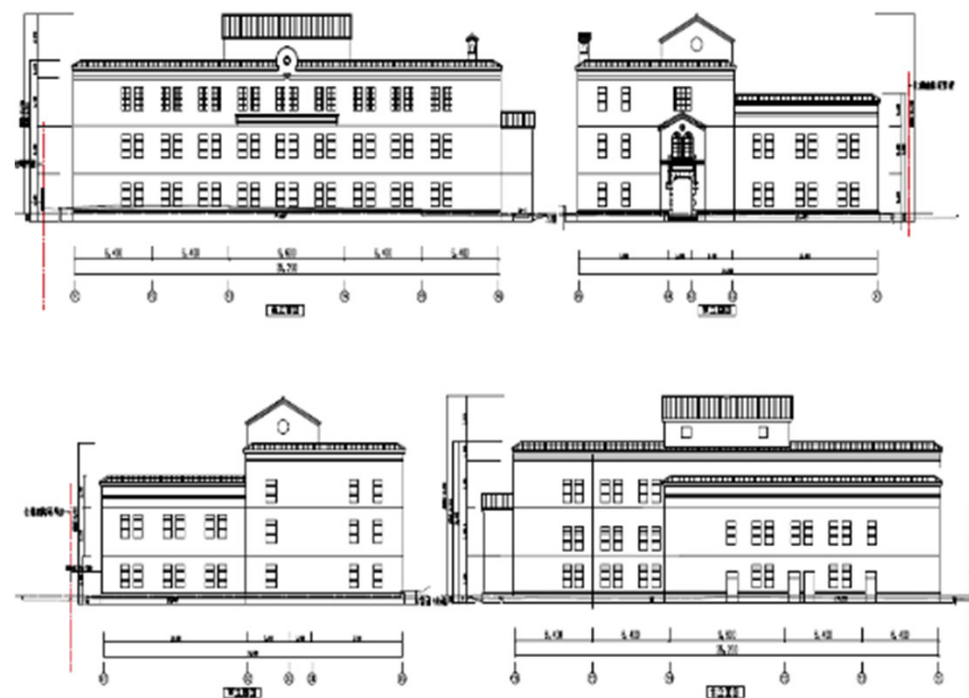


8-(7)「②仁川五ヶ山町建設計画」

2020
年度

【概要】

「⑤新第2教授研究館B棟建設(全学共用棟建替)」のため、全学共用棟と第4別館にある文学部心理科学研究室関係の施設、全学共用棟のレンタルラボ等に移転する。



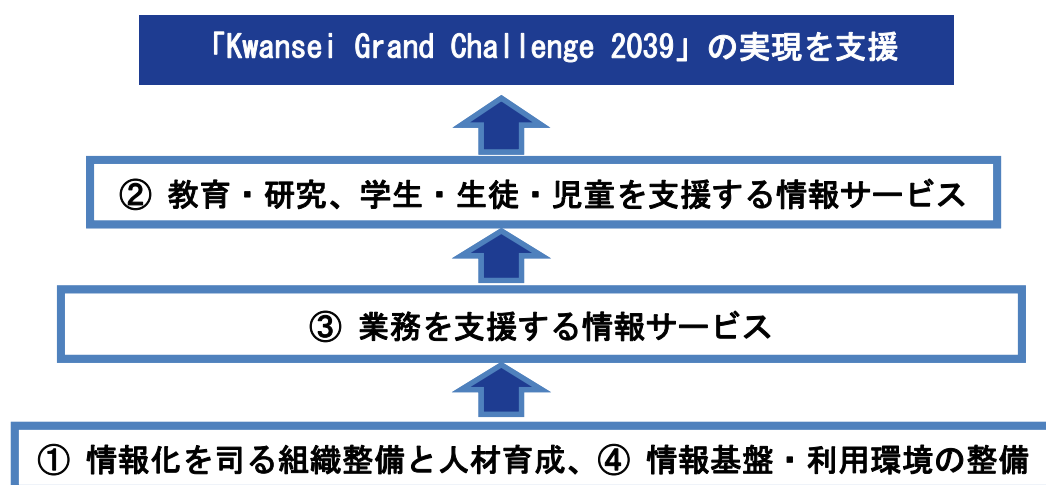
2020年6月現在の現地写真



8-(8).情報化計画(2019-2027)

<目的>

「デジタル革命の進展に対応し、ICT活用によって教育・研究・マネジメントの効果・効率を高める、包括的かつ革新的な情報化を推進する」ため、2018年4月情報化戦略本部を設置。学院において、ヒト・モノ・カネに加えて、「情報」が起点となり、教育のあり方、支援サービスのあり方、組織のあり方、仕事のあり方などで様々なイノベーションを起こす経営戦略とする。



①情報化を司る組織整備と人材育成

経営戦略である情報化戦略を持続可能な組織と人材で支える

②教育・研究、学生・生徒・児童を支援する情報サービス

学生・生徒・児童とのコミュニケーションを重視した多様な学びを支える教育環境の整備、学生の総学修時間の確保

③業務を支援する情報サービス

業務プロセスの抜本改革に資する情報化を通じて、教職員が本来業務に専念できる環境をめざし、サービス向上と各業務の高度化、効率化を促進する

④情報基盤・利用環境の整備

セキュアで快適、安定したICT利用環境の提供、情報インフラ基盤の整備と事業継続性の確保



8-(8) 新ポータルシステムの構築

2019
年度

【実現する姿】《2021年夏共用開始予定》

学院内で分散的にかつ異なるシステム・手段で行っている情報伝達の仕組みを新しいポータルに一本化することにより、必要な情報を確実に迅速に入手できる、また確実に届いたかどうかを確認できるようにする

【狙い/目的】

- 1) 学生・教職員の利便性・満足度向上（迅速・確実・迷わない）
- 2) 学院と対象者（学生・教職員）との双方向コミュニケーションを容易にする
－アンケート機能、安否確認機能、共有ファイル機能等
- 3) 業務効率化・高度化、働き方改革につながる体制・ルール・基準の見直し

【方針】

- 1) すべての学内Webシステムの入口を「新しいポータル」に一本化する
- 2) 「新しいポータル」はスマートフォン版とPC版を用意する
- 3) 学生・教職員への情報発信の手段を「新しいポータル」に集約する
（現行の教学Webは廃止し、「新しいポータル」に統合する）
- 4) Outlookのパブリックフォルダによる情報提供・共有の仕組みは、「新しいポータル」導入に伴って廃止する



学生・教職員向けポータルサイトの構築に向けて取り組んでいます（2021年秋学期より供用開始の予定）。お知らせ情報の一元化から、デジタル化、Webによる各種申請などが可能となるポータルサイトを構築するとともに、2023年秋に予定されている他システムのリプレイスにあわせて、各種サービスの質的向上の検討を開始しております。

スマートフォン画面（イメージ）



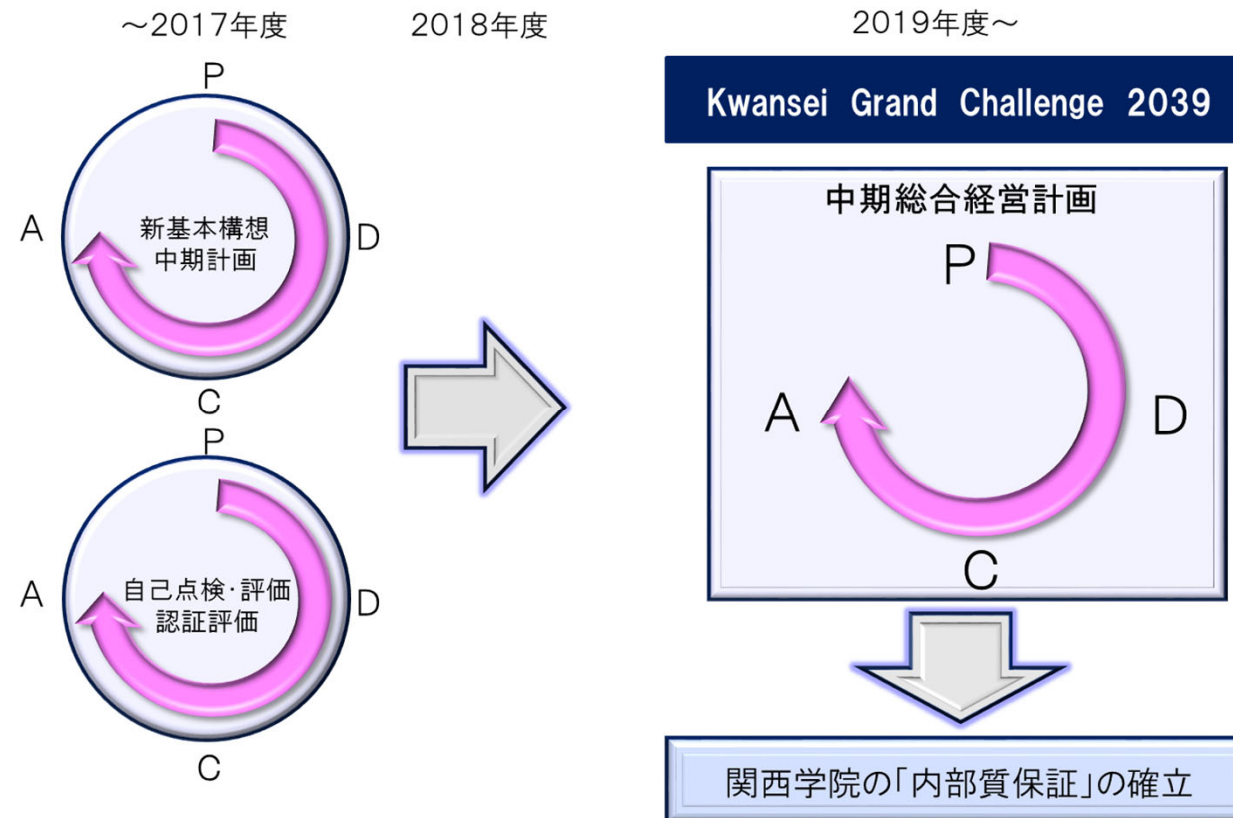


8-(10) 二つのPDCAサイクルの統合

中期総合経営計画で内部質保証を確立

長期戦略の
冊子より

学院には、中期計画と自己点検・評価の二つのPDCAサイクルが存在するため、「中期総合経営計画」に統合して効率を高める。また、同計画の策定・実行・評価・改善のプロセスを通じて「内部質保証」を確立する。





8-(10) 2017年度末段階での諸計画

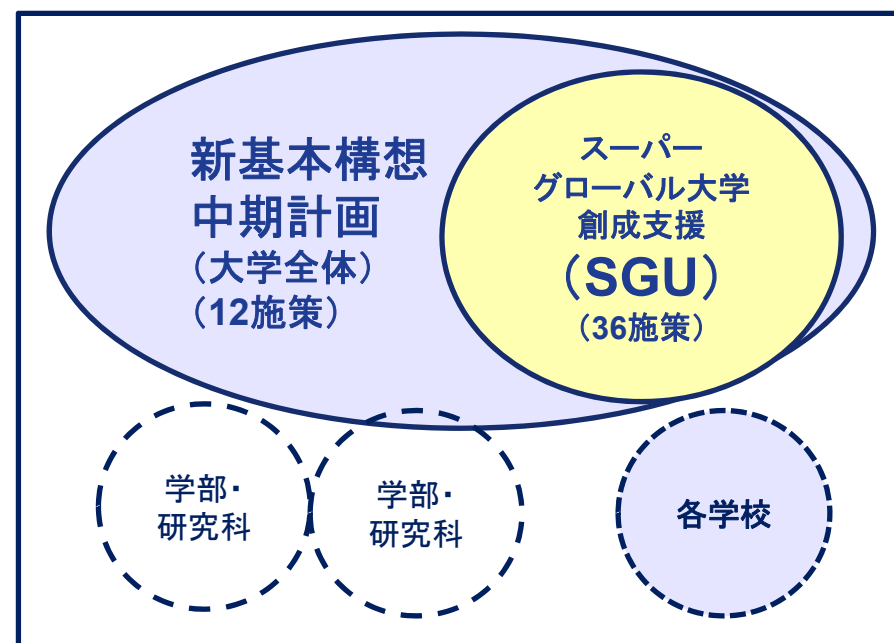
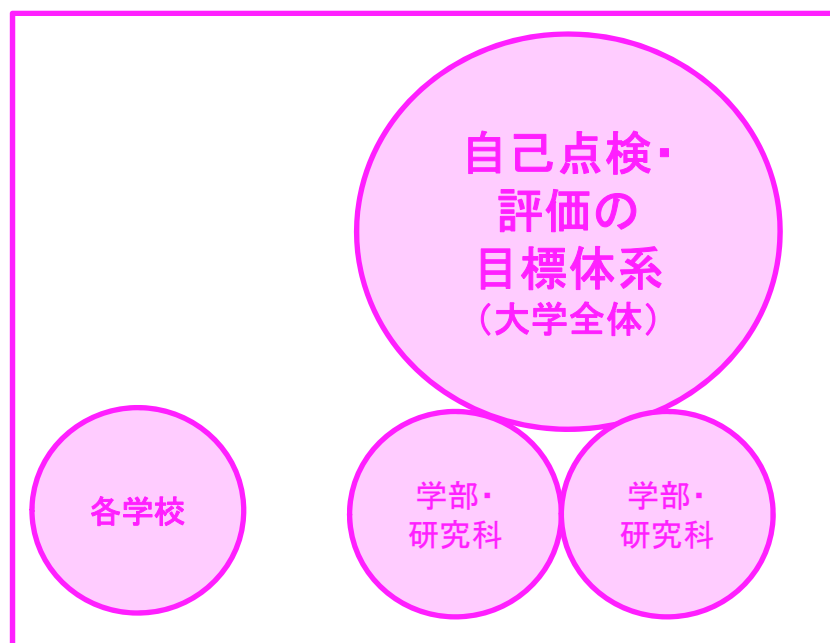
Kwansei Grand Challenge 2039
(超長期ビジョン・長期戦略)

次期将来構想

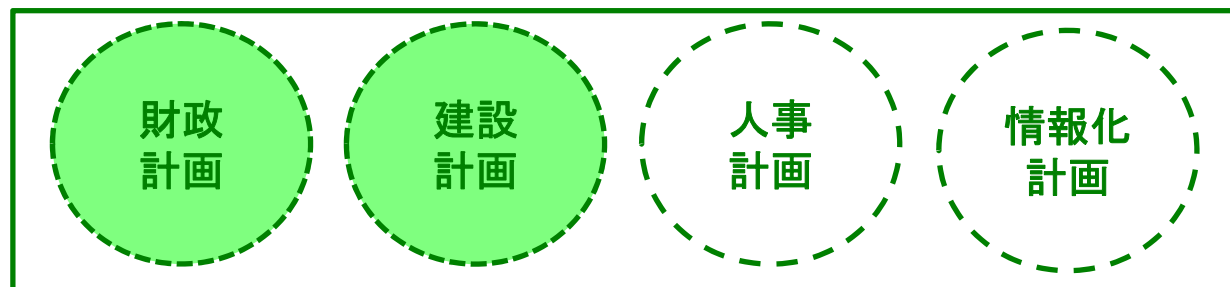
実施計画
(約90施策)

自己点検・評価、学校評価

中期計画



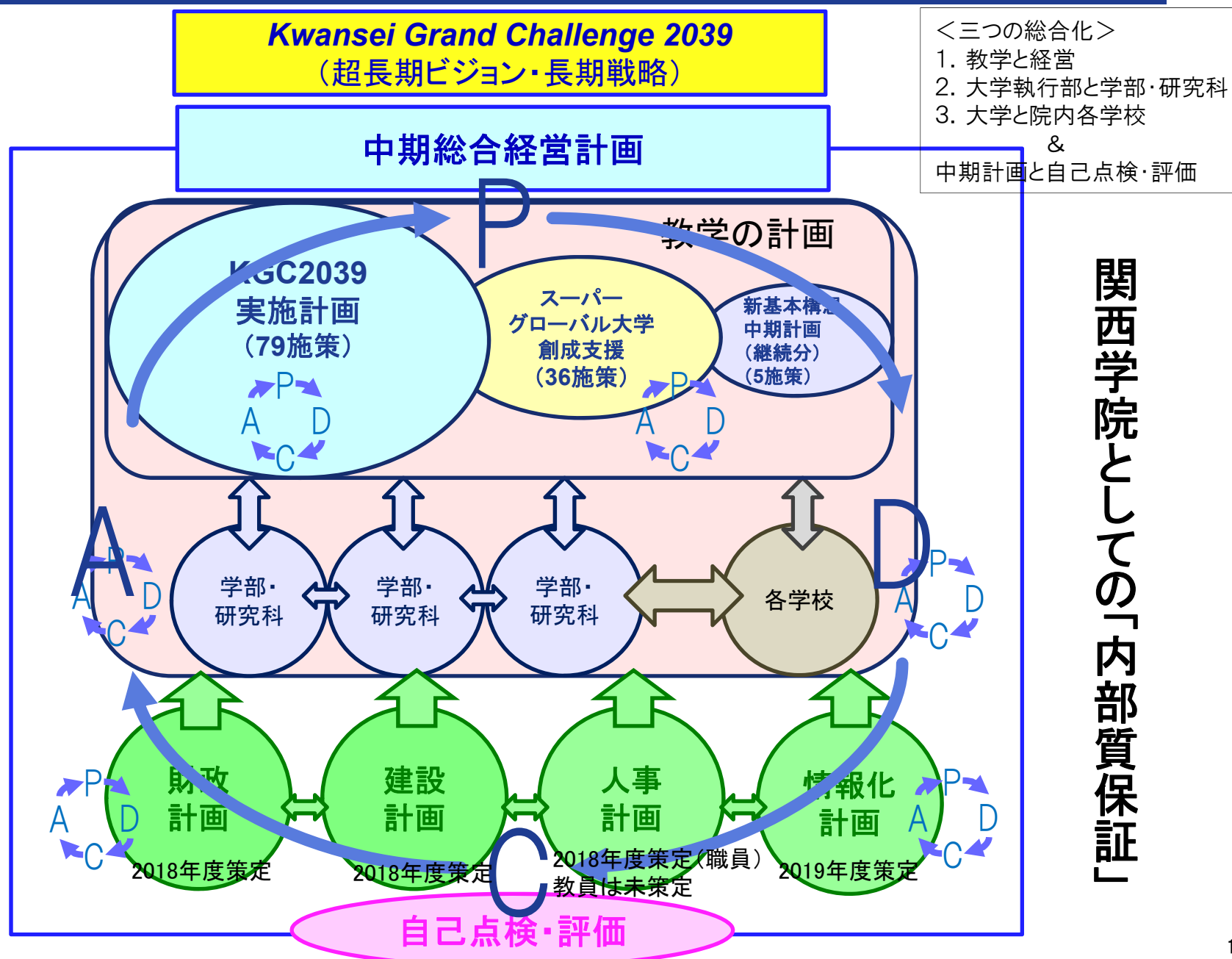
○ 未策定
○ 部分的に策定



法人系の計画



8-(10) 中期総合経営計画の策定(三つの総合化)





8-(10) 内部質保証体制の運用

2019
年度

【KGC2039特設サイト】総括と進捗報告の公開①



Kwansei Grand Challenge 2039 & 中期総合経営計画				
日本語 / ENGLISH				
KWANSEI GAKUIN				
TOP	機関について	未来予測 外部環境分析	超長期ビジョン	長期戦略
TOP > 長期戦略				
長期戦略の総括				
		2019年度	2020年度	2021年度
(年度別)	総括	PDF	PDF	
	進捗報告書	PDF		
学士課程教育				
社会や世界に貢献して「真に豊かな人生」を送るための基盤を創る				
長期戦略				進捗状況
在籍時の学修成果の把握・評価				PDF
カリキュラムの基本構造の改革				PDF



8-(10) 内部質保証体制の運用

2019
年度

【KGC2039特設サイト】総括と進捗報告の公開②

責任者	統轄部署	実施計画 No.	『2019-2021年度実施計画』	担当部署	学部/研究科	進捗状況
高等教育推進センター長	高等教育推進センター	①	FD体制の強化	学長室	—	PDF
		②	教員研修プログラムの高度化	高等教育推進センター	—	PDF
		③	CAP制の実質化	教務機構	必要⇒【必須型】	PDF



<各実施計画>

<学部・研究科／各学校>

学部・研究科	進捗状況
神学部・神学研究科	PDF
文学部・文学研究科	PDF
社会学部・社会学研究科	PDF
・	
・	

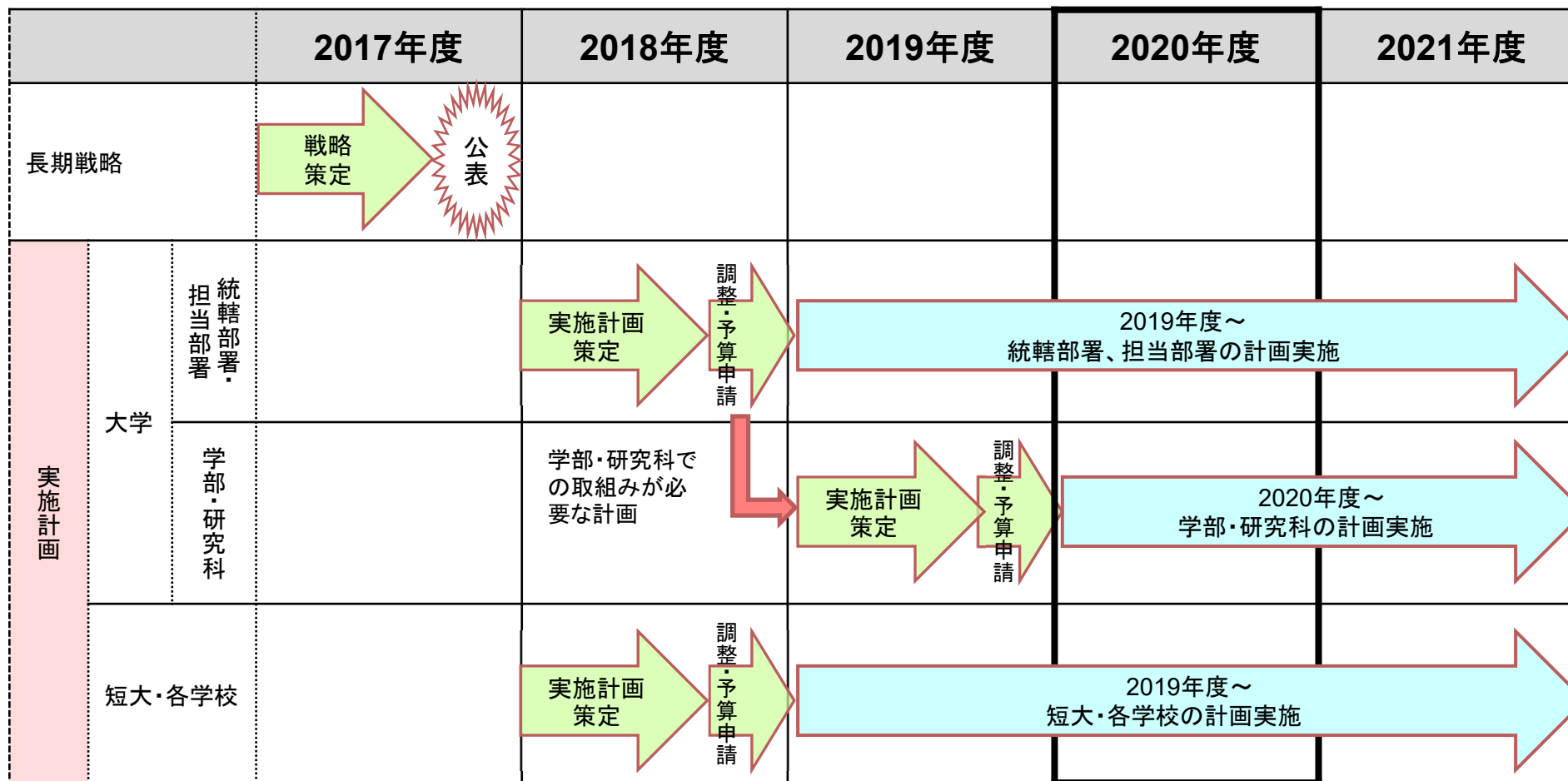


実施計画一覧(一部抜粋)

超長期 ビジョン	No	テーマ	統轄部署	実施計画 No.	実施計画	担当部署
学士課程	(1)	教育の長期的成果の検証 学修成果を把握・評価する仕組みの構築	企画	①	「Kwanseiコンピテンシー」の策定と運用	総合企画部、教務機構
				②	三つのポリシーに基づく教学マネジメントの推進	教務機構
				③	質の高い就労を示す新たな指標の開発	キャリアセンター
				④	卒業生／卒業時調査の企画・実施	高等教育推進センター
				⑤	(SGU4-1) 国際通用性のある教育の質保証システムの構築	高等教育推進センター (TF質保証)
	(2)	「質の高い就労」の実現	キャリア	①	「質の高い就労」実現のための各種施策の実施	キャリアセンター
				②	各学部の独自指標の設定	キャリアセンター
				③	アントレプレナー養成のための各種施策の実施	研究推進社会連携機構
				④	(旧・中期計画：IBMとの共同事業を継承) AIを活用したキャリア支援	キャリアセンター・総合企画部
大学院	(1)	研究者の輩出	学長室(院)	①	特別研究員採用者増のための支援策実施	研究推進社会連携機構
				②	大学院活性化の施策	学長室(院)
				③	新たな任期制助教制度の設置	学長室(院)
	(2)	理系研究室の充実	学長室(院)	①	学部から前期課程への進学率増の施策	理工学部
				②	前期課程から研究開発職への就職率増の施策	理工学部
	(3)	本大学における自学出身 研究者比率の増加	学長室(院)		新たな任期制助教制度の設置(再掲)	学長室(院)
	(4)	高度職業人の養成	学長室(院)	①	経済団体等とのチューニング・プロジェクトの立ち上げ・検討実施	総合企画部
				②	産業界からのニーズの科目化・プログラム化およびプラットフォーム化	教務機構
				③	(SGU3-1)「国連・外交コース」(大学院)の創設<再掲>	国連・外交統括センター (TF国連・外交コース)
研究	(1)	個別研究の活性化	研推	①	科研費申請支援制度の充実(申請支援)	研究推進社会連携機構
				②	外部資金獲得者支援制度の充実(採択後支援)	研究推進社会連携機構
				③	研究実績を評価する仕組みの構築	研究推進社会連携機構
				④	研究力分析ツールの活用方法の検討	研究推進社会連携機構、 学長室、総合企画部
				⑤	国際共同研究(研究者招聘)の支援	研究推進社会連携機構
				⑥	学内研究費や外部資金の間接経費等を傾斜配分する方策の検討	研究推進社会連携機構
	(2)	研究ブランドの確立	研推	①	研究ブランドを推進するための組織体制の充実 (「研究創発センター」の設置)	研究推進社会連携機構(学長室)
				②	「核となる研究群」を育成するための資源を投入する仕組みの構築	研究推進社会連携機構
				③	資源を投入した研究を評価する仕組みの構築	研究推進社会連携機構
				④	恒常的な発信を可能とする研究広報体制の構築	研究推進社会連携機構(広報室)

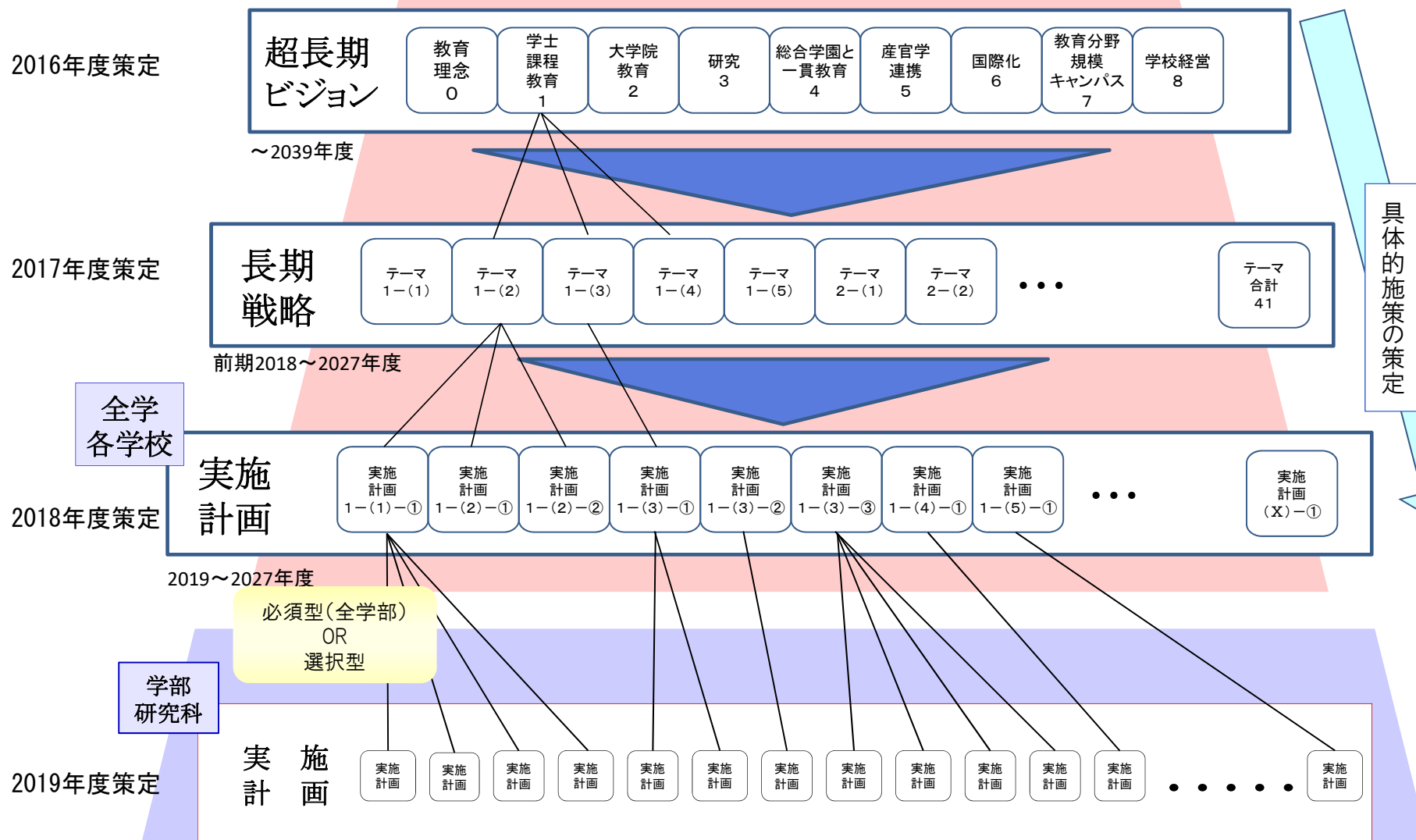


8-(10) 実施計画策定のプロセスとスケジュール



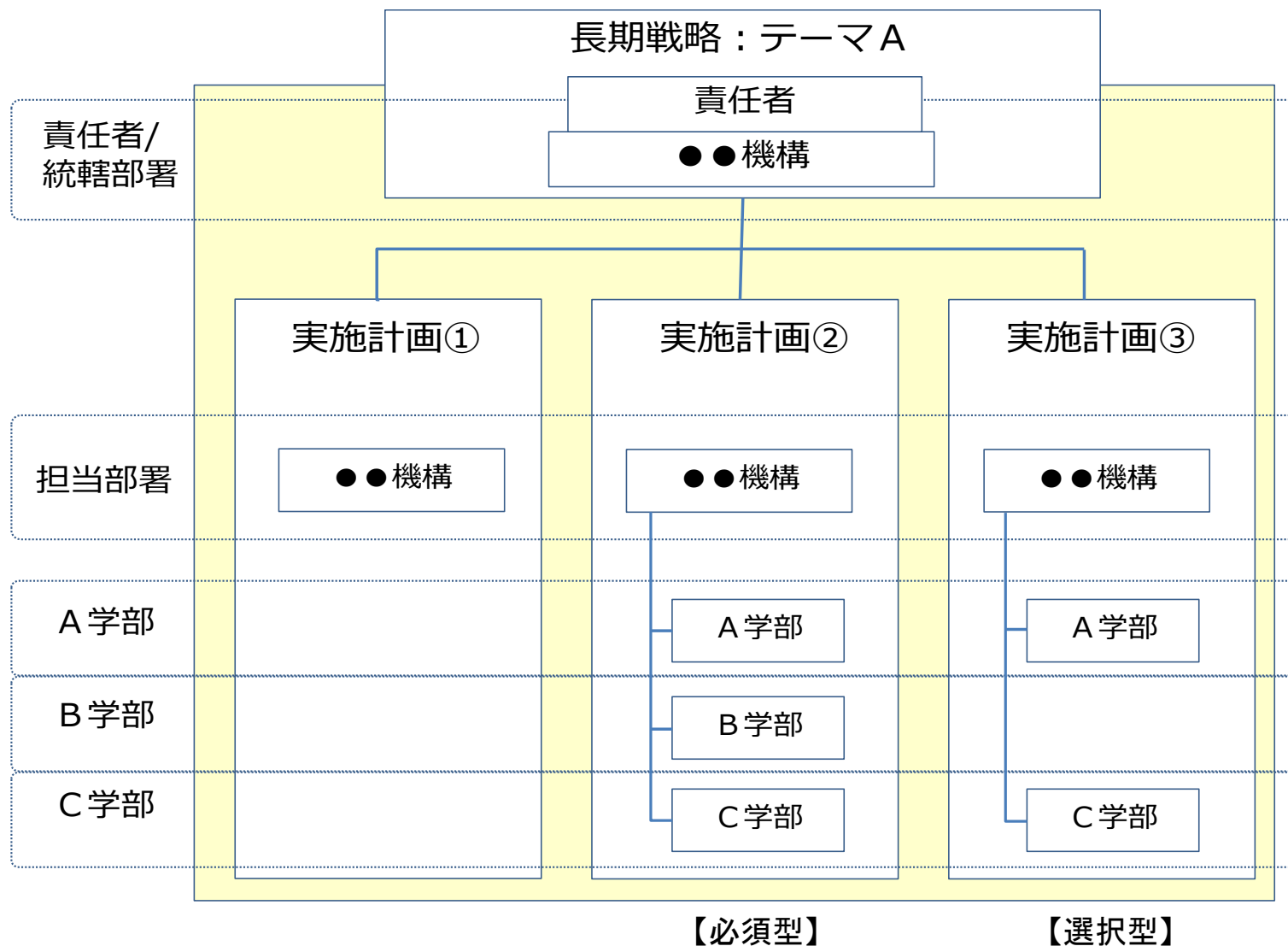


8-(10) 長期戦略と実施計画の構造(1)



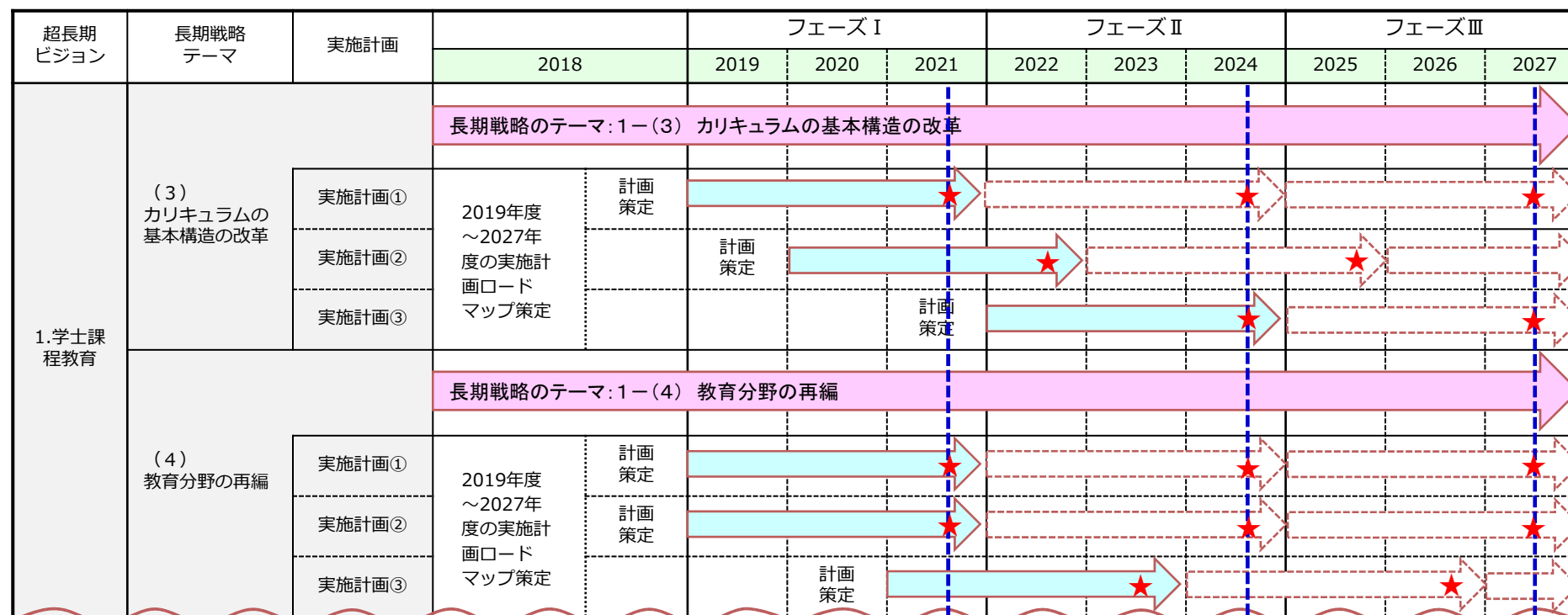


8-(10) 長期戦略と実施計画の構造(2)





8-(10) 中期総合経営計画のローリング



★ = 個々の実施計画の継続可否の決定（3年目に判断）

フェーズⅠの
Total Review

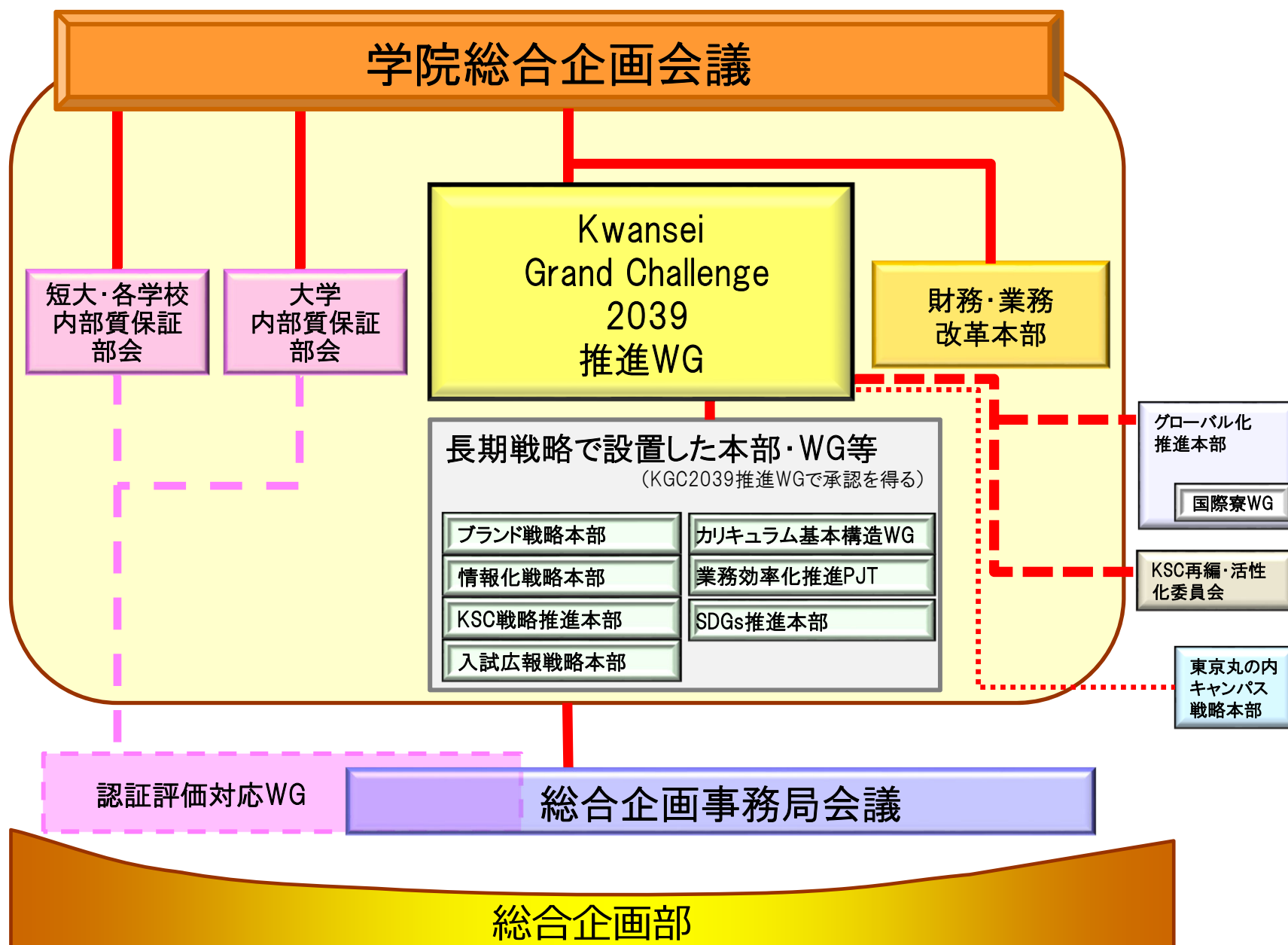
フェーズⅡの
Total Review

フェーズⅢの
Total Review

2020年度までの長期戦略および中期総合経営計画(教学計画、基盤計画)の進捗状況、KGI/KPIの推移、外部・内部環境の変化を総合的に勘案し、長期戦略および中期総合経営計画の見直しの必要性を検討する。



8-(10) 中期総合経営計画関連の会議体



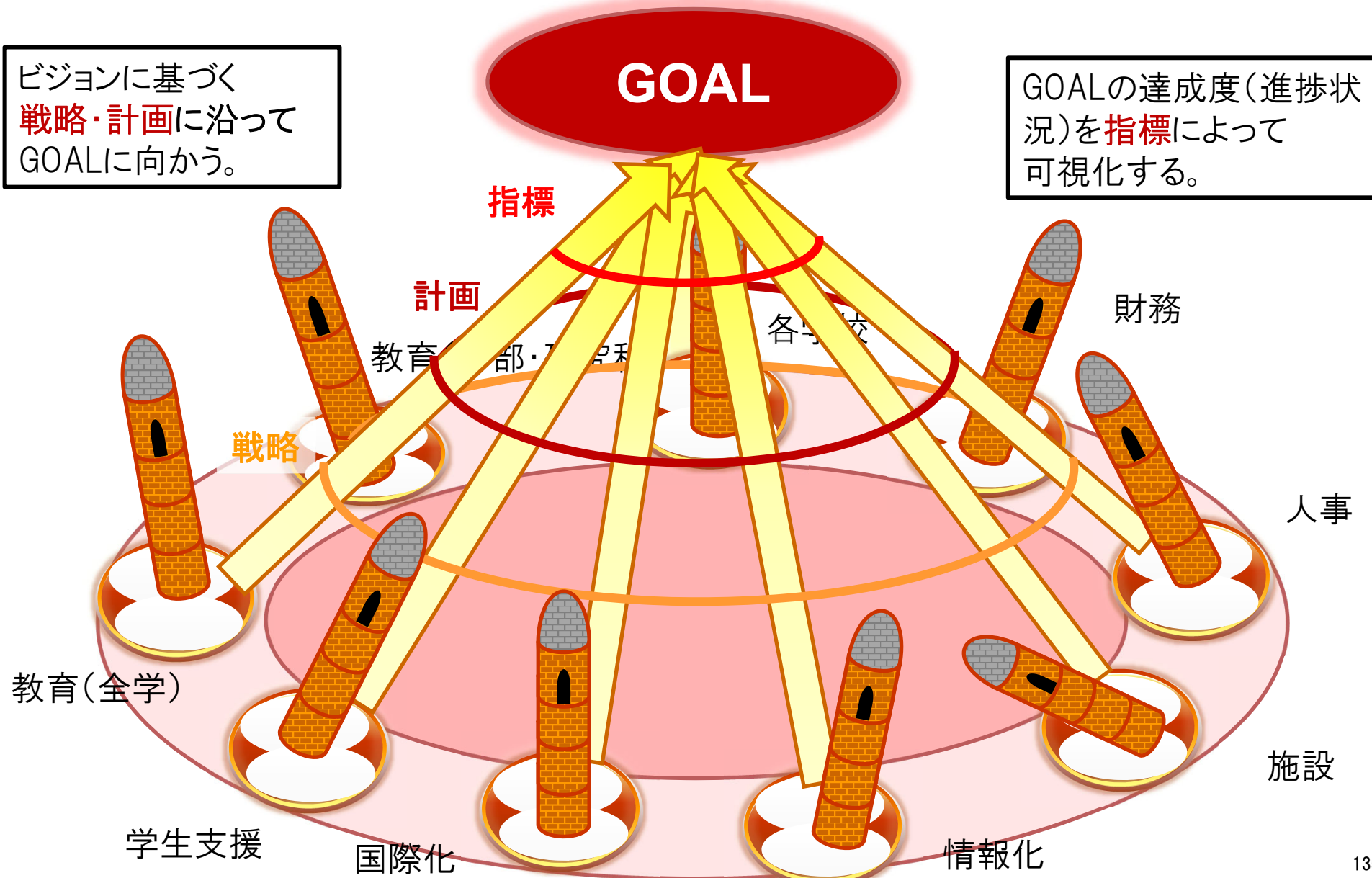


8-(10) サイロ化を防ぎ、マネジメントの質を高める

GOALを明確に定める

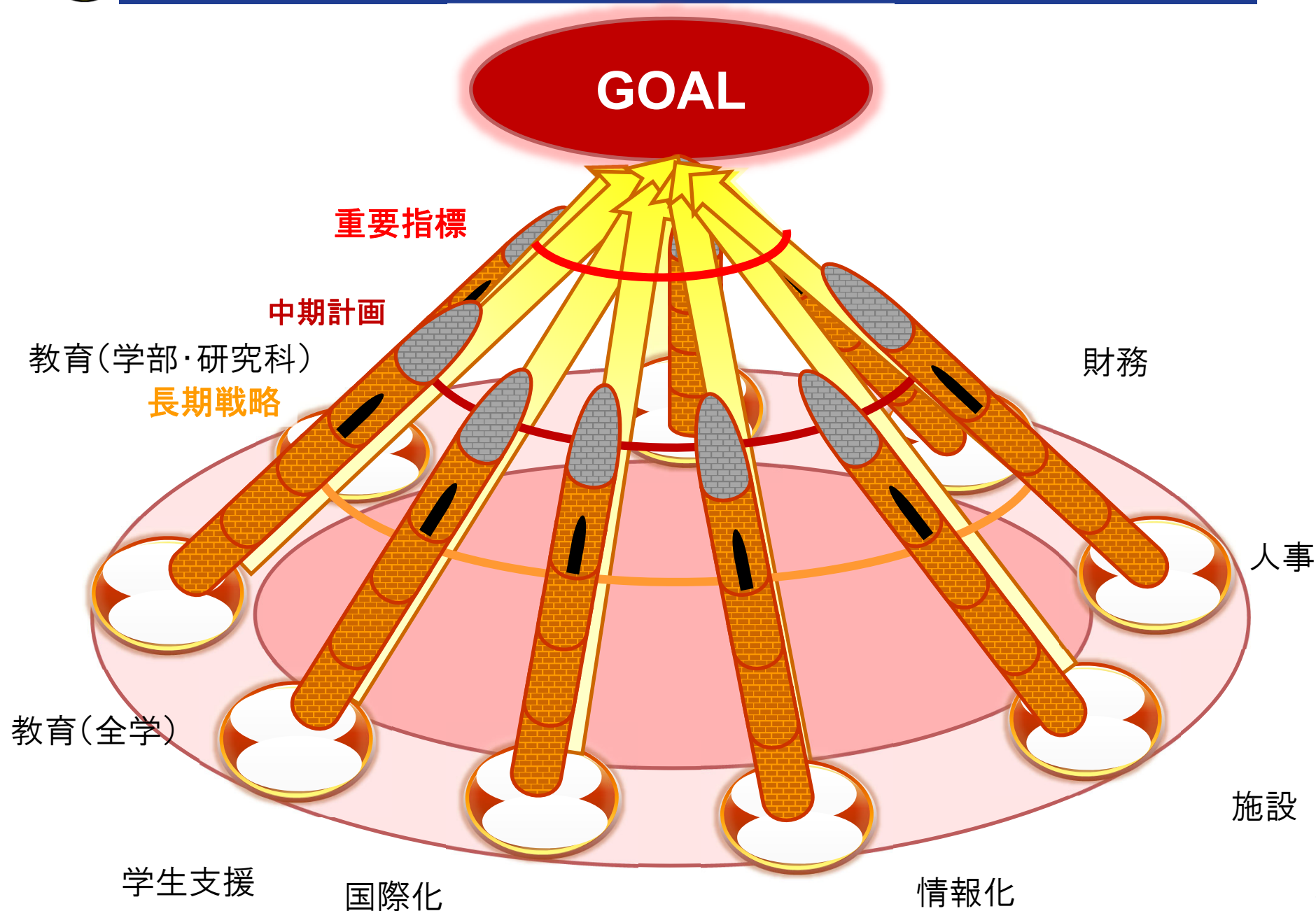
ビジョンに基づく
戦略・計画に沿って
GOALに向かう。

GOALの達成度(進捗状
況)を指標によって
可視化する。





8-(10) 長期戦略・中期計画・重要指標(KGI/KPI)





8-(10) 柔軟で動的なマネジメントモデルへ

2019
年度

(Water Fall型) **PDCA** + **OODA** (Agile型)

Plan (計画)

Do (実行)

Check (評価)

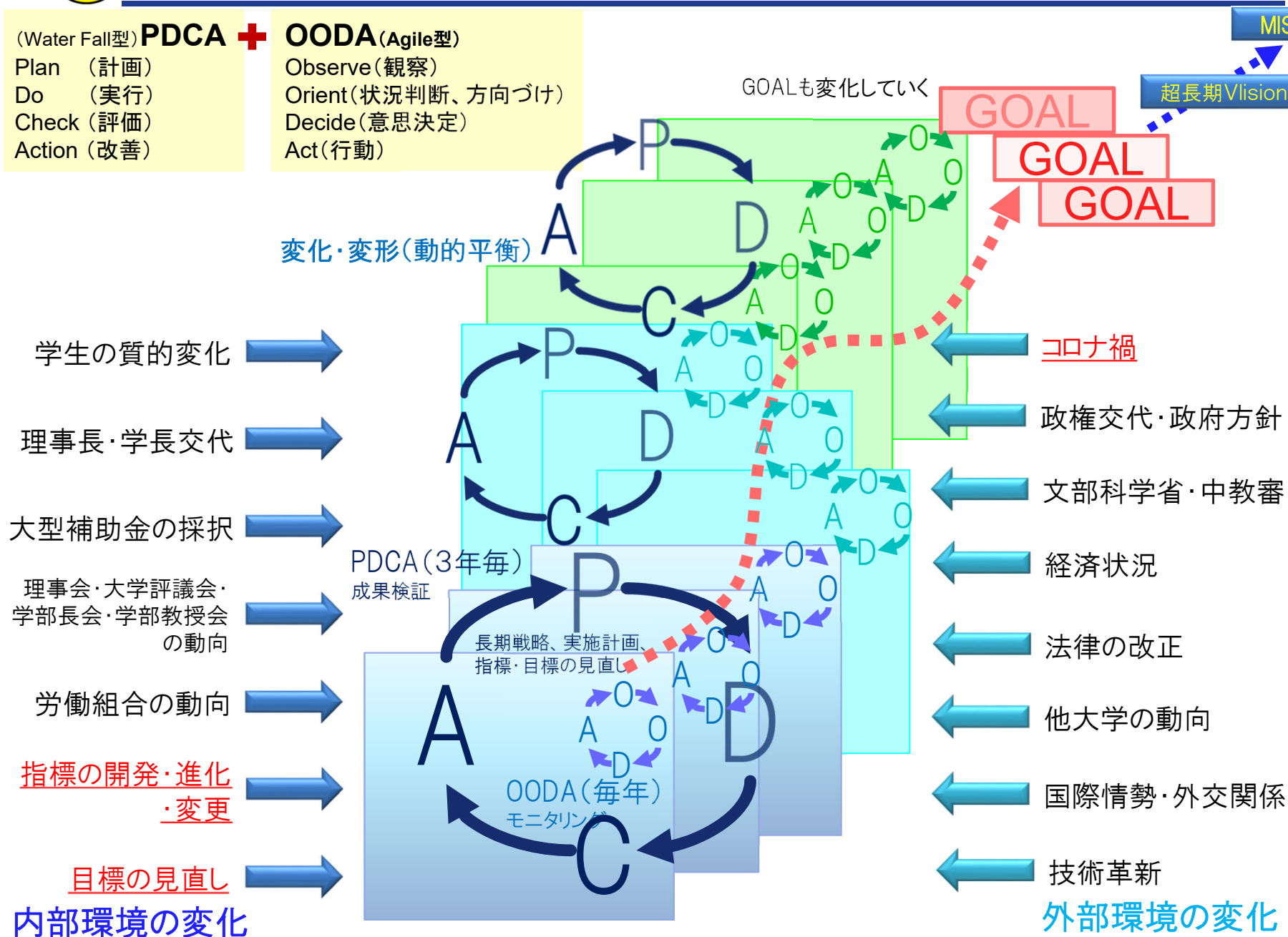
Action (改善)

Observe (観察)

Orient (状況判断、方向づけ)

Decide (意思決定)

Act (行動)





全専任教職員対象：KGC2039進捗報告会

<目的>

将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」中期総合経営計画に関する2018年度分の進捗報告

<説明主体>

学長、総合企画部

<内容>

未来予測・外部環境分析、超長期ビジョン・長期戦略の説明

	日 時	会 場	参加人数
第1回	2019年10月11日（金） 13:30～15:00	◎（NUC）大学図書館ホール （KSC）I号館第4会議室 （NSC）1号館会議室3 他	112人
第2回	2019年10月16日（水） 11:10～12:40	（NUC）本部棟2F会議室6 ◎（KSC）I号館第1会議室 他	101人
第3回	2019年10月18日（金） 17:10～18:40	◎（NUC）大学図書館ホール （KSC）I号館第4会議室 （NSC）1号館会議室3 他	72人

ご清聴ありがとうございました。

関西学院神戸三田キャンパス